

2023年度 專門演習 I 講義要項



政治經濟学部

政治学演習 I

整理番号	科目名	副題
101	政治学演習 I(縣公一郎)	公共政策研究
103	政治学演習 I(稲継裕昭)	行政の諸活動を分析する
104	政治学演習 I(稲村一隆)	政治哲学・思想史
105	政治学演習 I(梅森直之)	「和解学」の展開: 東アジア歴史認識問題の脱構築にむけて The Development of "Reconciliation Studies": Toward the Deconstruction of East Asian Historical Perceptions
106	政治学演習 I(尾野嘉邦)	選挙と投票行動
107	政治学演習 I(国吉知樹)	現代日本外交の分析
108	政治学演習 I(河野勝)	現代日本政治の諸問題
109	政治学演習 I(小原隆治)	自治・分権を考える
110	政治学演習 I(笹田栄司)	現代の司法
112	政治学演習 I(田中孝彦)	冷戦期世界政治の歴史的変容 1917年-1991年
113	政治学演習 I(都丸潤子)	ヒトの国際移動の文化的・歴史的分析
114	政治学演習 I(仲内英三)	近代西欧政治社会の歴史
115	政治学演習 I(中村英俊)	国際政治の理論と現実-英国学派を中心に
116	政治学演習 I(日野愛郎)	メディアと選挙の実証分析 (Empirical Analyses of Media and Elections)
117	政治学演習 I(藤井浩司)	比較公共政策への接近
119	政治学演習 I(谷澤正嗣)	現代リベラリズムとその批判
120	政治学演習 I(吉野孝)	現代デモクラシーの政治過程

経済学演習 I

整理番号	科目名	副題
201	経済学演習 I(安達剛)	経済学を社会問題に応用する力を身に付ける。
202	経済学演習 I(荒木一法)	企業と家計の行動分析(応用ミクロ経済学)
203	経済学演習 I(上田晃三)	日本の経済・物価情勢の分析: ミクロデータからの分析
205	経済学演習 I(荻沼隆)	ゲーム理論と行動経済学を用いた経済分析
206	経済学演習 I(小倉義明)	金融の統計分析
207	経済学演習 I(金子昭彦)	マクロ経済分析と国際金融
208	経済学演習 I(上條良夫)	行動・実験経済学
209	経済学演習 I(小林和夫)	グローバル経済史の研究-植民地主義と経済
210	経済学演習 I(近藤康之)	貿易・環境、経済効果の計量分析
211	経済学演習 I(西郷浩)	社会・経済の統計的分析
212	経済学演習 I(笹倉和幸)	マクロ経済学(新古典派総合)
213	経済学演習 I(鎮目雅人)	世界の中における日本経済の歴史/Japanese economy in the modern world
214	経済学演習 I(田中久稔)	経済学のための数学的方法
215	経済学演習 I(内藤巧)	国際貿易論
216	経済学演習 I(船木由喜彦)	ゲーム理論と実験経済学
217	経済学演習 I(星野匡郎)	ミクロ計量経済学と機械学習
218	経済学演習 I(村上由紀子)	労働に関する研究
219	経済学演習 I(山本竜市)	ファイナンス
220	経済学演習 I(遠山祐太)	産業組織論、経済政策、消費者行動に関する実証研究

国際政治経済学演習 I

整理番号	科目名	副題
301	国際政治経済学演習 I(久保慶一)	現代世界の武力紛争と紛争後平和構築
302	国際政治経済学演習 I(久米郁男)	政治現象分析の技法: 原因を推論する
303	国際政治経済学演習 I(小西秀樹)	経済政策の理論と実証
304	国際政治経済学演習 I(齋藤純一)	近現代の政治理論
305	国際政治経済学演習 I(清水和巴)	人間と社会の政治経済学
306	国際政治経済学演習 I(須賀晃一)	公共政策の政治経済学-公共性の実現に向けて
307	国際政治経済学演習 I(高橋遼)	開発経済学
308	国際政治経済学演習 I(多湖淳)	戦争と平和の科学を楽しく学ぶゼミ
309	国際政治経済学演習 I(唐亮)	現代中国の政治経済と外交戦略
310	国際政治経済学演習 I(遠矢浩規)	国際政治経済学の理論と分析
311	国際政治経済学演習 I(戸堂康之)	開発途上国・新興国・日本経済の発展と強靱化
313	国際政治経済学演習 I(深川由起子)	現代東アジア政治経済研究: 変容するグローバリズムと経済発展

ジャーナリズム・メディア演習 I

整理番号	科目名	副題
401	ジャーナリズム・メディア演習 I(齊藤泰治)	ジャーナリズムの視点からの中国研究 I
402	ジャーナリズム・メディア演習 I(瀬川至朗)	次世代ジャーナリズムの研究と実践(ファクトチェック、オアシト調査報道、ルポ、映像作品)
403	ジャーナリズム・メディア演習 I(高橋恭子)	ジャーナリズムの現在と未来~映像ジャーナリズムを中心に
404	ジャーナリズム・メディア演習 I(土屋礼子)	近現代史におけるメディアとプロパガンダ、およびジャーナリズム
405	ジャーナリズム・メディア演習 I(中村理)	内容分析を中心に用いたメディア・メッセージの実証研究(演習I: ヒューマン・コーディング/演習II: コンピュータ・コーディング)

学際領域演習 I

整理番号	科目名	副題
501	学際領域演習 I(岡本暁子)	行動生態学と隣接諸科学I
503	学際領域演習 I(マルティン・オロバル ペルナット)	近世・近代における宗教思想(西洋・日本の宗教事情を中心に) History of Religious Thought in Modern and Contemporary Times (Religions in the West and Japan)
504	学際領域演習 I(室井慎之)	コミュニケーションとことば
505	学際領域演習 I(本野英一)	「長期の17世紀」以降の海洋秩序と日本
506	学際領域演習 I(ロベスアルフレド)	西洋文学論

政治学演習 I

2023

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
101	政治学演習 I (縣公一郎)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	縣 公一郎
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

公共政策研究

授業概要 Course Outline

今日の社会生活で、政府活動の影響はあらゆる分野に及んでおり、私たちは政府活動との関連なくして一刻も生活を営めない、と言って過言でないだろう。従って、社会的諸関係構築のための戦略、計画、プログラム、個々の意思決定、具体的活動としての公共政策を通じて、政府が、なぜ如何なる行為を如何にして社会にもたらしているのかという点は、現代社会において問うべき重要な課題だろう。

本演習は、かかる政府活動の分析で基礎となる手法の学修と、その応用を目指すものである。

3年次春学期は、公共政策関連の内外文献を用いた報告や他大学との合同ゼミに向けた共同研究で基礎学修を進めつつ、各人の個別テーマ確定に努める。

3年次秋学期以降は、設定された個別テーマに関する研究と報告を経て、最終的にゼミナール論文を作成する。各人が研究対象とする国ないし地域（例えば、首都圏、日本、ドイツ、EU等）と、採り上げる政策領域（例えば、情報通信、通商産業、学術教育、国土、医療、農業、環境、交通、都市、労働等）もしくは政府・行政機構を、ある程度明確に設定しておいて頂きたい。その際、国際的枠組（例えば、ドイツの情報通信政策ならEU、日本の通商産業政策ならばWTOや対米関係）を十分に意識してほしい。原則として3年と4年は別々の会合を持つが、相互に交流を図るため、火曜日IV限とV限をゼミナールの共通時間として確保して頂きたい。

なお、ゼミナール選考に際して提出される研究計画書の最後の部分において、提出時点で設定された各人テーマに関して今後参照したい参考文献を、5冊明示されたい。

また、プレ演習では、Course N@vi上にて、ゼミナール論文構想構築に向けて、レポートの提出を求めたい。詳細は、適時お知らせする。

授業の到達目標 Objectives

各人のゼミナール論文完成。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

自ら設定したテーマに関する学修。

授業計画 Course Schedule

第1回：ガイダンス

第2回～第14回：学生による報告・討論

教科書 Textbooks

追って指示がある。

参考文献 Reference Books

追って指示がある。

<p>評価方法 Evaluation</p>

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	%	
その他 Others	100%	日常的討論と完成されたゼミナール論文に基づいて、総合的に判断する。

<p>備考・関連URL Note・URL</p>

政治学演習 I

2023

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
103	政治学演習 I (稲継裕昭)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	稲継 裕昭
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

行政の諸活動を分析する

授業概要 Course Outline

行政の諸活動は私たちの生活に知らず知らずのうちに大きな影響を与えている。

ある行政活動は、どのような構造のもとに、どのようなアクターが、どのように行動することによって行われているのか。

基礎的なことを学ぶとともに、いくつかの行政課題およびその解決策を特定し、なぜそのような行動がとられたのかその原因を考える。

ゼミのキーワードは、「書を持って街へ出よう」です。理論と実践の統合を目指します。教室による輪読などの座学と、フィールドワークとを組み合わせているのが、当ゼミの特徴です。輪読などによる基礎知識の習得と、現場に出たり（現場の方を迎えたり）して、実践的な動きを把握することとを組み合わせる学びます。プレゼミでは基本書を読み、3年生からは実践を経験しつつそれを理論的に分析することを目指します。3年次にグループ研究を進めて、調査方法や分析方法について学び、4年次には個々人の卒論を仕上げます。

#中央省庁や地方自治体の幹部や若手職員をゲストスピーカーとして招く場合があります。

過去5年間の実績・福井県越前市長・元福井県副知事、国会議員（元防衛大臣）、CodeForJapanスタッフ/滋賀県日野町参与、滋賀県湖南市長、沖縄金融公庫副理事長、奈良県川上村村長、参議院議員、本庄市企画財政部長、高山市飛騨高山プロモーション戦略部、総務省、農水省官僚、元大使、江東区議会議員、京都市（2020年度はオンラインでゲストスピーカーに参加いただきました。）

#中央省庁や地方自治体を訪れてヒアリングなどを行う場合があります。※2020年度、21年度は新型コロナウイルス感染症対策のため実施できていません。

2019年度までの5年間の実績。

霞が関（警察庁、財務省、内閣人事局、総務省（自治）、人事院、会計検査院、文部科学省）、参議院、日本銀行、陸上自衛隊（市ヶ谷）、陸自第一空てい団

地方自治体（熱海市、豊島区、茅ヶ崎市、本庄市、盛岡市、高山市、奈良県川上村、真庭市、岡山県美咲町、長岡市、湖南市、長浜市、あわら市、鯖江市、福井県、東京都庁）

#過去5年ほどは、1年間を通して特定の自治体にフィールドワークに入り、政策提言を行っています。

2016年本庄市、2017年本庄市、茅ヶ崎市、2018年茅ヶ崎市、岡山県真庭市、2019年岡山県美咲町、2020年岡山県美咲町、茅ヶ崎市、2021年茅ヶ崎市、2022年茅ヶ崎市、越前市

#合宿は、3年の夏、3年の冬、4年の夏の3回、2泊3日で行います。合宿への参加は単位取得のために必須です。

過去5年間、合宿は次の場所で行いました。

熱海2泊3日（市役所、商工会議所、観光協会、NPOなどにヒアリング調査）、岐阜県高山市2泊3日（市役所、支所（旧町役場）、飛騨ミートなど）、

新潟県長岡市2泊3日（市役所、山古志支所ほか）、奈良県川上村2泊3日、滋賀県2泊3日（長浜市、湖南市ほか）、

岩手県2泊3日（盛岡市、花巻市、紫波町ほか）、福井県2泊3日（鯖江市、あわら市、福井県、恐竜博物館ほか）、

小諸市2泊3日（小諸市役所、ほか）、岡山県（倉敷市、岡山市）、伊豆川奈セミナーハウス（台風の為使用禁止となり急遽箱根の別荘を借りて合宿）2泊3日、

岡山県、那須塩原市、2020年度は全体での合宿は実施できず。11月に3年生の半数が岡山県美咲町を訪問し、町長や南和気地区の皆様と交流。

2021年度は実施できず。

2022年夏は実施予定。

授業の到達目標 Objectives

行政に関する諸課題について政治学的に考察する力、文章で表現する力を培う。
論理的に考え書き発表する能力を養うこと。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

プレゼミで、『行政学』（曾我謙吾）、『立法学』（中島誠）を読んでもらいます。
その報告の過程で、パワーポイントの作成の仕方、効果的なプレゼンの方法、論理的思考を身に付ける種々の取り組みを行います。
報告に際してはそれぞれ4年生のメンターがつきます。
プレゼミは例年、毎週火曜日の5時限に教室に来ていただいて、上級生に交じって受けてもらっていました。

フィールドワークで出かける時（プレゼミ期間中に、1回か2回）は、3時限終了後すぐに大学を出発します。（遠方へ行く場合は、2時限終了後に大学を出発することもあります）。
例年、プレゼミ期間中にフィールドワークに出かけますが、2022年秋学期は新型コロナウイルス感染症対策のためどのようになるか8月現在未定です。

授業計画 Course Schedule

第1回－第5回：演習イントロ。「行政学」の残りの輪読。

第8回－第14回：ゼミ生で決めてもらいます
1、2回のフィールドワークと、1、2回のゲスト講師。

合宿は参加必須ですが、行き先や時期はゼミ生で話し合って決めます。これまでは、3年春、3年冬、4年夏の3回の合宿をしてきました。

2泊3日の日程は、おおむね1日目、2日目に自治体を訪問しヒアリングなど、3日目は適宜観光等を行っています。

（新型コロナウイルス感染症の拡がる前。2019年度まで）
その他ゼミ生主体で予定を決めていきます。

なお、合宿参加は必須で、合宿に不参加の場合は単位不可となります。大勢で行動することが苦手であるなど合宿参加ができない人は最初から申し込みしないでください。

教科書 Textbooks

曾我謙吾『行政学』有斐閣アルマ

中島誠『立法学（第3版）』法律文化社

すでにプレゼミで輪読を終えているテキスト（北山俊哉ほか著『初めて出会う政治学』、久米郁男『原因を推論する』、戸田山和久『新版 論文の教室』、北山俊哉・稲継裕昭編著『テキストブック地方自治』）も適宜参照することがあります。

参考文献 Reference Books

年報行政研究のバックナンバーも輪読します。

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jspa1962/-char/ja/>

評価方法 Evaluation

試 験 Examinations	割 合 (%) Percent (%)	評 価 基 準 Description
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	60%	特別の事情がない限り欠席を認めていませんので、欠席の際には大きく減点。 課題のMoodleへの期限内提出。(期限に遅れると減点) 報告内容、討議への参加度
そ の 他 Others	40%	行事(合宿、フィールドワーク、その他)への参加度も評価の対象となります。合宿への参加は必須。

備考・関連URL Note・URL

ゼミ生たちが自主的に作成・運営しているゼミのホームページ（作成に稲継はまったく関与していませんが、ゼミ活動やゼミの雰囲気を知る上でとても参考になると思います）

<http://inatsuguzemi.wix.com/wasedapse-undergrad>

政治学演習 I

2023

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
104	政治学演習 I (稲村一隆)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	稲村 一隆
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

政治哲学・思想史

授業概要 Course Outline

政治哲学は社会規範について探究する学問です。特に自由主義と民主主義という現代社会の原理を中心に、その様々なバリエーションを調査することになります。国際援助と分配の正義、能力主義、正戦論、フェミニズムと結婚、人権と動物の権利、といったトピックについて、現代社会で生じている問題を知ると同時に、そうした問題の背後にある考え方を知ることが主眼です。そこで具体的な事例から出発しつつも、概念的に考察することになります。

本演習では、まずインプットが重要なので、政治哲学の基本文献を通して上記のトピックを学んでいきます。二つのタイプの文献を扱います。一つは西洋政治思想史の古典を講読します。どのテキストを扱うかは参加者の関心に応じて決めています。以下のようなテキストを扱います。プラトン『国家』、アリストテレス『政治学』、ホップズ『リヴァイアサン』、ロック『統治二論』、カント『永遠平和のために』、ミル『自由論』、アーレント『人間の条件』、ロールズ『正義論』など。もう一つは現代の専門的なジャーナルの論文を英語で読みます。論旨を正確に読み取る訓練をします。一人で読んで理解するのは難しくても、みなで議論しながら考察すると、学部生の間に十分に理解を深めることができるようになります。

本演習の特色の一つとして、論文の執筆を重要視しています。教員の英国での経験を生かして、政治哲学・思想史分野での論文の書き方を学習します。

トピックの選定については参加者各自の自主性を尊重しつつ、任意のトピックについて十分に資料を収集してから、毎学期、レポートを書きます。

自分と異なる見解を持つ人も説得できるように、丁寧に議論を作る訓練をします。

授業の到達目標 Objectives

- 1) 当該分野の古典を読む訓練を積むこと。
- 2) 当該分野の英語論文を読む習慣を身につけること。
- 3) 当該分野で論文を書く技法を身につけること。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

あらかじめ指定された文献を読んで議論したい点を考えてくること。毎回、予習が必要になります。

また期末レポートに向けて、自分でトピックを選び、それに必要なことを自分で調査することが求められます。

何をトピックにするかは参加者の自主性を尊重しています。

授業計画 Course Schedule

具体的な計画は学期のはじめに参加者と相談の上、決定します。

3年次は文献の講読を中心に行います。テキストを読む訓練を積み重ねます。

4年次は文献の講読だけでなく、卒業論文の作成にも取り組みます。先行研究を踏まえた上で、新しい議論を提示することが求められます。

期末レポートをもとに授業内での討論を通して、徐々に完成できるようになります。

教科書
Textbooks

初回の授業で指定します。

参考文献
Reference Books

政治哲学の入門書として以下を参照：

マイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』早川書房、2011年。

ジョナサン・ウルフ『「正しい政策」がないならどうすべきか』勁草書房、2016年。

アマルティア・セン『人間の安全保障』集英社新書、2006年。

論文の書き方や、政治哲学・思想史の方法論の著作として以下を参照：

野矢茂樹『新版 論理トレーニング』産業図書、2006年。

井上彰、田村哲樹（編）『政治理論とは何か』風行社、2014年。

デイヴィッド・レオポルドほか（編）『政治理論入門』慶應義塾大学出版会、2011年。

犬塚元ほか「政治思想史の新しい手法特集号」『思想』no. 1143、2019年7月。

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	30%	議論の明確性と新奇性
平常点評価 Class Participation	70%	発表と議論への積極的な参加
その他 Others	%	

備考・関連URL
Note・URL

政治学演習 I

2023

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
105	政治学演習 I (梅森直之)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	梅森 直之
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

「和解学」の展開：東アジア歴史認識問題の脱構築にむけて

The Development of "Reconciliation Studies": Toward the Deconstruction of East Asian Historical Perceptions

授業概要 Course Outline

「紛争」が、社会生活をおくる人間の宿命であるかぎり、「和解」もまた人間の普遍的な営みの一部である。しかし和解はつねに、一定の歴史的・文化的刻印を帯びてあらわれる。紛争を生み出す社会の編制は多様であり、また歴史的に変化するものであるからである。和解学とは、和解をめぐる積み重ねられてきた人類の思索と実践を総合的にとらえ直し、未来に向けた社会構築のヴィジョンを構想する新しい学知である。「和解学」とは、単に既存の紛争を解決するための技術論を意味しない。むしろそれは、「和解」という現象そのものの構造を、それに対する原理的な反対を含め、根源的に考察するアプローチである。本ゼミでは、東アジアが現在直面しているさまざまな「紛争」を取り上げ、その解決を、思想史的方法に依拠しつつ検討していく。具体的には、東アジアの歴史を、「ナショナリズム」、「ジェンダー」、「資本主義」という三つの視座から解きほぐすことを試みる。東アジアの歴史を、和解学の基礎理論と重ね合わせながら議論することを通じて、歴史問題をめぐる解決の糸口を構想する。

As long as "conflict" is the fate of human beings in social life, "reconciliation" is also a part of universal human activity. Reconciliation, however, always appears with a certain historical and cultural imprint. The social arrangements that give rise to the conflict are diverse and historically variable. Reconciliation studies is a new academic knowledge that comprehensively reassesses humankind's accumulated thought and practices regarding reconciliation and envisions a vision of social construction for the future. Reconciliation Studies" does not simply mean a technical theory for resolving existing conflicts. Rather, it is an approach that fundamentally examines the very structure of the phenomenon of "reconciliation," including the principled opposition to it. In this seminar, we will take up various "conflicts" that East Asia is currently facing and examine their resolution, relying on the method of the history of ideas. Specifically, we will attempt to unravel the history of East Asia from the three perspectives of "nationalism," "gender," and "capitalism. Through discussion of East Asian history, superimposed on the basic theories of reconciliation studies, we will envision clues to resolving historical issues.

授業の到達目標 Objectives

テキストの「読み方」の習得
自分の考えを効果的に伝える「書き方」の練習
生産的に「議論する」訓練
思想史的方法、ならびに社会理論についての基本概念の習得
日本の歴史についての基本的知識の習得
「和解学」の基礎としてのナショナリズム論、ジェンダースタディーズ、資本主義論への理解

Learning how to "read" texts
Practice "how to write" to effectively communicate your thoughts
Practice "discussing" productively
Acquisition of basic concepts of the historical method of thought and social theory
Basic knowledge of Japanese history
Understanding of nationalism, gender studies, and capitalism as the basis of "reconciliation studies"

事前・事後学習の内容
Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示する

The instructor will give instructions in class as appropriate.

授業計画
Course Schedule

本ゼミでは、以下の四つの次元において、東アジアの歴史問題の構造を明確化することをめざす。ゼミの進め方としては、関連テキストの輪読と学生の報告に基づく議論が中心となる。

問題に接近する第一の次元は、「歴史とは何か」を根源的に問い直すことである。歴史は、客観的な事実であると同時に、一定の意味を発生させる物語でもある。「歴史」そのものの重層的な構造を解明することを通じて、東アジアの各国の歴史認識が対立する理由とその和解に向けた可能性について議論する。

第二の次元は、「ナショナリズム」である。東アジアの近代を、戦争と帝国主義と植民地主義により織りなされたひとつの歴史空間として把握することを通じて、各国のナショナリズムの特質を構造的に把握することをめざす。

第三の次元は、「ジェンダー」である。「従軍慰安婦」問題は、日韓の国民的対立であると同時に、東アジアにおける女性の社会的位置づけの反映でもある。東アジアにおける女性の歴史を、こんにちのジェンダーギャップ問題と重ね合わせながら振り返っていく。

第四の次元は、「資本主義」である。東アジアに共通する根強い発展志向が、どのように「紛争」を惹起し、またそれを隠蔽してきたかを確認する。

本ゼミでは、具体的なテーマに則したディスカッションに加え、学術論文の書き方、プレゼンテーション・スキルアップの方法等についてのワークショップを、必要に応じて適宜行う。

This seminar aims to clarify the structure of East Asian historical issues in the following four dimensions. The seminar will be conducted mainly through discussions based on the reading of related texts and student reports.

The first dimension of approaching the problem is to question "what is history fundamentally? History is both an objective fact and a narrative that generates certain meanings. Through the clarification of the multilayered structure of "history" itself, we will discuss the reasons for the conflicting historical perceptions of East Asian countries and the possibilities for reconciliation.

The second dimension is "nationalism. By understanding modernity in East Asia as a historical space woven by war, imperialism, and colonialism, we aim to grasp the structural characteristics of nationalism in each country.

The third dimension is "gender. The "comfort women" issue is not only a national conflict between Japan and South Korea but also a reflection of the social position of women in East Asia. The history of women in East Asia will be reviewed in light of the current gender gap issue.

The fourth dimension is "capitalism. We will identify how the deep-rooted development orientation common to East Asia has both attracted and obscured "conflicts.

In this seminar, in addition to discussions on specific themes, workshops on how to write academic papers, how to improve presentation skills, etc. will be held as needed.

教科書
Textbooks

授業期間中に指示する。

Instructions will be given during the class period.

参考文献
Reference Books

梅森直之『初期社会主義の地形学』（有志舎、2016）

梅森直之編著『ベネディクト・アンダーソン グローバリゼーションを語る』（光文社、2007）

ハリー・ハルトゥーニアン『近代による超克』（岩波書店、2007）

Benedict Anderson, *Imagined Community*

Harry Harootunian, *Overcome by Modernity*

評価方法 Evaluation

試 験 Examinations	割 合 (%) Percent (%)	評 価 基 準 Description
試 験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	%	
そ の 他 Others	100%	授業参加ならびにレポートを総合的に評価する。 Class participation and reports will be evaluated comprehensively.

備考・関連URL Note・URL

これまでの基礎知識は問いませんが、これからの学習に対する強い意欲と好奇心ならびに知的柔軟性と持久力が必要です。無断欠席3回以上で、評価の対象から外します。

自国の事例を、他国に向けて発信したり、自国以外の国の人々と積極的に議論する意欲と能力を持つ学生を歓迎します。

No previous basic knowledge is required, but a strong desire and curiosity for future learning and intellectual flexibility and endurance are necessary.

More than three unexcused absences will be disqualified from the evaluation.

We welcome students willing and able to communicate their own country's case studies to other countries and actively discuss them with people from other countries.

政治学演習 I

2023

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
106	政治学演習 I (尾野嘉邦)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	尾野 嘉邦
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

選挙と投票行動

授業概要 Course Outline

投票行動に焦点を当てた政治行動論の演習です。人間はいろいろな場面で選択を迫られますが、選挙における投票という行為も選択の一つです。選択を迫られたとき、人はどのように決めるのだろうか、選択を左右するものは何だろうか、より良い選択をするにはどうしたらよいか。フェイクニュースやデジタルテクノロジーなどによって、人々の自発的選択が無意識のうちに誘導されてしまうことはないのだろうか。選挙で当選を目指す候補者ならば、どう行動したらよいか。選挙という場面に焦点を当て、選挙における人々の選択(投票行動)と民主主義の行方について、心理学や行動経済学なども参考にしながら考え、学術研究として新しい知見のアウトプットを目指す演習です。その過程で、データの実証分析やサーベイ実験を始め、研究成果のプレゼンテーション、論文執筆などにもチャレンジしてもらいます。

授業の到達目標 Objectives

学際融合型の社会科学研究の最前線に触れつつ、社会科学の考え方を学ぶとともに、物事を多様な面から客観的かつ批判的に考えることができる思考力を養う。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

演習時間外に実験課題などに取り組むことが求められる。

授業計画 Course Schedule

政治学の分野では、学部生の卒業論文や研究が学術雑誌に掲載されるケースが増えてきました。また、最近では米国中西部政治学会といった海外の学会などで、学部生が研究発表を行う機会も設けられています。2年間の演習を通じて、一緒に出版可能な学術研究に取り組んでいきましょう。

前期は、社会科学の基礎的な考え方や研究方法を学びつつ、政治学や心理学、脳科学を中心として、投票行動・政治行動に関する社会科学の最先端の研究内容や、国際学術誌への投稿プロセスなどについて紹介します(学術論文の査読にも挑戦してもらいます)。ニューロサイエンスや生命科学、AIを活用したテキスト分析・顔形態分析など、工学や自然科学の知見が社会科学にどのように活用されるのか、そしてどのような貢献が可能なのかについても検討していきます。その過程で、先行研究を読んでレビューするとともに、さらに研究してみたいリサーチクエスチョンについて考えてもらいます。

後期は、各自のリサーチクエスチョンをもとに、実際の研究に取り組みます。データをどのように集め、分析したらよいか、リサーチデザインを練り、サーベイ実験などを通じて、仮説を検証する作業を行ってもらいます。

1. イントロダクション
- 2-6 政治学における投票行動関連研究
- 7 研究アイデア発表
- 8-10 心理学における投票行動関連研究
- 11-13 脳科学における投票行動関連研究
- 14 まとめ

教科書
Textbooks

参考文献
Reference Books

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	30%	プレゼンテーションに基づき評価する。
平常点評価 Class Participation	70%	議論への参加・貢献度合いに基づき評価する。なお、無断欠席を2回以上行ったものは、0点とする。
その他 Others	%	

備考・関連URL
Note・URL

この演習では基本的に英語の文献のみ扱うとともに、英語でのアウトプットを目指します。参加者には英語読解能力が求められますが、英文を読んだり、書いたり、話したりすることに慣れていない人も、演習での訓練を通じて、そのスキルを磨いていきましょう。

政治学演習 I

2023

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
107	政治学演習 I (国吉知樹)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	国吉 知樹
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

現代日本外交の分析

授業概要 Course Outline

本演習では現代日本の国際関係・外交について理論および歴史の両面から考察する。

演習では、最初に基礎的なテキストの輪読と議論を通じて国際政治学の基礎概念について理解を深める。つづいて戦後日本外交史の論争点について日米関係および日本と近隣アジア諸国の関係に焦点を当てて分析を行う。さらに現代日本外交に関わる分析概念や論争的なイシューについて代表的な文献をたたき台にして議論をする。ここでは日本の安全保障問題、日中間の経済相互依存の意義、日韓文化交流の意義、日ロ間領土問題、沖縄の基地問題および日本の難民政策、「民主化支援」などを取り上げる予定である。

また、春学期の中盤から秋学期の初めにかけて、ゼミ内で3～4人からなる複数のグループを組み、それぞれのグループが戦後日本外交に関わる論争的なイシューについてテーマを決め、外交文書の調査・分析を行い、共同論文の作成に取り組む。

演習Iでは以上のようなプロセスを通じて外交を分析するための手法・視点を磨き、卒業論文執筆のための準備を進めていく予定である。日本が現在直面する外交上の諸問題を理解するために、国際関係の理論と歴史の習得に熱意を持って取り組み、積極的に議論に参加する意欲を持った学生を歓迎する。

授業の到達目標 Objectives

1. 国際関係論の基礎概念を理解する。
2. 現代日本外交の形成と意義を理解するために必要な理論的・歴史的分析手法を習得する。
3. グループ論文への取り組みを通じて、学術論文を執筆するために必要な研究の手順、調査の方法を学び、執筆の心構えを身に付ける。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

- ・受講生はゼミでの議論に積極的に参加するために、事前に必ず課題文献を読んで演習に臨むことが求められる。
- ・グループ論文の作成にあたっては、グループ間で事前に文献や資料を検討し、共同で発表準備を行う。
- ・グループ論文の作成にあたって、授業でのフィードバックを基にして、新たな調査を行い、論文の執筆と修正を行う。

授業計画 Course Schedule

- 第1回：ガイダンス
 第2回：文献講読とディスカッション：国際政治学の基礎概念
 第3回：文献講読とディスカッション：国際政治学の基礎概念
 第4回：文献講読とディスカッション：国際政治学の基礎概念
 第5回：文献講読とディスカッション：国際政治学の基礎概念
 第6回：文献講読とディスカッション：国際政治学の基礎概念
 第7回：文献講読とディスカッション：国際政治学の基礎概念
 第8回：文献講読とディスカッション：国際政治学の基礎概念
 第9回：戦後日本外交・グループ論文の作成：テーマ設定について
 第10回：戦後日本外交・グループ論文の作成：資料調査について

- 第11回：戦後日本外交・グループ論文の作成：先行研究の検討（1）
 第12回：戦後日本外交・グループ論文の作成：先行研究の検討（2）
 第13回：戦後日本外交・グループ論文の作成：先行研究の検討（3）
 第14回：戦後日本外交・グループ論文の作成：調査の中間報告とディスカッション

教科書
Textbooks

ピーター・カツェンスタイン 『文化と国防：戦後日本の警察と軍隊』（日本経済評論社、2007年）
 大矢根聡編 『戦後日本外交から見る国際関係：歴史と理論をつなぐ視座』（ミネルヴァ書房、2021年）
 国分良成・添谷芳秀・高原明生・川島真 『日中関係史』（有斐閣、2013年）
 マイケル・シャラー 『「日米関係」とは何だったのか：占領期から冷戦終結後まで』（草思社、2004年）
 ジョン・ダワー 『敗戦を抱きしめて』（増補版 上・下）（岩波書店、2004年）
 ヴィクター・D. チャ （倉田秀也訳） 『米日韓 反目を超えた提携』（有斐閣、2003年）
 波多野澄雄・佐藤晋 『現代日本の東南アジア政策』（早稲田大学出版部、2007年）
 波多野澄雄編 『日本の外交 第2巻：外交史 戦後編』（岩波書店、2013年）
 宮城大蔵編 『戦後日本のアジア外交』（ミネルヴァ書房、2015年）
 吉田真吾 『日米同盟の制度化：発展と深化の歴史過程』（名古屋大学出版社、2012年）
 若宮啓文 『戦後70年 保守のアジア観』（朝日新聞出版、2014年）
 李鍾元・木宮正史・磯崎典世・浅羽祐樹 『戦後日韓関係史』（有斐閣、2017年）
 Christopher W. Hughes, Japan's Re-emergence as a Normal Military Power, Routledge, 2006.
 Joseph S. Nye and David A. Welch, Understanding Global Conflict and Cooperation: An Introduction to Theory and History, 9th edition, Pearson Education, 2012.

参考文献
Reference Books

ゼミにおいて適宜紹介する。
 グループ・ワークの際には、外務省が編纂・刊行した戦後期の『日本外交文書』を適宜参照する。

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	30%	グループ論文作成への取り組み
平常点評価 Class Participation	70%	プレゼンテーション (30%); 出席および議論への参加、ゼミ運営への貢献 etc. (40%)
その他 Others	%	

備考・関連URL
Note・URL

- ・この授業は教室にて対面で行う予定です。
- ・グループ論文の作成にあたっては、外務省・外交史料館で資料調査を行う。

政治学演習 I

2023

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
108	政治学演習 I (河野勝)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	河野 勝
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

現代日本政治の諸問題

授業概要 Course Outline

日本の政治を政治学的に考察する。往々にして、現代の日本政治を語る語り口は、評論的でジャーナリスティックになりがちになるが、本演習では理論やモデルをふまえて、政治学的分析の題材として日本政治の諸相をとらえることを心がける。

実際にどのような問題を扱うかは、参加する学生諸君の関心にゆだねる。選挙、政党政治から公共政策、防衛・外交に至るまで、広くかたよりのないトピックを数多く扱えることが理想であるが、教官がプレゼンテーションの内容を押しつけることはしない。しかし、その代わりに、自分の関心のある領域について知識を深めようとするのであるから、教官以上に専門的な情報を提供できるよう、熱心な取り組みが期待される。

なお、政治学的に考えるということは政治的に考えるということと全く異なる知的営為である。ひとりよがりのイデオロギーや特定の規範的価値を前面に押し出すのではなく、価値判断をするための経験的知識や考察を積み重ねることが目的であるとの前提で、演習へ参加してもらおう。

授業の到達目標 Objectives

本演習に参加する学生は、演習I~IVまで2年間(4期)継続して登録することが期待される。卒業時まで、自分の力で、データを集め、事例を分析し、オリジナルで説得力のある議論を展開する能力を身につけ、学術的な論文を完成させることが到達目標である。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示する

授業計画 Course Schedule

第1回：オリエンテーション

ゼミの目標と予定を説明する。役職分担を決める。合宿などの予定を決める。リーディング文献の説明をする。前期の発表者を決定する。そのほか、ゼミの進行・運営に関わることを決定する。

第2回：政治学とはどういう学問か

『現代日本』1, 2, 13章

『政治を科学』はじめに

第3回：選挙・世論 // 実証分析の基礎1：どのように「問題」を発見・提示するか、論文をどう構成するか

『現代日本』3, 4, 7章

『政治を科学』1章

第4回：政党・議会 // 実証分析の基礎2：理論の差別化と仮説の構築について

『現代日本』5, 6章

『政治を科学』5章

河野「戦後日本の政党システムの変化と合理的選択」

第5回：官僚・利益団体 // 実証分析の基礎3：クロスセクションと時系列、相関と回帰分析について

『現代日本』8, 9, 10章;

『政治を科学』3章;

第6回：外交・外交と内政の連関 // 実証分析の基礎4：レプリケーションおよび事例選択について

『現代日本』14, 15章

- 『政治を科学』 4章
 第7回：実証分析の基礎 5：印象論からの脱却、他の説明の棄却、反直感的な解釈・結論の大切さについて
 『政治を科学』 2, 7章
 第8回：自由、憲法、民主主義を考える
 『政治を科学』 8, 9, 10章
 第9回：3年生：卒論ブレインストーミング
 4年生：卒論中間発表
 第10回：3年生：卒論ブレインストーミング
 4年生：卒論中間発表
 第11回：3年生：卒論ブレインストーミング
 4年生：卒論中間発表
 第12回：3年生：卒論ブレインストーミング
 4年生：卒論中間発表
 第13回：3年生：卒論ブレインストーミング
 4年生：卒論中間発表
 第14回：3年生：卒論ブレインストーミング
 4年生：卒論中間発表

教科書
Textbooks

『政治を科学することは可能か』（河野勝、中央公論新社）、2018年
 改定新版『現代日本の政治』（久米郁男・河野勝 放送大学教育振興会）2011年

参考文献
Reference Books

『制度』（河野 勝、東京大学出版会）2002年
 『アクセス』シリーズ各巻（日本経済評論社）

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	50%	先行研究の理解、独創性、分析の精度、文章・表現力。
平常点評価 Class Participation	50%	授業参加。プレゼンテーション能力。他学生のプレゼンテーションに対するコメントの頻度および質。
その他 Others	%	

備考・関連URL
Note・URL

学生に対する要望：人生に対して真剣であること。自分を大切に、他人を尊重すること。
 関連URL：<http://kohno-seminar.net/>

政治学演習 I

2023

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
109	政治学演習 I (小原隆治)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	小原 隆治
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

自治・分権を考える

授業概要 Course Outline

自治・分権をめぐるさまざまな問題を多面的な角度から考察する。政治学演習I(春学期)は、参加者が複数のテキストを輪読形式で読み進める。今年度は、まず最初に担当教員が著した論文1本を取り上げて検討する。そのあと3人の著者の手になる教科書的なテキスト1冊を扱い(第16、18章はスキップする)、各自の問題意識を深めてもらう。政治学演習I(春学期)のあとの政治学演習II(夏合宿-秋学期)では、参加者が春学期の学習を踏まえてそれぞれ関心あるテーマを選択し、テーマ別に編成したグループ単位で研究報告を積み重ねる。ゼミの学習面でも運営面でも、参加者の自主性に大いに期待したい。ゼミもまた「自治」の実践の場だからである。ゼミに出席することは参加者の権利だが、そこには相応の責任がともなう。無断欠席は認められない。また、相当の理由なく学期回数3分の1以上欠席した者は、ゼミに参加する権利を自動的に失う。春学期に失格した者は、秋学期に参加する権利を持たない。

授業の到達目標 Objectives

自治・分権をめぐる全体的な問題状況を把握する。そのうえで個別具体的な制度・政策・事例のレベルに落としとして課題を考察する方法態度を身につける。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

参加者が自身の報告にあたって事前に十分準備をするのは当然だが、毎回事後に関して報告者が誰であるかを問わず、すべての参加者がクラスで提起された論点等に関し、ムードル上に設置する意見・質問箱のスペース等を利用した議論に積極的に参加することが望まれる。

授業計画 Course Schedule

第1回：ガイダンス
第2回：小原(2012)を1回で輪読する。第3回-第12回：磯崎・金井・伊藤(2020)を2章ずつ、10回で輪読する(第16、18章はスキップする)。
第13回-第14回：今後の打ち合わせ(グループ研究のテーマに関する討論、グループ編成、夏合宿の打ち合わせなど)

教科書 Textbooks

小原隆治(2012)「自治・分権とデモクラシー」齋藤純一・田村哲樹編『アクセス デモクラシー論』日本経済評論社
磯崎初仁・金井利之・伊藤正次(2020)『ホーンブック 地方自治(新版)』北樹出版
小原(2012)は、担当教員が受講者にPDFを用意する。

参考文献 Reference Books

開講時をはじめ随時紹介する。

評価方法 Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	100%	前述の出席要件を満たしていることを前提として、日頃のゼミへの貢献度を評価する。
その他 Others	%	

備考・関連URL Note・URL

開講中はアナウンスメント等の箇所を含め、ワセダムードルを丹念にチェックする。
 関連URL：随時紹介する。

政治学演習 I

2023

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
110	政治学演習 I (笹田栄司)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	笹田 栄司
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

現代の司法

授業概要 Course Outline

行政や国会に比べ変わることのなかった司法制度は、20世紀末に始まる改革によって大きく変容した。消極的と批判されることの多かった違憲審査も司法制度改革や憲法改正論議を経ていくらか積極的な動きを見せている。また、2018年からは刑事訴訟に「司法取引」が導入されカルロス・ゴーン逮捕に結びついた。さらに、司法のIT化が本格化してきた。AIが司法に導入された国も出てきている。本演習は、近年、注目されることの多い司法について、法学、政治学、そしてメディアなどによる分析を検討することによって、司法の現状と問題点を把握することを狙いとする。そして、司法に対する理解が進んだことを前提にして、秋学期は人権に関する裁判を対象にしたロールプレイングによる討論を行う。司法による人権の保障が次のテーマである。

まず、司法に強い関心を持っていることが重要である。司法についての知見が段階的に獲得できるよう演習プログラムを構成しているため、現時点での司法についての知識は問わない。春学期は、授業計画に挙げている教科書から割当てられたテーマの研究報告を受講生が行い、その報告に基づいて、全員で討論する。その際、テキストの要約に加えて、担当箇所について「新しいテーマ」を各自追求する。ゼミの最終回には、各自がゼミで報告した「新しいテーマ」を改善したものをを用いてプレゼンテーションを行う。

なお、ゼミは対面で行うことを原則とするが、コロナウィルス感染状況によってはZ o o mによるゼミもありうる。

授業の到達目標 Objectives

司法制度の重要な柱である違憲審査制・最高裁判所・裁判官制度、裁判員制度・検察審査会、裁判外紛争処理(ADR)などについて、制度の概要及びその問題点を理解する。また、新しいテーマである「裁判のIT化」や「司法取引」も理解する。本演習では、取り上げるテーマに関連する資料を調査し、自分の考えをまとめ、発表し、討論する能力の向上を目指す。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

新聞やインターネットを通じて、最近起きている事件について感度を高めておくこと。

授業計画 Course Schedule

第1回：ガイダンス

第2回～第12回：木佐茂男他『テキストブック現代司法 第6版』を読む。

第13回：ゼミメンバー全員がそれぞれ、自分が担当した部分のうち興味があるところをさらに調べて報告する(10分程度)。各自のプレゼンテーションをゼミメンバー全員で評価する。

第14回：総括

教科書 Textbooks

木佐茂男・宮澤節生・佐藤鉄男・川島四郎・水谷規男・上石圭一『テキストブック現代司法 第6版』(日本評論社、2015年)

参考文献
Reference Books

笹田栄司『司法の変容と憲法』（有斐閣、2008年）、市川正人・酒巻 匡・山本和彦『現代の裁判』第7版（有斐閣、2017年）、笹田栄司ほか『統治構造において司法権が果たすべき役割 第一部』（判例時報2475号臨時増刊、2021）、泉徳治ほか『統治構造において司法権が果たすべき役割 第二部』（判例時報2479号、2021）。最後に、笹田が2020年より判例時報に連載している「裁判制度のパラダイムシフト（全10回）」も随時紹介する。

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	40%	課題の設定、資料の収集、レポートの構成
平常点評価 Class Participation	60%	報告課題の内容、討論への積極的参加
その他 Others	%	

備考・関連URL
Note・URL

憲法を未履修のゼミ生は、三年次に履修すること。また、比較憲法論も同じく履修すること。基本的に対面でゼミを行う予定である。

政治学演習 I

2023

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
112	政治学演習 I (田中孝彦)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	田中 孝彦
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

冷戦期世界政治の歴史の変容 1917年-1991年

授業概要 Course Outline

* 田中孝彦ゼミの教員によるゼミオリエンテーションの動画を必ずご覧ください。

【問題意識】

1980年代末から90年代初頭にかけて終焉を迎えた冷戦の後、今日までの国際政治のあり方とその秩序は、依然として不透明な部分が多く、現代の世界秩序の姿は、まだ明確に見えてこない。この授業では、冷戦期の国際政治が、どのような変化を見せて、今日の国際政治の様々な条件を形成してきたのかについて、冷戦期国際政治の歴史的变化を大きく俯瞰することによって考察する。その際、冷戦期を国際政治の長期的な変動過程の中に据え、その変動の重要な過渡期として捉える視点から、議論を試みる。2023年度の政治学演習 I では、1917年から1968年までを扱い、冷戦の背景要因、冷戦の起源、そして、冷戦の変容について分析を試みる。

【授業の方式】

< 討論中心の授業 >

毎回の授業は、テキストの指定された章や指定された論文を各自が読んできて、討論を行う。その際、毎週2名の報告担当者(Commentators)が論点を提示し、それをたたき台として討論を行う。

報告担当者は、(1) 議論するべき論点 (2) テキストに対する批判、を合わせて3つ以上提示しなければならない。(1) については、なぜその論点(疑問点)が重要なのかについて説明が施されなければならない。(2) については、論理的および実証的に批判が展開されなければならない。報告担当者に加えて、討論者(Discussants)を2名置く。Discussantは、Commentatorの報告に対してその場で簡潔なレスポンスを行う。

< グループ討議 >

特に重要な事件や問題については、学期中に2~3回、3つ程度のグループによる討議を行い、プレゼンテーションを行う形式を通じて、国際政治について考える訓練を行う。最優秀グループは表彰する。

< 利用する文献 >

授業で利用するテキストは、以下の著作である。

Fink, Carole (2018) Cold War: An International History, 2nd edition, Routledge.

また、その他の文献については、授業計画の各回を参照されたい。

【その他】

新型コロナの影響で、2021年度は実施できなかったが、例年夏合宿を行うことにしている。夏は軽井沢セミナーハウスで行い、学問のみならずスポーツなどのレクリエーションも行う。

授業の到達目標 Objectives

世界政治の状況を、歴史的に分析する力を身につけてもらう。具体的には以下を参照されたい。

- (1) 世界政治の歴史的な文脈を、どのように見いだすか。何が終焉し、何が変化し、何が継続し、何が新たに生み出されたのかを見極める。
- (2) 歴史的な事象の原因について、自分なりの仮説をたて、それを歴史的証拠に基づきどのように検証するのか。その手法を身につける。
- (3) 今日の世界政治における様々な問題の淵源を、冷戦期の現象の中を探る。
- (4) 歴史を学ぶことによって、現在の理解を深めるとともに、未来へのトレンドを把握する。

事前・事後学習の内容
Preparation and Review

【事前学習】

- (1) 授業計画に示されているテキストの該当箇所や論文は、必ず読んでおくことが前提として求められます。
- (2) 「国際関係史I」(旧「国際政治史」)を履修してあることが望まれますが、必修ではありません。

【事後学習】

- (1) 授業中に話せなかったことや、議論できなかった論点について、CourseN@viの機能を利用して自主的にディスカッションを行ってください。適宜、私もチェックしてコメントします。
- (2) 学期中にショート・エッセイの提出を求めます。それを通じて、事後学習を行ってください。

授業計画
Course Schedule

第1回：冷戦史の視座

冷戦期世界政治の歴史的展開をみるために設定することが必要な視点について、講義を行います。

第2回：冷戦の序曲

第2次世界大戦において、終戦後にはじまる冷戦の条件が、どのように形成されたのかについて考察します。

[必読文献]

McMahon, Robert (2021) *The Cold War: A Very Short Introduction*, Chapter 1. 'World War II and the destruction of old order', pp. 1-15.

第3回：ヨーロッパにおける冷戦の起源 1945年～1950年

米ソ対立およびそれによって形成された東西対立へのプロセスがどのように醸成されたのかについて、議論します。

[必読文献]

McMahon, op. cit., Chapter 2. 'The origins of the Cold War in Europe, 1945-50,' pp. 16-34.

第4回：史料読解 1

ヨーロッパでの冷戦の開始にかかわる重要史料を読み、それらの史料が意味するものについて、議論を行います。

第5回：冷戦初期のアジア 1945年～1950年

第2次世界大戦後から冷戦初期にかけてのアジアでの世界政治の変容について、考察します。特に、中華人民共和国の誕生、朝鮮戦争の勃発について学びます。

[必読文献]

McMahon, op. cit., Chapter 3. 'Towards "Hot War" in Asia, 1945-50,' pp. 35-55.

第6回：史料読解 2

朝鮮戦争にかかわるアメリカ政府の声明などの史料を読み解き、議論をこころみます。〈Midterm Report 1〉
ここまでの授業に関連する自分なりに立てた論点について、ショートエッセイを提出してもらいます。

分量：2,000字程度(本文)

注釈：学術的エッセイとして、脚注をつけてもらいます。

文献リスト：参照した文献のリストを文末につけてもらいます。

ファイル形式：PDFをお願いします。

提出場所：Waseda Moodleにセットします。

提出締切：次回の授業の前日23時59分

※コメントをつけて返却します。

第7回：冷戦のグローバル化：「中心」の安定と「周辺」の紛争 1950年～1958年

1950年代における水爆の保有が、ヨーロッパでの東西緊張の緩和を導いた一方で、脱植民地化の進む第三世界が東西対立の重要な舞台となっていきます。そのプロセスと第三世界をめぐる東西対立の特質について学びます。

[必読文献]

McMahon, op. cit., Chapter 4. 'A global Cold War, 1950-58,' pp. 56-77

第8回：史料読解 3

冷戦のグローバル化にかかわる史料を読み解きます。

第9回：危機から緊張緩和へ 1958年～1968年

台湾海峡危機、ベルリン危機、ベトナム戦争、米ソ軍拡競争、そしてキューバ・ミサイル危機の展開が、東西間での危機を深めていきますが、それが逆に東西間の緊張緩和への転換をうみだしていくプロセスについて分析を試みます。

[必読文献]

McMahon, op. cit., Chapter 5. 'From confrontation to detente, 1958-68,' pp. 78-105.

第10回：史料読解 4

上記のそれぞれの危機と、危機後に進展した部分的核実験禁止協定、核不拡散条約、さらにはこの時期に決定的となった中ソ対立にかかわる史料を読み解きます。

〈Midterm Report 2〉

第7回から第10回までの授業を通じて、自分で立てた論点についてショートエッセイを提出してもらいます。

要領は、<Midterm Report 1>と同様です。

第11回：冷戦と国内政治・第三世界

冷戦がそれぞれの諸国の国内政治や国内社会にどのような影響を与えたのか、そして内政が不安定であり続ける第三世界諸国にどのような影響をおよぼしたのか。これらの問題について考察します。

[必読文献]

McMahon, op. cit., Chapter 6. 'Cold Wars at home,' pp. 106-121.

第12回：デタントの展開とその終焉 1968年～1979年

米ソ緊張緩和、米中和解といったデタントの生成発展のプロセスと、1970年代中葉から、再び東西間の緊張が深まっていくプロセスについて議論します。

[必読文献]

McMahon, op. cit., Chapter 7. 'The rise and fall of superpower detente, 1968-79' pp. 122-143.

第13回：史料読解 4

東西緊張緩和の展開とその終焉にかかわる史料を読み解きます。

第14回：冷戦の終焉 1980年～1990年

レーガン米政権の成立後に現れた「第二次冷戦」と呼ばれる米ソ緊張の深刻化から、1985年のゴルバチョフ・ソ連政権の成立を契機に急転直下、冷戦が終結していく過程について、分析を試みます。

[必読文献]

McMahon, op. cit., Chapter 8. 'The final phase, 1980-1990,' pp. 143- 168.

教科書 Textbooks

【テキスト】

Robert McMahon (2003) The Cold War: A Very Short Introduction, Oxford University Press.

(邦訳、ロバート・マクマン著(2018)『冷戦史』青野利彦監訳、平井和也訳、勁草書房。)

※各自入手のこと。授業では英語版を使います。邦訳は自分の理解を確認するために使ってください。

【史料集】Edward H. Judge and John W. Langdon (1999) The Cold War: A History Through Documents.

※必要箇所についてコピーを配布します。

参考文献 Reference Books

適宜、授業で指定します。

評価方法 Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	0%	試験は行わない。
レポート Papers	20%	学期中に提出されるエッセイを評価する。
平常点評価 Class Participation	80%	報告担当時の報告内容について、その論理性、実証性、独自性を評価する。
その他 Others	0%	なし

備考・関連URL Note・URL

【授業形態についての重要事項】

新型コロナの感染拡大状況などに鑑み、オンラインによるリアルタイム授業となる可能性があります。授業の形態については、新年度早々に各ゼミ生に連絡いたします。

【その他】

英語文献をかなり大量に読んでもらいます。それゆえ、英文読解に自信の無い人には、ハードルが高いかも知れませんが、あきらめずに続ければ、かならず上達します。ガッツをもって果敢に挑戦する方に期待します。史料などが掲載されているwebsiteのURLは、授業第1回目の授業時に、より詳しいシラバスを配りますので、それを参照してもらいます。

政治学演習 I

2023

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
113	政治学演習 I (都丸潤子)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	都丸 潤子
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

ヒトの国際移動の文化的・歴史的分析

授業概要 Course Outline

この演習では、多様な主体によって重層的に構成されている国際社会において、トランスナショナルな現象の代表例である人間およびその集団の移動が、どのような原因で生じ、いかなる過程を経て、どのような結果をもたらすかを社会科学的に分析し、理解を深めることを目的とする。分析にあたっては、理論にとどまることなく特に実証分析を重視し、政治的・経済的側面だけでなく、文化的・社会的・心理的な側面からの検討を行う。具体的には、移民・難民・ディアスポラ・出稼ぎ・派遣・留学・国際交流・兵士・人身取引などさまざまな形のヒトの国際移動に伴って生じる文化の接触と変容、移動者のアイデンティティの変容と権利・安全をめぐる問題、送出国・経由国・ホスト国や国際組織の関与、移動者と移動元・移動先の社会との関係や多文化共存のあり方などを研究対象とする。また、ヒトの国際移動の歴史は古く、特にナショナル・ヒストリーとグローバル・ヒストリーをつなぐ現象とされる植民地化と脱植民地化の過程で起こった社会・文化変容やヒトの移動の影響は、現在にも広くみられる。従って、このような事例に関する歴史的分析も重視したい。また、現在私たちが直面しているグローバル・イシューとしてのCOVID-19パンデミックと人の国際移動の関係の検討も試みる。これらの視点は、人間集団のなかでも、一般市民、マイノリティ、弱者の立場から国際社会の現象を捉えなおすことにもつながる。参加者と一緒に、より人の顔のみえる国際関係像をさぐってゆきたい。

授業の到達目標 Objectives

国際関係においてヒトの移動が果たした役割を歴史的な脈絡の中で理解し、私たちが直面しているコロナ禍も含めて、現代国際社会のさまざまなイシューとのつながりを多角的に、人々の経験や感情を重視した(人の顔のみえる)形で把握することをめざしたい。各参加者が現代の諸問題解決への具体的なアプローチを、説得的に提示できるようになることが理想である。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示する

授業計画 Course Schedule

以下は主として初年次履修学生春学期 I の授業計画です。秋学期の演習 II においては、輪読も行いますが、ゼミ論のテーマについて、

各自が報告を行う機会をふやします。1年でゼミ論を執筆する予定の学生には、早期執筆のための個別課題の設定や個人指導も行います。

輪読、報告と討論の回では、基本的に各回について司会者、報告者、コメンテーター(議論の口火を切る役目)を決めて、学生の主体的参加と討論を重視します。

第1回：ガイダンス

第2回：導入的講義と問題提起：国際関係論の研究・分析とは？ なぜ国際移動が重要か？

第3回：導入的講義と問題提起：なぜ、いま、帝国史・脱植民地化史を把握することが必要か？

第4回～第10回：輪読：テキストを以下の教科書欄の導入的文献などから選び、履修者全員が事前に批判的・発展的に読んでくる。

あらかじめ指定された報告者・コメンテーターが内容の紹介と批判的・発展的論点の提示を行い、全員で討論

をする。

第11回～第14回：ゼミ論テーマ・プロポーザル：各回につき、テーマの近い学生約3-4名ずつが各自のテーマ案を報告し、全体で質疑応答を行う。

第15回：まとめと夏休みの課題呈示（共通テーマによるグループ別共同研究、または共通テキストの批判的・発展的輪読）。

（コロナ禍が収束した場合は、以前のように夏合宿を実施します。＝夏休みの課題についてのグループ報告・討論。最終年次学生はゼミ論研究の中間報告。）

教科書 Textbooks

<春学期 I：導入的文献>

ロビン・コーエン『移民の世界史』東京書籍、2020年。

S・カースルズ、M・J・ミラー著、関根政美、関根 薫訳『国際移民の時代 第4版』名古屋大学出版会、2011年。

マイロン・ウェイナー著、内藤嘉昭訳『移民と難民の国際政治学』明石書店、1999年。

ロビン・コーエン、ポール・ケネディ著、山之内靖監訳『グローバル・ソシオロジーI、II』平凡社、2003年。

トマス・ソーウェル著、内藤嘉昭訳『征服と文化の世界史』明石書店、2004年。

永島剛ほか編『衛生と近代：ペスト流行にみる東アジアの統治・医療・社会』法政大学出版局、2017年。

秋田茂『イギリス帝国の歴史-アジアから考える』中公新書、2012年。

塩川伸明『民族とネイション-ナショナリズムという難問』岩波新書、2008年。

滝澤三郎・山田満編著『難民を知るための基礎知識』明石書店、2017年。

（秋学期のIIではより発展的な文献、英文文献を輪読する予定）

参考文献 Reference Books

詳細は開講中に履修者の関心に合わせて示すので、ここでは主な参考文献をあげておきます。

平野健一郎『国際文化論』東京大学出版会、2000年。

梶田孝道編『新・国際社会学』名古屋大学出版会、2005年。

日本比較政治学会編『年報2009：移民と国内政治の変容』ミネルヴァ書房、2009年。

平野健一郎ほか編『国際文化関係史研究』東京大学出版会、2013年。

山田美和編『「人身取引」問題の学際的研究』IDE-JETRO アジア経済研究所、2016年。

北川勝彦編『イギリス帝国と20世紀 第4巻 脱植民地化とイギリス帝国』ミネルヴァ書房、2009年。

O・A・ウェスタッド著、佐々木雄太ほか訳『グローバル冷戦史』名古屋大学出版会、2010年。

ヴァミク・ヴォルカン著、水谷驍訳『誇りと憎悪：民族紛争の心理学』共同通信社、1999年。

初瀬龍平編『エスニシティと多文化主義』同文館、1996年。

梶田孝道・丹野清人・樋口直人『顔の见えない定住化-日系ブラジル人と国家・市場・移民ネットワーク』名古屋大学出版会、2005年。

デイヴィッド・バットストーン著、山岡万里子訳『告発・現代の人身売買：奴隷にされる女性と子ども』朝日新聞出版、2010年。

Walker Connor, *Ethnonationalism*, Princeton University Press, 1994.

John Darwin, *Unfinished Empire: The Global Expansion of Britain*, Penguin, 2012.

Philip D. Curtin, *The World and the West*, Cambridge University Press, 2002.

Marjorie Harper and Stephen Constantine, *Migration and Empire*, Oxford University Press, 2010.

Alexander Betts and Gil Loescher, eds., *Refugees in International Relations*, Oxford University Press, 2011.

David Kyle and Rey Koslowski, eds., *Global Human Smuggling*, 2nd edn., Johns Hopkins University Press, 2011.

評価方法 Evaluation

試 験 Examinations	割 合 (%) Percent (%)	評 価 基 準 Description
レポ-ト Papers	20%	報告用レジユメの充実度などで評価する
平常点評価 Class Participation	80%	出席・報告内容・議論への貢献度を重視する。
そ の 他 Others	%	

備考・関連URL Note・URL

本ゼミでは、積み上げ式の演習と論文指導を行い、上級生・下級生を含めたゼミメンバー同士の切磋琢磨を重視しますので、留学からの復学者、留学予定者を含めて、(プレゼミを除き)少なくとも3学期以上在籍される方を歓迎します。

留学計画がある場合には、各自の履修計画が履修/単位取得条件を満たすかどうかを事前に事務所で確認の上、応募時にわかる範囲で、あるいは留学決定後すみやかに、その旨教員まで申し出てください。

留学をまたいで履修計画等については、履修・登録方法について事務所で手続きを確認のうえ、早めに教員に相談してください。

国際政治経済学科生、経済学科生も大いに歓迎します。

ゼミ初年次終了までにできるだけ国際社会関係論を履習してください。左の科目に加え、国際関係論入門もすでに履習していることが望まれます。

主体的に研究を進める熱意を持ち、卒業後も含めて仲間を大切に、建設的な議論のできる学生のみなさんを歓迎します。

したがって、当然ながらゼミ論完成まで、継続的なゼミへの出席と議論への参加を重視します。

学部で卒業し実務をとおした社会貢献を考える学生諸氏はもちろんのこと、国内外の大学院進学希望者も大いに歓迎し、その目標にあわせた指導を行います。

政治学演習 I

2023

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
114	政治学演習 I (仲内英三)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	仲内 英三
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

近代西欧政治社会の歴史

授業概要 Course Outline

本年度は、19世紀後半から20世紀中葉にかけての英国とドイツの政治について、とくに政党の活動を中心に検討していきたい。同じくヨーロッパに属する英国とドイツではあるが、両地域における政党の発展は、歴史的・社会的・思想的なさまざまな要因から異なる発展を遂げてきた。それは当時の両地域の政治社会の違いを知るうえで重要であるばかりでなく、現在のヨーロッパの政治を考えるうえでも非常に示唆に富むものである。

なお「プレ演習」として、ヨーロッパ政治の歴史に関する基本的な文献をいくつか読んでいきたい。どのような文献を読んでいくかについては、春学期に行った講義「西洋政治史」で配った参考文献表のなかの、もっともやさしい基本文献のなかから、学生諸君の要望などを聴きながら選んでいきたいと考えている。

授業の到達目標 Objectives

近現代のヨーロッパの政治について理解できるようになる。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示する

授業計画 Course Schedule

- 第1回：政党とその役割
(第2回～第16回：英国の政党の発展)
- 第2回：政党研究の歴史と政党の類型
- 第3回～第4回：1867年から1895年までの自由党優位の時代
- 第5回～第6回：1874年から1900年までの保守党の復活
- 第7回～第8回：19世紀後半（後期ヴィクトリア時代）の政治変革
- 第9回～第10回：19世紀末から第一次大戦までの政党の危機
- 第11回：世紀転換期の新自由主義の形成
- 第12回：世紀転換期の労働主義と労働党の誕生
- 第13回～第14回：1906年から1914年までの政党政治（選挙選を中心に）

教科書 Textbooks

なし。教師が授業内容に即したレジュメを配布する。

参考文献 Reference Books

授業のはじめに、参考文献の一覧表を配布する。

<p>評価方法 Evaluation</p>

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	30%	演習の最後に少なくとも1回は小論文もしくはレポートを提出していただく。内容は授業の過程で扱った時代や地域に関して、各自が関心を持ったテーマについて、あまり長くない分量で書けるものを提出していただくことになる。
平常点評価 Class Participation	70%	演習は基本的に授業に出席することから始まるので、まず普段の授業への参加が出发点となる。授業では最低1回は発表の機会があるので、その出来具合も評価の対象となる。
その他 Others	%	

<p>備考・関連URL Note・URL</p>

本年度の授業はWaseda Moodleのcollaborate を使って、オンライン授業を行います。

政治学演習 I

2023

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
115	政治学演習 I (中村英俊)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	中村 英俊
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

国際政治の理論と現実－英国学派を中心に

授業概要 Course Outline

「グローバルなリベラル秩序」が流動化している。EU・ヨーロッパ統合（ブレグジットを含む）、アジアの地域統合、日米欧G7体制とG20サミット、国際連合（国連システム）、核拡散問題、気候変動問題、感染症拡大問題など国際関係・国際政治の事例について、その本質（「現実」）を研究（理解・説明・分析）する上で、私たちは一定の理論的枠組みを必要とする。

国際政治の理論研究は、第二次世界大戦後、アメリカの学界を舞台に発展してきたと言える。そこでは、リアリズムとリベラリズムの間のパラダイム論争が重要な位置を占めてきた。しかし、大西洋の反対側・英国（および他のヨーロッパ諸国）の国際政治学界では、アメリカの学問的流行とは一線を画した、独特な理論研究が積み重ねられてきた。「英国学派」（English School）と呼ばれる国際政治の見方（パラダイム）を学ぶことが、本演習の基本的目標である。

本演習は、プレ演習後にIからIVまでを（2年余りにわたり）連続履修する典型例では、次のような段階で展開する。まず第1段階（プレ演習と演習I）では、邦語・邦訳文献を中心にした輪読を通して、主にアメリカ国際政治学界で展開してきたリアリズムとリベラリズムの論争について概観したい。つぎの第2段階（演習Iと演習II）では、「英国学派」の国際政治理論についても基礎知識を身に付けた後、より専門的な英語文献に取り組みたい。具体的には、International Affairs、International Security、International Organization、International Studies Quarterly、European Journal of International Relations、Journal of Common Market Studies、Journal of European Public Policyなどの学術誌から各自が関心を寄せるテーマの論文を選び、報告・輪読の作業を重ねる。この段階で、各自が研究テーマを絞り込む作業を始めることになる。この段階で、各自の事例研究に必要な方法論（研究手法）の習得も始めることが求められる。最後に第3段階（演習IIからIV）では、それまでの理論研究の成果を踏まえて、（一次資料などのデータ収集を続けながら）各自が事例研究のテーマを決定する。そして最終的に、理論研究と事例研究が上手く融合する卒業論文（ゼミナール論文）を完成してもらおう。

授業の到達目標 Objectives

原則として2年間で、良い卒業論文を書き上げてもらう。そのために、順次、必要な知的訓練を重ねてもらう。

本演習I（3年春学期）では教科書（Nye and Welch）および各章ごとに関連する文献を輪読してもらう。共通の知的基盤を構築した後、夏季休業中には各自の研究テーマを本格的に考え始め、演習II（3年秋学期）では各自のテーマに即した先行研究（学術誌の英語論文）を輪読する。3年終了時点で、まずはタームペーパーを提出してもらう。4年への過渡期（2-3月）に、同タームペーパーに基づく報告会を開催し、卒業論文完成へ向けての課題（多くの場合は資料収集に関する課題）を自覚してもらうことになる。演習III（4年春学期）では、卒業論文の中間報告を重ね、特に夏季休業中には（3年生も前に）報告会を開催する。演習IV（4年秋学期）で完成させる卒業論文については、1月末か2月初旬に口頭試験ないしは最終報告会を開催することにする。

事前・事後学習の内容
Preparation and Review

演習 I に先立つ「プレ演習」では、演習 I テキストの翻訳（『国際紛争』）を中心に日本語の基礎文献を読み込んでもらう。

演習 I では、英語テキスト（および関連文献）の輪読と同時に、各自の研究テーマを考えてもらう。（演習 I では毎週の事前学習として、レジュメ作成や輪読コメントの準備など多くの時間を割くだろう。事後学習としては、演習 II 終了時点で完成するタームペーパーに関連する論点の考察を深める時間を確保する必要があるだろう。）

演習 I の後は夏合宿などを挟んで、各自の研究テーマに関する日本語・英語などの文献（先行研究）調査を試みてもらう。演習 II の輪読テキストは、各自の研究テーマを反映した、英文雑誌の論文（複数）である。

授業計画
Course Schedule

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：国際政治の研究テーマ
- 第3回：英語基礎文献輪読（Nye and Welch, Chap. 1）
- 第4回：英語基礎文献輪読（Nye and Welch, Chap. 2）
- 第5回：英語基礎文献輪読（Nye and Welch, Chap. 3）
- 第6回：英語基礎文献輪読（Nye and Welch, Chap. 4）
- 第7回：各自が関心を寄せるテーマに関する英語の先行研究の調査実習
- 第8回：英語基礎文献輪読（Nye and Welch, Chap. 5）
- 第9回：英語基礎文献輪読（Nye and Welch, Chap. 6）
- 第10回：英語基礎文献輪読（Nye and Welch, Chap. 7）
- 第11回：英語基礎文献輪読（Nye and Welch, Chap. 8）
- 第12回：英語基礎文献輪読（Nye and Welch, Chap. 9）
- 第13回：英語基礎文献輪読（Nye and Welch, Chap. 10）
- 第14回：各自の研究テーマの選定：先行研究の検討
（＊8月初旬予定の報告会：各自の暫定的研究テーマについて）

教科書
Textbooks

Joseph S. Nye and David A. Welch, Understanding Global Conflict and Cooperation: An Introduction to Theory and History (10th Edition; Pearson 2017)

参考文献
Reference Books

適宜指定する

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	0%	実施しない
レポート Papers	50%	報告用レジュメの作成などで評価する
平常点評価 Class Participation	50%	毎回のゼミへの積極的な参加姿勢など
その他 Others	0%	特になし

関連科目：国際関係領域の必修選択科目（「国際関係論入門」および「国際政治学」*）に加えて、「国際機構論」および「地域統合論」は（必ず3年生までに）履修してください。（*「国際政治学」の未履修者は、2023年度春も私が担当予定なので是非、履修してください。）

学生に対する要望：切磋琢磨して学びあえる、厳しく楽しいゼミを創りたいと思います。様々なグループワークなどに積極的かつ主体的に参加してくれる人の応募を待っています。演習論文完成までゼミに関与し続ける意思および能力（実行力）の強さ・高さを選考基準として最優先します。

留意事項：毎週木曜5時限のゼミ（演習ⅠとⅡ）は時間を延長して（6時限も）ジックリと議論を深めます。夏季休業中のゼミ合宿あるいは集中ゼミ（8月初旬を予定）へも参加してください。学期中の土曜日などに集中講義形式で「補講」を実施することもあります。

政治学演習 I

2023

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
116	政治学演習 I (日野愛郎)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	日野 愛郎
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

メディアと選挙の実証分析 (Empirical Analyses of Media and Elections)

授業概要 Course Outline

このゼミはメディアと選挙に関心を持つ仲間とともに楽しく真剣に学問を追究するゼミです。ゼミのテーマ「メディアと選挙の実証分析」には2つの意味が込められています。1つは「メディア」をはじめとする送り手の分析、2つは「選挙」における有権者をはじめとする受け手の分析です。メディアや政党、政治家などの送り手のメッセージの分析と有権者や読者・視聴者・ユーザーなどの受け手の意識や行動の分析をバランスよく行います。そのために、メディアや政党・政治家のメッセージを数量化する手法である内容分析(content analysis)や統計モデルに基づく計量テキスト分析の手法を学びます。同様に、世論調査(内容をランダムに変える調査実験を含む)やソーシャル・メディアへの投稿内容の分析方法を学び、有権者や一般の人々の態度や反応を明らかにします。また、複数の国や地域を統合的に分析する比較分析の手法(マルチレベル分析)も、必要に応じて学んでいきます。

「メディアと選挙の実証分析」に関連する分野では、有権者の投票行動分析や政党の政策競争の分析をはじめとして多くの研究成果が蓄積されています。このゼミでは、これまでの豊かな研究の蓄積を踏まえて、ゼミ生同士でアイデアを出し合いながら、新しい知見を産み出すことを目指しています。この目標を達成するために、ゼミの1年目は実証分析をするために必要となる様々なデータ収集・作成の手続きや分析手法を一緒に学んでいきます。過去の研究を再現(replicate)することから様々なデータ分析の手法を学び、共通のテーマについて話し合い、グループワークを通して実証分析の基礎を養います。2年目からは、自らの関心に沿って、先行研究を読みながらプロポーザル(研究計画書)を練り、卒業論文の作成を進めます。テーマは、メディアと選挙を中心として政治・社会現象を実証的に研究するものであれば何でも構いません。一方で、メディアと選挙を題材としていても実証分析を行わないものはこのゼミの卒業論文としては認められません。皆さんは卒業すると「学士」になります。多くの人にとって人生で最初の「士」になると思います。最終的に質の高い卒業論文を書き遂げて名実ともに「学士」になることが2年間のゼミの目標になります。

授業の到達目標 Objectives

疑問に思うことを学術的な問いの形で表現する力(リサーチクエストを立てる力)、「これは!」と思う答えを探し出す力(仮説を立てる力)、立てた仮説が正しいかを確かめる力(仮説を検証する力)を養います。これらの力は、学術の世界だけでなく、皆さんが社会人になる時に大きな武器となるだけでなく、日々の営みを豊かにしてくれます。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示します。

授業計画
Course Schedule

プレゼミ (2022年度冬クォータ) : R1グランプリ (統計ソフトRを用いて出版された論文のレプリケーションを行い発表するコンテスト) の実施
 第1回 : インTRODクシヨ、ゼミの運営について、合宿、OB/OGとの交流会
 第2回 : グループワークにむけたブレインストーミング
 第3回～第6回 : 関連文献を基にしたディスカッション
 第7回～第10回 : 先行研究のレプリケーション
 第11回～第14回 : データの収集と分析
 第15回 : まとめとオープンゼミにむけた話し合い

教科書
Textbooks

特にありません。適宜文献を指定します。
 (プレゼミ) 今井耕介『社会科学のためのデータ分析入門 (上・下)』(粕谷祐子・原田勝孝・久保浩樹訳) 岩波書店、2018年。(Kosuke Imai, Quantitative Social Science: An Introduction, Princeton University Press, 2017.)

参考文献
Reference Books

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	100%	ゼミにおける学習状況、貢献度を総合的に評価します。他のゼミ生のプレゼンテーションへのフィードバックの量、質を考慮します。
その他 Others	%	

備考・関連URL
Note・URL

- プレゼミ (2022年冬クォータ) は火曜日 2 限に予定しています。他の科目と履修が重ならないよう留意してください。詳細はプレゼミのシラバスをご覧ください。
- 本ゼミの1年目は火曜日 2・4 限、2年目は火曜日 4・5 限を予定しています。1年目は4限に開講されている4年生ゼミにも参加してもらい、2年目は5限に開講されている大学院ゼミにも出席してもらいます。先輩の研究が出来上がっていく過程をリアルタイムで見ることは生きた教材になるはずですよ。
- 3年次終了までに、「計量分析 (政治)」と「政治テキスト分析」を履修することを、ゼミに参加する条件としています。
- 通常のゼミや合宿への参加は必須です。欠席が多くなる方はご遠慮いただいています。
- 入ゼミ後に課題があります。過去のゼミ生 (1期～7期) の卒業論文の中から1つを選び、その論文を2000字前後で論評してもらいます。論文集は下記URLから入手できます (<https://goo.gl/xm88Mj>)。ゼミの面接時に感想を尋ねる可能性があります。同じURLにゼミ生が作成したオリエンテーション資料も格納されています。
- 普段のゼミの様子はゼミ公式のTwitter (@airohinoseminar) をご覧ください。
- 留学を予定している学生や留学から帰国した学生にも学びの機会を作りたいと考えています。個別にご相談ください。定期的に外国からゲストを招聘し、最新の研究成果や手法について学ぶ機会を用意する予定です。This seminar is open to EDP students. The working language of the seminar will be mainly Japanese but the instructor is prepared to accommodate students who are interested in learning empirical and comparative analyses of media and elections in general.

政治学演習 I

2023

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
117	政治学演習 I (藤井浩司)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	藤井 浩司
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

比較公共政策への接近

授業概要 Course Outline

20世紀後半期を通じて先進社会が共有してきた戦後コンセンサスの終焉が告げられている。21世紀になってさらに顕著になったこの〈揺らぎ〉は、既成の体制として構築された社会・経済・政治構造の抜本的な組み替えを迫っている。Restructuring, Realignmentなどといったフレーズで示される構造改革の課題は、特に政府／公共部門にとって「存立の危機」にかかわるほどにまで重くのしかかり、厳しく問い直されている。「モデルなき実験」、「羅針盤なき航海」ともいわれる課題への取り組みは、各国によってさまざまであり、再編の道程も定まっていない。自らの座標を定め、課題解決のためのオルタナティブを探るうえで、各国の政策対応を整理・分析する意義はこれまで以上に大きいといえる。こうした問題関心から、各国における個別政策分野での政策対応の現状・課題・展望について検討していきたい。今学期授業は教室での対面講義とオンライン授業形式（zoomミーティング）を組み合わせたハイブリッド型授業を実施します。受講生には事前にzoomミーティングの招待状を送ります。

授業の到達目標 Objectives

各自の研究課題に関する論文作成。
議題に関する質疑応答。講評力の涵養。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示する

授業計画 Course Schedule

第1回：オリエンテーション（本講義の目的と概要）
第2回：受講生研究報告＋質疑応答、講評・総括
第3回：受講生研究報告＋質疑応答、講評・総括
第4回：受講生研究報告＋質疑応答、講評・総括
第5回：受講生研究報告＋質疑応答、講評・総括
第6回：受講生研究報告＋質疑応答、講評・総括
第7回：受講生研究報告＋質疑応答、講評・総括
第8回：受講生研究報告＋質疑応答、講評・総括
第9回：受講生研究報告＋質疑応答、講評・総括
第10回：受講生研究報告＋質疑応答、講評・総括
第11回：受講生研究報告＋質疑応答、講評・総括
第12回：受講生研究報告＋質疑応答、講評・総括
第13回：受講生研究報告＋質疑応答、講評・総括
第14回：受講生研究報告＋質疑応答、講評・総括

教科書 Textbooks

別途随時指示する。

参考文献
Reference Books

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	50%	レジュメ内容、ターム・ペーパー、卒論。
平常点評価 Class Participation	40%	出席状況、参加意欲、授業運営への貢献。
その他 Others	10%	ゼミ合宿などへのプロジェクトへの参加。

備考・関連URL
Note・URL

ゼミナールは、3・4年合同で2時限連続で行います。フルタイム参加するのがゼミ加入の前提条件です。また、合宿（夏）、コンパ（随時）など課外活動への参加は、ゼミ参加の基本的な条件です（今学期はコロナ禍対応により飲食を伴う会合は原則として実施しません）。授業実施形態：ハイブリッド（対面／オンライン併用）。

政治学演習 I

2023

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
119	政治学演習 I (谷澤正嗣)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	谷澤 正嗣
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

現代リベラリズムとその批判

授業概要 Course Outline

政治を語る際に用いられる重要な概念について分析しつつ、「権力とはどんな力か」「自由と平等を両立させる政治体制は可能か」「正義と不正義を判別する原理は何か」といった問題を扱うのが政治理論である。政治理論の研究は古典古代にさかのぼる歴史的次元と、きわめて抽象的な哲学的次元を有するが、本演習では現代の哲学的研究に焦点を合わせる。こうした研究の多くが参照の枠組としているのが、「リベラル・デモクラシー」と称される現代の政治体制である。リベラル・デモクラシーに含まれる価値や規範を肯定し正当化する志向を強くもつ政治理論を「現代リベラリズム」と呼ぼう。他方、それらの価値や規範に対する批判に重きをおく政治理論を「現代リベラリズム批判」と呼ぼう。本演習では、現代リベラリズムとそれを批判するさまざまな潮流のあいだの対話を追いながら、現代リベラリズムがどのように洗練されてきたか、それにもかかわらず存在している問題点は何かを明らかにする。

授業の到達目標 Objectives

- (1) 現代政治理論の主要な論点、とくに現代リベラリズムとその批判について理解する。
- (2) 哲学的な読解、思考、表現、討論の技法を学ぶ。
- (3) 政治学演習II、IIIおよびIVを受講し、演習論文を執筆するための能力を涵養する。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

ゼミでの討論に先立ってテキストを読んでおくこと、討論の後にあらためて自分のテキスト解釈を考え直すことを求める。とくに、事前のテキスト精読は必須である。

授業計画 Course Schedule

第1回：イントロダクション 政治理論とは何か
第2回～第13回：文献講読と討論
第14回：まとめと討論

教科書 Textbooks

開講時に受講生と相談の上で指定する。いくつか候補となる著作を挙げておく。
パトリック・デニーン (角敦子訳) 『リベラリズムはなぜ失敗したのか』 (原書房、2019年)。
マイケル・フリーデン (山岡監訳) 『リベラリズムとは何か』 (ちくま学芸文庫、2021年)。
ジョン・ロールズ (川本ほか訳) 『正義論 改訂版』 (紀伊國屋書店、2010年)。
ジョン・ロールズ (田中ほか訳) 『公正としての正義』 (岩波書店、2020年)。
ジョン・ロールズ (齋藤ほか訳) 『ロールズ政治哲学史講義 I・II』 (岩波書店、2020年)。
ジョン・ロールズ (神島・福間訳) 『政治的リベラリズム 増補版』 (筑摩書房、2022年)。
アイリス・マリオン・ヤング (飯田ほか訳) 『正義と差異の政治』 (法政大学出版局、2020年)。

参考文献
Reference Books

川崎修／杉田敦編『新版 現代政治理論』（有斐閣、2012年）。
 齋藤純一『不平等を考える』（ちくま新書、2017年）。
 齋藤純一／田中将人『ジョン・ロールズ 社会正義の探求者』（中公新書、2021年）。
 戸田山和久『最新版 論文の教室』（NHK出版、2022年）。
 ウィル・キムリッカ（千葉／岡崎ほか訳）『新版 現代政治理論』（日本経済評論社、2005年）。
 デイヴィッド・ミラー（山岡／森訳）『はじめての政治哲学』（岩波書店、2019年）。

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	50%	学期末に期末課題を課す。
平常点評価 Class Participation	50%	レジュメによる報告、討論への積極的で協力的な参加、討論から明らかになる文献の理解度などを総合的に評価する。
その他 Others	%	

備考・関連URL
Note・URL

政治学演習 I

2023

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
120	政治学演習 I (吉野孝)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	吉野 孝
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

現代デモクラシーの政治過程

授業概要 Course Outline

現代デモクラシーは、多くの観点から見直しを迫られている。日本では「55年体制」の崩壊以降、新しい政党政治の在り方が模索され、従来の政府・行政の在り方が再検討されている。たとえば民主党による政権交代は政党政治を再生させることなく、安倍長期政権の下で「忖度の政治」が出現した。また、日本経済の再生、財政再建、震災復興、原発再稼働問題、領土をめぐる中国・韓国とのあつれき、LGBTなど、解決が求められる政策課題が依然として山積みされ、さらに新型コロナウイルス感染対策への対応が遅れた結果、政府には大きな批判が集中した。本演習の課題は、現代デモクラシーの政治過程についての理論と実際の研究をつうじて、現代デモクラシーの問題状況を把握しその解決策を展望することにある。本演習では、次の4作業を行う。1) ゼミ4年生の報告を聞くことをつうじて、テーマの選び方や報告の仕方を学ぶ。2) 共同研究をつうじて、テーマ選択、章の構成、実際の文献調査と報告の仕方を学ぶ。3) 研究に必要なリサーチクエストとは何かを修得し、具体的な事例をつうじてリサーチクエストのつくり方を学ぶ。4) これらの活動をつうじて、今後1年間を履修学生が取り組む個人研究テーマを決定する。

授業は、全回対面型授業として実施する。

授業の到達目標 Objectives

疑問をリサーチクエストに変換し、論理的・段階的な思考をつうじてリサーチクエストに対する解答を発見し、そのプロセスを長い文章で表現する能力を習得する。「それがデモクラシーの政治過程と密接に関係する」という条件の下で、学生が自由にテーマを設定し、3年の秋学期から4年の春・秋学期にかけて5回の報告を行い、それらをまとめて演習論文として提出する。これが、本演習を履修する早稲田大学政治経済学部生の「卒業作品」となる。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

共同研究(テーマ選択、章の構成、文献調査)とリサーチクエストのつくり方は、チーム単位で行われる。決められた順序にしたがい、チーム単位で、ディスカッションをし、レジュメを作成し、プレゼンテーションを行う準備をする。

授業計画 Course Schedule

- 第1回：4年生の報告(3名)を聞き、ディスカッションに参加する。その後でサブゼミとして、共同研究の準備を行う(テーマ選択とチーム分け)
- 第2回：4年生の報告(3名)を聞き、ディスカッションに参加する。その後でサブゼミとして、共同研究の準備を行う(チームごとのディスカッション)
- 第3回：4年生の報告(3名)を聞き、ディスカッションに参加する。その後でサブゼミとして、共同研究の準備を行う(チームごとのディスカッション)
- 第4回：4年生の報告(3名)を聞き、ディスカッションに参加する。その後でサブゼミとして、共同研究の準備を行う(チームごとの研究計画の発表)
- 第5回：4年生の報告(3名)を聞き、ディスカッションに参加する。論文の書き方と注の付け方
- 第6回：仮説・リサーチクエストのつくり方
- 第7回：仮説・リサーチクエストのつくり方
- 第8回：仮説・リサーチクエストのつくり方

- 第9回：仮説・リサーチクエスションのつくり方
 第10回：共同研究のグループ報告①とディスカッション
 第11回：共同研究のグループ報告②とディスカッション
 第12回：共同研究のグループ報告③とディスカッション
 第13回：共同研究のグループ報告④とディスカッション
 第14回：共同研究のグループ報告⑤とディスカッション

教科書
Textbooks

最初の演習時に、ゼミ論の書き方、注の表記方、参考文献一覧などを配付する。その後は、必要に応じて授業の中で紹介する。

参考文献
Reference Books

最初の演習時に、ゼミ論の書き方、注の表記方、参考文献一覧などを配付する。その後は、必要に応じて授業の中で紹介する。

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	100%	出席40%、報告30%、ディスカッションへの参加30%。
その他 Others	%	

備考・関連URL
Note・URL

とくになし

経済学演習 I

2023

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
201	経済学演習 I (安達剛)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	安達 剛
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

経済学を社会問題に応用する力を身に付ける。

授業概要 Course Outline

ミクロ経済学は知識ではなく思考の型であり、社会や日常生活の現場で活用できなければ意味がありません。ミクロ経済学やゲーム理論の授業では理論を抽象的な形で学習していますが、それを「どこで」「どのように」使うのかという技術は、理論とは別に体系的に学習して身に付ける必要があります。この演習では、討議に重点を置いた理論テキストの輪読と、現実の社会問題についてのケーススタディ、そしてフィールドワークの3つを柱として「ミクロ経済学・ゲーム理論を現場で使う技術」を習得していきます。

演習 I では、①問題をインセンティブ構造で捉える技術、②仮説を【発見・発明】に変える技術、③ミクロ経済学・ゲーム理論や統計学を使って独自の研究をする技術、の習得と習熟を目指します。ゼミ生同士の討議をメインとしたケーススタディと、研究計画の指導が中心になります。

授業の到達目標 Objectives

問題をインセンティブ構造で捉える技術について習熟する。
ミクロ経済学・ゲーム理論・統計学を用いた研究の構造について理解する。
問題を自ら見つけ、仮説を考え、検証するプロセスとその意義を学習する。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示する

授業計画 Course Schedule

第1回：イントロダクション
第2～4回：インセンティブ構造で考える（反復練習）
第5～6回：仮説をみがく（反復練習）
第7～8回：簡単に検証する
第9～10回：学問を使って発見・発明をする
第11回：検証方法の学習（ミクロ経済学・ゲーム理論）
第12回：検証方法の学習（統計学）
第13回：研究計画をたてる
第14回：まとめ

教科書 Textbooks

参考文献 Reference Books

<p>評価方法 Evaluation</p>

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	100%	討議への参加度合と、輪読で使用するテキストの読み込み度合で評価する。
その他 Others	%	

<p>備考・関連URL Note・URL</p>

経済学演習 I

2023

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
202	経済学演習 I (荒木一法)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	荒木 一法
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

企業と家計の行動分析 (応用マイクロ経済学)

授業概要 Course Outline

(目的) 本演習は、企業と家計の行動分析を題材として、参加者の分析力とコミュニケーション能力を向上させることを主たる目的とします。

(方法) 伝統的なマイクロ経済学に加えて、ゲーム理論や契約理論を具体的な分析事例を交えて学ぶことで、参加者の分析力の質を高め、幅を拡げることを試みます。また、プレゼンテーションと討論の機会をできるだけ多く確保するとともに、適宜短いレポートの提出を求め、参加者の「話す力」「書く力」の向上に努めます。

(題材の説明) 主に企業の戦略決定(投資・資金調達行動、マーケティングなど)と資金仲介者(銀行・証券会社等)の行動を分析し、時間的余裕があれば家計の消費・貯蓄・資産選択行動も扱いたいと考えています。これらのトピックをマイクロ経済理論を用いて分析する文献を輪読するとともに、関連ニュースを報じる和文および英文の新聞・雑誌等の記事を題材にディスカッションをおこない理論の応用力を強化します。

(授業の進め方) 春学期は共通のテキストを使用し、参加者が担当箇所を発表していきます。例年は各人3回の発表機会があります。夏合宿では事前に設定した課題について調査し、その結果を口頭で発表するとともに、レポートとしてまとめ提出してもらいます。

(授業時間について) ゼミは、3年4年合同で月曜4時限、5時限連続で行います。

(授業以外のゼミ活動) 年間数回のペースで実務の第一線で活躍されているゲストスピーカーによる講義やゼミ卒業生も参加する勉強会を実施する予定です。講義や勉強会を通じて、ゼミ生の皆さんがあたらしい知識・視点を吸収し、将来の進路について考えるヒントを得ることを期待します。月曜4時限&5時限以外の時間に実施される活動については参加を必須とはしませんが、ゼミ生諸君はこれらの活動にも積極的に参加してください。

授業の到達目標 Objectives

- ・状況に応じたプレゼンテーションをおこなうことができる。
- ・ディスカッションにおいて、自らの考えを効果的に伝えたり、多様な意見を整理し集約したりすることができる。
- ・マイクロ経済理論の応用力を強化し、与えられた事例に即応的分析を加えることができる。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示する

授業計画 Course Schedule

- 第1回：プレゼンテーションに関する留意点 (講義)
 第2回～第13回：受講生によるプレゼンテーションとディスカッション
 第14回：夏休みの課題の説明

教科書
Textbooks

2022年春学期は次の2冊を輪読しました。

花園『産業組織とビジネスの経済学』有斐閣ブックス
朝岡・砂川・岡田『ゼミナール コーポレートファイナンス』日本経済新聞出版

参考文献
Reference Books

適宜紹介します。

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	0%	試験は実施しません。
レポート Papers	50%	期末レポートを評価します。
平常点評価 Class Participation	50%	プレゼンテーションの内容とディスカッションへの貢献を評価します。
その他 Others	0%	特にありません。

備考・関連URL
Note・URL

応募を検討する場合は、必ず教員によるオリエンテーション動画を視聴し、ゼミの内容・方針を確認した上で判断してください。特に、次の3科目の単位を取得済みであることが応募の前提条件となっていることに注意してください。「マイクロ経済学入門」、「経済数学入門」、「マイクロ経済学A」

また、本演習の履修が決定した場合は2022年秋学期に「マイクロ経済学B」を必ず履修してください。

経済学演習 I

2023

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
203	経済学演習 I (上田晃三)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	上田 晃三
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

日本の経済・物価情勢の分析：マイクロデータからの分析

授業概要 Course Outline

本演習では、最近の日本経済について、マイクロデータを用いて分析することを目的とする。

具体的に扱うマイクロデータは2つある。第1は、みずほ銀行の取引データである。これは、みずほ銀行さんと早稲田大学との間の学术交流協定に基づき利用が可能になった極めて潜在的の大きいデータである。第2は、スーパーマーケットのPOSデータである。レシート単位での買い物情報から、品目、会員ごとの価格・数量情報を観察できる。

演習では、Rを学習し、それをこれら2つのデータの分析に応用し、経済学・計量経済学の知識を活用しながら日本の経済・物価情勢についての分析を試みる。

また、経済財政白書、日銀展望レポートなどの輪読も行う

※状況に応じて、演習内容変更の可能性あり

授業の到達目標 Objectives

最近の日本経済についての理解、経済学・計量経済学の理解の深化、Rプログラミングの習熟、プレゼン能力の向上

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

毎週、相応の事前準備が必要。一人一人が担当をもち責任をもった分析をすることだけでなく、各班単位でグループとして協調することも重要。

授業計画 Course Schedule

- ・コード (R) の実践
- ・データの分析
- ・プレゼン
- ・経済財政白書、日銀展望レポートなどの輪読
- ・適宜インゼミの実施

教科書 Textbooks

特になし

参考文献 Reference Books

- 福地純一郎、伊藤有希、「Rによる計量経済分析」、朝倉書店、2011
 一星野匡郎、田中久稔、「Rによる実証分析」、オーム社、2016
 一馬場真哉、「R言語ではじめるプログラミングとデータ分析」、ソシム、2019

<p>評価方法 Evaluation</p>

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	100%	プレゼン内容、グループ討議での貢献度合い、発表の内容。出席は必須。
その他 Others	%	

<p>備考・関連URL Note・URL</p>

出席と毎回のゼミへの貢献（発表、質問、コメントなど）は必須。
2年次のプレゼミは、1～2回のレポート提出、3・4年生のゼミへの数回の参加を課す予定。

経済学演習 I

2023

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
205	経済学演習 I (荻沼隆)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	荻沼 隆
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

ゲーム理論と行動経済学を用いた経済分析

授業概要 Course Outline

この演習では、まず行動経済学の理論と分析手法についての基礎的な内容を学習する。その上で、限定合理性を考慮した理論的な分析のように発展的な研究を行うか、特定の分野に関するやや現実的な応用研究を行うことを目的とする。

授業の到達目標 Objectives

意思決定理論・ゲーム理論の基本的内容を理解し、それらを現実の経済問題の分析に用いることができるようにするための準備として、行動経済学の基礎的な内容と心理統計の手法の基礎を理解する。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

関連する統計学、ミクロ経済学、ゲーム理論などの基礎的な知識

授業計画 Course Schedule

第1回～第7回：行動経済学のテキストを輪読し、その内容について議論する。
第8回～第14回：心理統計のテキストを輪読し、その内容について議論する。
また、行動経済学的内容について、アンケート調査を用いた実証分析の計画をグループ分けをし、立ててもらおう。
その計画について、グループごとに発表してもらおう。

教科書 Textbooks

竹村和久「経済心理学 行動経済学の心理的基礎」培風館
山田・村井「よくわかる心理統計」ミネルヴァ書房
その他

参考文献 Reference Books

筒井他「行動経済学入門」東洋経済新報社
南風原朝和「心理統計学の基礎 統合的理解のために」有斐閣アルマ
など。

<p>評価方法 Evaluation</p>

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	50%	内容の正確さおよび問題設定・分析力を考慮する。
平常点評価 Class Participation	50%	出席および授業への参加度、授業内での発表を総合的に考慮する。
その他 Others	%	

<p>備考・関連URL Note・URL</p>

学生に対する要望：ミクロ経済学とゲーム理論に関する演習なので、演習参加者は、事前にミクロ経済学とゲーム理論の基礎知識があることが望まれる。それがあまりない場合は、演習での最初のテキストブックの学習の時点で、キャッチアップするやる気のあることが前提条件になる。なおこの演習は、今年度は対面授業を予定している。

経済学演習 I

2023

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
206	経済学演習 I (小倉義明)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	小倉 義明
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

金融の統計分析

授業概要 Course Outline

この演習では、金融理論の基本を参加者全員で議論しながら学ぶと同時に、自ら論理を組み立て、統計的手法でそれを立証し、文章あるいはプレゼンテーションとしてそれを表現する訓練をする。

授業の到達目標 Objectives

この演習では、以下の5点を目標とする。

1. 金融の基礎概念・理論を十分に理解すること。
2. 日々報道される金融事象の意味を的確に把握できること。
3. 自分の前提とする仮定を意識しつつ、自ら論理を組み立て、それを表現できるようになること。
4. 英語による情報収集に慣れること。
5. ソフトウェアを用いた統計分析に慣れること。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示する

授業計画 Course Schedule

- 第1回：オリエンテーション・打ち合わせ
 第2～7回： テキスト1 輪読・検討 Part 3: Financial Institutions (毎回3-4名程度が担当個所を報告)
 第8～11回： 統計ソフトウェアRの練習
 第12～13回： グループ研究
 第14回： グループ研究の中間報告

教科書 Textbooks

Mishkin, F. S., The Economics of Money, Banking and Financial Markets, Global Ed. of 13th revised Ed., 2021. (プレゼミでPart 2、前期ゼミでPart 3, 4を輪読する。生協でペーパーバック版を販売予定(7000円程度)、Kindle版(やや高め)、中古でも可)

参考文献 Reference Books

授業中に関連する論文・書籍・データを紹介する。

評価方法 Evaluation

試 験 Examinations	割 合 (%) Percent (%)	評 価 基 準 Description
レポ ー ト Papers	30%	グループ研究構想発表会に参加すること
平常点評価 Class Participation	70%	出席。報告。議論への活発な参加。
そ の 他 Others	%	

備考・関連URL Note・URL

- マクロ経済学A、ミクロ経済学Aを履修済みであることが望ましい。
- 金融論とファイナンスの両方を履修する予定であることが望ましい。
- 計量経済学を並行して履修すると、分析手法の幅が広がるのでなお良い。

関連URL：指導教員の紹介

<https://www.waseda.jp/fpse/faculty/2019/08/12/401/>

指導教員の近著：

『地域金融の経済学-人口減少下の地方活性化と銀行業の役割』 2021年 慶応義塾大学出版会

経済学演習 I

2023

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
207	経済学演習 I (金子昭彦)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	金子 昭彦
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

マクロ経済分析と国際金融

授業概要 Course Outline

経済学演習Iでは、まず下記の教科書1を利用し国際金融及び国際貿易の基礎を学ぶ。その後、参加者各自の興味を踏まえた上で、教科書2や参考文献にあるような国際金融への実証的アプローチもしくは動学的アプローチに移る。

授業の到達目標 Objectives

国際金融及び国際貿易の基本モデルを理解すること。

経済学演習IIでは、教科書2を用いて実証的アプローチを勉強する予定であるが、その前段階として国際金融及び国際貿易の基本モデルを理解することが経済学演習Iの目的である。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示する

授業計画 Course Schedule

第1回～第15回：国際金融及び国際貿易の基礎知識の取得

教科書 Textbooks

1. "The Economics of European Integration" 6th edition Richard Baldwin and Charles Wyplosz, McGraw-Hill Education
2. 「MBAのための国際金融」小川英治 川崎健太郎 有斐閣

参考文献 Reference Books

"International macroeconomics: A modern approach" Martı́n Uribe, Stephanie Schmitt-Grohé, Michael Woodford, Princeton

評価方法 Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	100%	出席状況、予習。
その他 Others	%	

備考・関連URL Note・URL

ミクロ経済学入門、マクロ経済学入門の内容を理解していること。
 自習時間に時間をかけることが望まれる。

経済学演習 I

2023

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
208	経済学演習 I (上條良夫)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	上條 良夫
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

行動・実験経済学

授業概要 Course Outline

一連の演習 (I~IV) は、実験経済学および行動経済学に関する卒業論文を執筆することを目標として実施されます。実験経済学の研究の花形である経済実験を利用した研究を遂行するには以下のような多様な能力が必要となります。

- (1) 経済理論や他分野の理論に基づいて仮説・予測を構築する能力
- (2) 仮説・予測を検証するための適切な実験計画を立てる能力
- (3) 実験を準備し、遂行する能力
- (4) 収集されたデータを解析する能力
- (5) 一連の作業を言語化し論文としてまとめる能力

一連の演習では、これらの能力を獲得するための学習に取り組みます。学習内容は、実験経済学・行動経済学・ゲーム理論のテキスト輪読に加えて、実際の研究データを題材としたデータ解析演習、先行研究を読み込んだ上での自分なりの仮説構築を目的としたグループワーク、実験実施の際に必要なマテリアルの作成演習などを含みます。もちろん、一人の個人がこれらの多様なスキルに熟達することは非常に困難です。そこで、学生の皆さんには、まずこれらの能力に関して一定水準のスキルを獲得した上で、それぞれの個性と希望に応じて、

- (A) 数理的な解析に基づいて仮説・予測を構築するグループ
- (B) 政治学・心理学・社会学などの他分野の理論から仮説・予測を構築するグループ
- (C) 実験用の資料やアプリを作成するグループ
- (D) データを解析するグループ

などに分かれて活動してもらいます。

詳細な内容やグループ分けは、学生の関心、習熟度などに応じて臨機応変に決定します。

演習 I では、実験計画書 (研究計画書) の執筆を目標とします。

授業の到達目標 Objectives

卒業論文の執筆に向けた技能を習得するとともに、実験計画書 (研究計画書) の執筆をする。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

入門的な統計学の知識及びゲーム理論の知識を前提とする。

授業計画
Course Schedule

学生の発表とグループワークを中心として演習を進める。
学生の希望に応じて、他大学（同志社大学の田口ゼミなど）との合同ゼミなどの企画について検討する。

- 第1回：研究アイデアに関する進捗報告とディスカッション（1）
- 第2回：研究アイデアに関する進捗報告とディスカッション（2）
- 第3回：研究アイデアに関する進捗報告とディスカッション（3）
- 第4回：研究アイデアに関する進捗報告とディスカッション（4）
- 第5回：研究アイデアに関する進捗報告とディスカッション（5）
- 第6回：研究計画書に関する進捗報告とディスカッション（1）
- 第7回：研究計画書に関する進捗報告とディスカッション（2）
- 第8回：研究計画書に関する進捗報告とディスカッション（3）
- 第9回：研究計画書に関する進捗報告とディスカッション（4）
- 第10回：研究計画書に関する進捗報告とディスカッション（5）
- 第11回：研究計画の発表（1）
- 第12回：研究計画の発表（2）
- 第13回：研究計画の発表（3）
- 第14回：これまでの総括

教科書
Textbooks

講義中に指示する。

参考文献
Reference Books

講義中に指示する。

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	%	
その他 Others	100%	平常点 50% その他 50% 発表及び実験計画書のクオリティ

備考・関連URL
Note・URL

経済学演習 I

2023

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
209	経済学演習 I (小林和夫)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	小林 和夫
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

グローバル経済史の研究—植民地主義と経済

授業概要 Course Outline

私たちが生きている現在の世界は、どのようにして形成されたのだろうか。このような問いを考えるときのキーワードの1つが、「グローバル化」であろう。一般に広く浸透しているストーリーは、ヨーロッパ人（+アメリカ人）を中心的アクターとするものであろう。そこでは、彼らの商業的・植民地主義的拡大は、アジアやアフリカの諸地域を自らの世界システムに「併呑」していく過程として捉え、他方で「併呑」された諸地域の人々は、「受動的な犠牲者」として描かれることが多かった。しかし、そのような解釈は、20世紀後半に「奇跡」と呼ばれた東アジアの経済成長、より最近のインドの経済成長、さらにはアフリカ諸国の経済成長をどれほど説明することができるのだろうか。現在の私たちが生きている世界で起きている変化は、昔ながらのヨーロッパ中心主義的歴史解釈に束縛されることなく、各地域のアクターの役割にも目を向けてみることの重要性を教えてくれているのではないか。そこで本演習では、最近出版された書籍をもとに議論を重ねながら、グローバル化の歴史的過程について理解を深めていきたい。とりわけ植民地支配が各地域経済の発展におよぼした影響について関心を絞り、現在の状況をどこまで説明することができるのか、展望したい。

授業の到達目標 Objectives

テキストの輪読を通じて、経済史研究の基本的事項を習得する。それと合わせて、多面的に歴史を捉える能力を涵養する。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示する

授業計画 Course Schedule

報告担当者を決めて、毎週テキストを輪読する。今学期は、プレ経済学演習の続きで、Gardner and Roy (2020)を輪読する。学期の途中で卒業論文の書き方を学ぶ機会も作り、各参加者の卒論研究プロジェクトに関する議論の時間も設ける予定である。

教科書 Textbooks

Leigh Gardner and Tirthankar Roy, The Economic History of Colonialism (Bristol: Bristol University Press, 2020).

参考文献
Reference Books

ティルタンカル・ロイ (水島司訳) 『インド経済史—古代から現代まで』名古屋大学出版会、2019年 (Tirthankar Roy, *India in the World Economy: From Antiquity to the Present*, Cambridge: Cambridge University Press, 2012).

Ellen Hillbom and Erik Green, *An Economic History of Development in Sub-Saharan Africa: Economic Transformations and Political Change* (Cham: Palgrave Macmillan, 2019).

A. G. Hopkins, *An Economic History of West Africa* (2nd edition, London and New York: Routledge, 2019).

Michiel de Haas and Ewout Frankema, eds., *Migration in Africa: Shifting Patterns of Mobility from the 19th to the 21st Century* (London and New York: Routledge, 2022).

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	100%	プレゼンテーションと議論への貢献
その他 Others	%	

備考・関連URL
Note・URL

演習担当者が担当している経済史入門A02を受講済みであることを求める。未履修の場合は、春学期に受講すること。

経済学演習 I

2023

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
210	経済学演習 I (近藤康之)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	近藤 康之
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

貿易、環境、経済効果の計量分析

授業概要 Course Outline

製品を生産するには半製品や電力などが必要であり、半製品や電力を生産するには原材料や天然資源が必要です。製品のサプライチェーンは、さまざまな生産プロセス（あるいは産業）の複雑なネットワークにより構成されています。経済のグローバル化が進んだ現代においては、製品のサプライチェーンは世界各国に広がっています。したがって、我々の消費活動は国内産業だけでなく、貿易を通じて他国の産業にも影響を与えます。また、生産活動により不可避免的に廃棄物や温室効果ガスなどが排出されるため、我々の消費活動は様々な地域の自然環境にも影響を与えます。持続可能な消費と生産を実現するためには、製品の国際サプライチェーンについて、データに基づいて理解することが必須です。

この演習では、貿易、環境、経済効果の計量分析の方法として、産業連関分析を学びます。産業連関分析は、経済学分野において発展してきたものですが、産業エコロジー分野における主要な分析手法の1つとしても広く用いられています。経済学演習IとIIを通して、学んだ産業連関分析の方法をデータに適用して環境問題・社会経済問題を分析します。これを1チーム4人程度の共同研究として実施します。

2年生の秋学期後半に実施するプレ演習では、産業エコロジー分野における産業連関分析に関する分析事例を通して、産業連関分析がどのように用いられているかを学びます。

授業の到達目標 Objectives

産業連関分析の基礎的方法を理解し、それを実際にデータに適用して貿易、環境、経済効果の計量分析を行えるようになること。また、分析結果をレポートおよび口頭により発表する技術を向上すること。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示する。

授業計画 Course Schedule

産業連関分析の基礎的方法の学習は、オンデマンドコンテンツを用いた事前学習と、ゼミの授業時間中の補足説明などを組み合わせて行います。1チーム4人程度で11月までに共同論文を執筆するために予備的分析を行うことが春学期中の課題です。ゼミの授業時間の多くは、共同論文のためのグループワークに充てられます。

第1回～第6回：共同研究論文のテーマ検討

第7回～第14回：共同研究論文のためのグループワークおよび進捗報告

教科書 Textbooks

指定しません。

参考文献
Reference Books

学期の途中で随時指示します。

小長谷一之・前川知史（編）（2012）『経済効果入門：地域活性化・企画立案・政策評価のツール』日本評論社

藤川清史（2005）『産業連関分析入門：ExcelとVBAでらくらくIO分析』日本評論社

Miller, R. E.; Blair., P. D. (2022) Input-Output Analysis: Foundations and Extensions, 3rd ed. Cambridge University Press

Nakamura, S.; Kondo, Y. (2009) Waste Input-Output Analysis: Concepts and Application to Industrial Ecology. Springer

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	50%	宿題、共同研究論文（予備的分析）
平常点評価 Class Participation	50%	グループワーク、進捗報告のプレゼンテーション
その他 Others	%	

備考・関連URL
Note・URL

経済学演習 I

2023

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
211	経済学演習 I (西郷浩)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	西郷 浩
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

社会・経済の統計的分析

授業概要 Course Outline

この演習Iは、Rなどの統計ソフトウェアを利用しながら、各種の統計分析の手法を学習する。教科書を含めた教材は、ゼミ生と相談して選ぶ。ゼミ生全員が自主的に実習に取り組むことを期待する。

この演習は、ゼミ生が演習I、II、III、IVをすべて履修することを想定して、演習IVにおいて演習論文を完成することを最終的な目標とする。演習Iと演習IIは、演習論文作成に必要な統計的分析手法の習熟に充てられる。演習IIIと演習IVは、各自が選んだテーマに沿って、分析の結果を定期的に報告し、ゼミ生との議論に基づいて分析を発展させることに充てられる。

演習I、演習III（どちらも春学期に開講される）では合宿を実施する予定である。

年間の予定や演習論文のテーマについては、備考・関連URLにある、2004年度以降の演習の記録を参照のこと。

授業の到達目標 Objectives

演習I：Rなどのソフトウェアを用いて統計分析が実行できること。

演習II：同上

演習III：各自が選んだテーマに沿って統計データを分析すること。

演習IV：演習論文の完成

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

- (1) 「統計学I」と「統計学II」を単位取得済みであること。
- (2) 「計量経済学I」を単位取得済みまたは登録中であることが望ましい。演習Iと並行して登録するのもよい。

授業計画 Course Schedule

第1回：オリエンテーション・教科書の輪読

教科書の輪読とRによる統計実習

第2回：教科書の輪読

教科書の輪読とRによる統計実習

第3回：教科書の輪読

教科書の輪読とRによる統計実習

第4回：教科書の輪読

教科書の輪読とRによる統計実習

第5回：教科書の輪読

教科書の輪読とRによる統計実習

第6回：教科書の輪読

教科書の輪読とRによる統計実習

第7回：教科書の輪読

教科書の輪読とRによる統計実習

第8回：教科書の輪読
 教科書の輪読とRによる統計実習
 第9回：教科書の輪読
 教科書の輪読とRによる統計実習
 第10回：教科書の輪読
 教科書の輪読とRによる統計実習
 第11回：教科書の輪読
 教科書の輪読とRによる統計実習
 第12回：教科書の輪読
 教科書の輪読とRによる統計実習
 第13回：教科書の輪読
 教科書の輪読とRによる統計実習
 第14回：教科書の輪読
 教科書の輪読とRによる統計実習

教科書
Textbooks

ゼミ生と相談して決定する。

参考文献
Reference Books

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	50%	期末レポート（演習で使用したスライドなどをもとに作成したもの）
平常点評価 Class Participation	50%	演習における報告の内容
その他 Others	%	

備考・関連URL
Note・URL

過去の演習の記録<http://www.f.waseda.jp/saigo/info/seminarsupervision.htm>
 提出された演習論文の題名
<http://www.f.waseda.jp/saigo/info/seminartheses.htm>

経済学演習 I

2023

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
212	経済学演習 I (笹倉和幸)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	笹倉 和幸
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

マクロ経済学 (新古典派総合)

授業概要 Course Outline

この演習では新古典派総合について研究する。新古典派総合とは、短期においてはケインズの理論がそして長期においては新古典派の理論が成り立つという、1955年にサミュエルソンによって提案されたマクロ経済学の考え方である。新古典派総合は1960年代には影響力があったが、次第に顧みられなくなり、現在では「瓦解した理論体系」とみなされている。この演習では新古典派総合の今日的意義を探究する。新古典派総合については『標準 マクロ経済学』13～15ページにわかりやすい説明がある。さらに新古典派総合については参考文献(1)～(4)を、マクロ経済学の現状については参考文献(5)～(8)をできるだけ読んでおくこと。

授業の到達目標 Objectives

新古典派総合について自分自身の考えをもてるようになる。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

ケインズ『一般理論』を毎週2章ずつ読んで報告書を作成する。所要時間は毎週90分。

授業計画 Course Schedule

- 第1回：ケインズ『一般理論』
ケインズ『一般理論』について説明します。
- 第2回：古典派理論とセイの法則
古典派理論とセイの法則について説明します。
- 第3回：有効需要の原理
有効需要の原理について説明します。
- 第4回：消費理論
消費理論について説明します。
- 第5回：乗数理論
乗数理論について説明します。
- 第6回：投資理論
投資理論について説明します。
- 第7回：流動性選好説
流動性選好説について説明します。
- 第8回：貨幣数量説
貨幣数量説について説明します。
- 第9回：ハロッドの経済動学
ハロッドの経済動学について説明します。
- 第10回：ケインズ派の景気循環理論
ケインズ派の景気循環理論について説明します。
- 第11回：ヒックスとIS-LMモデル
ヒックスとIS-LMモデルについて説明します。
- 第12回：マネタリズムと合理的期待形成学派

マネタリズムと合理的期待形成学派について説明します。

第13回：新しいケインズ派経済学

新しいケインズ派経済学について説明します。

第14回：新古典派経済成長理論

新古典派経済成長理論について説明します。

教科書 Textbooks

Keynes, John M., 1936, *The General Theory of Employment, Interest and Money*, London: Macmillan. (ケインズ (塩野谷祐一訳), 1995, 『雇用・利子および貨幣の一般理論』東洋経済新報社.)

参考文献 Reference Books

(1) 荒憲治郎, 1974, 「新古典派総合：混合経済下の政策論の模索」, 稲田献一・岡本哲治・早坂忠編『近代経済学再考』有斐閣, pp. 91-118.

(2) 根井雅弘, 2018, 『サムエルソン『経済学』と新古典派総合』中央公論新社.

(3) De Vroey, Michel, 2016, *A History of Macroeconomics from Keynes to Lucas and Beyond*, New York: Cambridge University Press.

(4) Karier, Thomas, 2010, *Intellectual Capital: Forty Years of the Nobel Prize in Economics*, Cambridge: Cambridge University Press. (キャリアー (小坂恵理訳), 2012, 『ノーベル経済学賞の40年』(上下巻) 筑摩書房.)

(5) Chugh, Sanjay K., 2015, *Modern Macroeconomics*, Cambridge, Massachusetts: The MIT Press.

(6) Colander, David, and Craig Freedman, 2019, *Where Economics Went Wrong: Chicago's Abandonment of Classical Liberalism*, Princeton: Princeton University Press.

(7) Mankiw, N. Gregory, 2006, "The Macroeconomist as Scientist and Engineer," *Journal of Economic Perspectives*, Vol. 20, pp. 29-46.

(8) Romer, David, 2019, *Advanced Macroeconomics*, 5th Edition, New York: McGraw-Hill. (ローマー (堀雅博・岩成博夫・南條隆訳), 2010, 『上級マクロ経済学』(第3版) 日本評論社)

評価方法 Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	40%	3年次はタームペーパー、4年次はゼミ論文の質で評価する。
平常点評価 Class Participation	60%	授業への積極的参加。
その他 Others	%	

備考・関連URL Note・URL

経済学演習 I

2023

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
213	経済学演習 I (鎮目雅人)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	鎮目 雅人
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

世界の中における日本経済の歴史/Japanese economy in the modern world

授業概要 Course Outline

われわれが生きている現在は、過去から未来へと続く長い歴史の一局面である。本演習では、グローバルな環境の中での日本の位置づけの変遷を意識しつつ、日本経済史研究の基礎を学ぶ。その際、経済学の知識(理論・実証)と歴史学のアプローチ(史料批判/document critique)を用いて社会現象を分析する方法論を学ぶ。履修者は、自ら資料を読み歴史について考えるという意味で、講義科目としての経済史の授業(既存の研究成果を受け身で受け取る)とは異質な世界を体験することとなる。春学期(演習I)においては、経済史に関するカレントなトピックを選び、資料を批判的に検討する。毎回、参考文献・資料について、全員でディスカッションを行うことを想定しているため、参加者全員があらかじめ参考文献に目を通しておくことが期待される。履修者は、2年生秋学期までに「経済史入門」、3年生春学期までに「日本経済史」を履修すること。なお、ゼミへの参加に際して日本語の文献を読む能力は必須である/Students are expected to be able to read contemporary Japanese.

授業の到達目標 Objectives

日本経済史研究の基礎を習得したうえで、経済史研究の方法論に則り、各自が単著による研究論文を完成させることを最終目標とする。そのための準備作業を通じ、①自らの問題意識に基づき、②客観的な論拠に基づいて検証を行い、③研究の成果を他者に伝える技術を習得する。研究論文の執筆言語は日本語または英語とする/Students will be required to write a thesis either in Japanese or English.

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

毎回のゼミに際して、事前に全員が課題に目を通し、ゼミ開始までに要約を提出することを義務付ける。

授業計画 Course Schedule

日本経済史に関する文献資料を批判的に検討する。以下のテーマを予定している(履修者と相談のうえ決定するため変更の可能性あり)。

- その1: 戦争と経済
- その2: 感染症の歴史
- その3: 未定

教科書 Textbooks

指定しない。

参考文献 Reference Books

その都度指示する。

<p>評価方法 Evaluation</p>

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	%	
その他 Others	100%	毎回のゼミの事前課題：30% 授業への積極的参加（報告・ディスカッション）：70%

<p>備考・関連URL Note・URL</p>

経済学演習 I

2023

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
214	経済学演習 I (田中久稔)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	田中 久稔
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

経済学のための数学的方法

授業概要 Course Outline

この演習では、経済学(とくに計量経済学)を学ぶにあたって必要となる数学的な基礎を習得する。とくに線形代数や確率論などの数学の基礎分野をしっかりと学んだうえで、計量経済学の基礎理論(最小二乗法、一般化積率法(GMM)、最尤法など)についてのトレーニングを行う。数学は基礎から復習するため、現時点では数学に不安のある学生の参加も歓迎する。参加希望者は以下の点に十分に注意すること：(i) 本演習では統計処理言語「R」や数学的文書作成ソフト「LaTeX」を多用する。したがって各自が自分のノートPC(安価なもので構わない)を用意する必要がある。(ii) この演習では非常に広い範囲を深く学習することになるため、月曜4限・5限に2コマ連続して実施する。(iii) 木曜日4限にサブゼミを実施する。

授業の到達目標 Objectives

以下の4点を目標とする。

- (i) 線形代数について深い理解を得る。
- (ii) 回帰分析の基礎について、十分な理解を得る。
- (iii) 社会・経済現象を統計処理言語「R」を用いて数値的に分析する。
- (iv) 「LaTeX」を用いて数理的な内容を含む小論文を執筆できる。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

ゼミの前後にそれぞれ1時間程度の予習復習を課す。また当番制でゼミの内容をまとめたノートをLaTeXにより作成する。

授業計画 Course Schedule

- 1) 線形代数の入門(プレゼミ)
- 2) LaTeXの使い方(プレゼミ)
- 3) 上級線形代数
- 4) 数学の論文を読んでみる

教科書 Textbooks

斎藤毅「線形代数の世界—抽象数学の入り口」(東京大学出版会)
田中久稔「計量経済学のための数学」(日本評論社)
星野・田中「Rによる実証分析」(オーム社)

参考文献 Reference Books

アルティン「ガロア理論入門」(ちくま文庫)

<p>評価方法 Evaluation</p>

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	100%	毎回のゼミの後に作成する「議事録」によって評価する。
平常点評価 Class Participation	%	
その他 Others	%	

<p>備考・関連URL Note・URL</p>

経済学演習 I

2023

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
215	経済学演習 I (内藤巧)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	内藤 巧
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

国際貿易論

授業概要 Course Outline

国々はどのような財を輸出し、輸入するのか？人々は貿易から利益を受けるのだろうか？このような問題を扱う国際貿易論は19世紀以来多くの人たちの興味を引きつけてきたが、それを理解し、他人に説明できるまでに習熟するのは平均的な経済学科の学部生にとって非常に難しい。

国際貿易論が難しい1つ目の理由は、一般均衡モデルを考えなければならないからである。国際貿易は異なる産業の間で、あるいはある産業内の異なる製品の間で起こるものなので、必然的に2つ以上の財あるいは製品（そしてそれらの生産に使われる生産要素も）の市場均衡を同時に扱わなければならない。中級ミクロ経済学の授業でさえ不十分にしか触れられない生産経済の一般均衡モデルを、2つ以上の国がある経済で分析しなければならないのだから、理論的な難易度が高いのは当然である。

2つ目の理由は、国際貿易論の実証科学化である。より細かいデータの入手可能性とコンピューターの性能が高まり続けていく中で、国際貿易の理論はますます実証可能になってきている。しかしながら、理論と現実の距離を正確に測るためには、適切な計量手法を理解し、実装するスキルを身につけなければならない。

このように、国際貿易論に習熟するには多くの時間と努力が必要である。このゼミでは、I-IVの4学期にわたって、国際貿易モデル（完全競争モデルと不完全競争モデル）の理論と実証を「ゆっくり」「深く」学ぶ。より具体的には、奇数年度には完全競争モデル（リカード・モデル、ヘクシャー・オリーフ・モデルなど）、偶数年度には不完全競争モデル（クルッグマン・モデル、メリッツ・モデルなど）を扱う。春学期（演習I, III）には理論、秋学期（演習II, IV）には実証を行う。

前提条件として、演習Iの開始時点までに2年春学期配当「ミクロ経済学A」、及び演習IIの開始時点までに2年春学期配当「計量経済学」を履修するか、それと同等の知識を身に着けていることが必要である。

授業の到達目標 Objectives

国際貿易モデル（完全競争モデルと不完全競争モデル）の理論と実証を理解し、説明できるようになる。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

発表者はランダムに当てられるので、全ての学生は常に発表の準備をし、章末問題を解いておかなければならない。理論の場合は発表スライドを用意する必要はない。

授業計画 Course Schedule

奇数年度第1回-第14回：完全競争貿易モデルのハンドアウトを輪読し、章末問題を解く。
偶数年度第1回-第14回：不完全競争貿易モデルのハンドアウトを輪読し、章末問題を解く。

教科書 Textbooks

なし；ハンドアウトがオンラインで配布される。

参考文献
Reference Books

大学院レベル：

Feenstra, R. C., 2016. Advanced International Trade, Second Edition, Princeton University Press, Princeton.

実証（演習II, IVの教科書）：

清田耕造, 神事直人, 2017. 『実証から学ぶ国際経済』. 有斐閣, 東京.

中級（プレ演習の教科書）：

阿部顕三, 遠藤正寛, 2012. 『国際経済学』. 有斐閣, 東京.

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	100%	<ul style="list-style-type: none"> ・発表及び議論のパフォーマンスを総合的に評価する. ・欠席3回以上で不合格. ただし, 就職活動等による欠席は事前に証拠を提出したときのみ欠席として扱わない.
その他 Others	%	

備考・関連URL
Note・URL

<<https://www.f.waseda.jp/tnaito/>>

経済学演習 I

2023

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
216	経済学演習 I (船木由喜彦)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	船木 由喜彦
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

ゲーム理論と実験経済学

授業概要 Course Outline

この演習では I から IV まで継続することにより、「ゲーム理論」の基礎を修得すること、また、「経済学実験」を実施・分析する基礎能力を修得することを目標とします。さらに、それに関連する経済学・政治学諸分野の問題を研究します。例えば環境問題、情報の経済学、産業組織論、公共財供給問題などがそれらの研究テーマの一例となります。

ゲーム理論では、互いに依存関係のある状況における、個人の合理的な意思決定や行動を研究します。実験経済学では、ゲーム理論や経済学の理論のとおりになんが行動するのか、もし、そうでないとすると、それはなぜかという問題を研究します。

最終的な目標は自分の定めた研究テーマの卒業論文を作成し、それを卒論発表会で報告して頂くことです。3年次の演習 I・演習 II では、このための基礎研究をします。まずは、担当教員の推薦するゲーム理論あるいは実験経済学の平易なテキストまたは資料を輪読することから始める予定です。その際、実際にゼミの皆さんに参加していただいて、人々の行動選択の実験を実施し、実験経済学をより理解していただく予定です。卒業論文のテーマとしては上記のほか、実際に実験を実施した研究、国際政治・国際経済に関する研究、スポーツのゲーム理論分析、制度の比較研究、交通混雑の解消の問題、ゼミの学生マッチングの問題など内容は多岐にわたりますが、そのほとんどがゲーム理論に関連した研究です。その中には論文コンクールにおいて優秀賞を受賞したものもあります。なお、卒業論文の内容は卒論発表会にて報告しますが、0Bや2年生の参加もあります。例年、1-2割の学生が大学院に進学します。なお、各演習科目修了時にはその期間に学んだことをまとめたレポートを作成していただきます。

実験経済学に関しては、担当教員の実施する経済学・ゲーム理論実験に参加して頂き、実地的に実験経済学の知識・技能を修得して頂く予定です。東京大学や慶応大学とのインターゼミ、さらにオープンゼミの準備、発表会なども実験経済学の修得に役立ちます。

授業の到達目標 Objectives

ゲーム理論の基礎知識の確実な修得、経済学実験実施・分析能力の修得、さらにそれらを踏まえた応用力の養成。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示する

授業計画
Course Schedule

大学の基準に沿って、対面授業で行います。

経済学演習 I

- 第1回：春休み中の研究報告、テキスト選定、年度計画
 第2回～第13回：テキスト輪読、経済学実験実習
 第14回：テキスト輪読、経済学実験実習、オープンゼミへの対応を含めた演習
 夏合宿（テキスト輪読、経済学実験実習、懇親会）

経済学演習 II

- 第15回～第20回：テキスト輪読、経済学実験実習、慶応大学とのインターゼミ
 第21回～第22回：卒論テーマ設定（議論と面接）
 第23回～第24回：卒論研究に向けての報告と議論、3年次期末レポートの作成
 第25回～第26回：4年生の卒論に対する討論、3年次期末レポートの作成
 第27回：卒論発表会（4年生）と討論会
 第28回：今後研究計画の報告、3年次期末レポートの提出

教科書
Textbooks

担当教員の配付する資料またはテキストを用います。

参考文献
Reference Books

- 船木由喜彦『初めて学ぶゲーム理論』（新世社）
 船木由喜彦『ゲーム理論講義』（新世社）
 船木、武藤、中山編著『ゲーム理論アプリケーションブック』（東洋経済新報社）
 中山、武藤、船木編著『ゲーム理論で解く』（有斐閣）
 武藤滋夫『ゲーム理論入門』（日経文庫）
 船木、石川編著『制度と認識の経済学』（NTT出版）
 佐々木宏夫『入門ゲーム理論』（日本評論社）
 梶井厚志『戦略的思考の技術』（中公新書）
 船木由喜彦『演習ゲーム理論』（新世社）
 岡田 章『ゲーム理論・入門』（有斐閣アルマ）
 河野、西條編『社会科学の実験アプローチ』（勁草書房）
 川越敏司『行動ゲーム理論入門』（NTT出版）
 フリードマン・サンダー『実験経済学の原理と方法』（川越ほか訳・同文社）

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	%	
その他 Others	100%	出席点を基に、演習での報告、議論、レポートの内容を加味して成績評価をする。

備考・関連URL
Note・URL

学生に対する要望：「受講希望学生に対する掲示」を良く読んでください。
 関連URL：<http://funakiwaseda.goodplace.jp/>
<http://yukihikofunaki.blogspot.jp/>
 大学院進学希望者は4年次より、大学院のゼミに参加することができます。

経済学演習 I

2023

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
217	経済学演習 I (星野匡郎)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	星野 匡郎
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

ミクロ計量経済学と機械学習

授業概要 Course Outline

ミクロ計量経済学とは、個人や家計、企業などの個票データに関する計量経済手法のことを指します。本講義では、機械学習を含む先端的なミクロ計量経済学の学習に取り組みます。

近年はとくに機械学習を中心に学習しています。

具体的な内容については、テキストの輪読、統計ソフトを用いた演習、グループでの論文執筆、論文・政策コンテストへの参加など、学生のレベルや希望に応じて決定します。

授業の到達目標 Objectives

卒業論文の執筆に向けて、より専門的なテキストや先行研究を読解できるようになる。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

入門的な計量経済学の知識は前提とします。

授業計画 Course Schedule

学生の発表を中心に授業を進めます。前半はテキストの輪読、統計ソフトを用いた演習、グループワークなど。後半から卒業論文執筆に向けてより応用的な学習を行います。そのほか、合宿や他大学との合同ゼミの有無などは、学生の希望に応じて決定します。

教科書 Textbooks

講義中に指示する

参考文献 Reference Books

2018年度輪読テキスト

『Rによる実証分析：回帰分析から因果分析へ』(2016) オーム社 星野匡郎, 田中久稔

2019年度輪読テキスト

『Pythonからはじめる数学入門』(2016) オライリージャパン Amit Saha

『ゼロから作るDeep Learning: Pythonで学ぶディープラーニングの理論と実装』(2016) オライリージャパン 斎藤康毅

2020年度輪読テキスト

『TensorFlowで学ぶディープラーニング入門』(2016) マイナビ出版 中井悦司

2021年度輪読テキスト

『東京大学のデータサイエンティスト育成講座』(2019) マイナビ出版 塚本邦尊, 山田典一, 大澤文孝

『自然言語処理のための深層学習』(2019) 共立出版 Yoav Goldberg

<p>評価方法 Evaluation</p>

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	60%	授業出席, 発表, 議論への参加
その他 Others	40%	発表のクオリティーに応じて加算する.

<p>備考・関連URL Note・URL</p>

経済学演習 I

2023

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
218	経済学演習 I (村上由紀子)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	村上 由紀子
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

労働に関する研究

授業概要 Course Outline

経済活動における労働の役割や貢献は大きい。生産関数には労働という生産要素が含まれ、これは人口の影響を受けるが、その質を高め活かすことは、企業の繁栄、イノベーション、経済成長へつながっていく。また、労働力を供給する人間の多くは、人生の多くの時間を労働に費やしている。能力を発揮し、やる気をもって仕事に取り組みながら、人生の中でワークとライフのバランスをとっていくことは重要である。本演習では、経済の根幹と我々の生活を支える労働について、国や企業の視点からは、技術進歩、産業構造の変化、経済のグローバル化、少子高齢化等の環境変化の中で、いかに人的資源の質を高め、有効に活用し様々な分野で成果を上げていくかという課題について取り組む。また、勤労者の視点からは、個人がより幸せになるように、ライフステージに応じた労働時間、働き方、職業の選択、教育訓練投資や労働移動(転職や国際移動)などが実現するように、社会の仕組みや政策について考察する。

授業の到達目標 Objectives

授業概要で記したテーマに関連する文献を読み、ディスカッションを行うことを通じて、知識を深め、思考力と研究に必要なスキルを高める。また、12月に予定されているインターゼミナールの準備として、グループに分かれ、研究課題を設定し、研究計画をたてる。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示する

授業計画 Course Schedule

第1回：オリエンテーション
第2回～5回：文献研究とディスカッション
第6回：ディベート
第7回：データ検索
第8～11回：文献研究とディスカッション
第12～13回：グループ研究の課題設定と研究計画
第14回：プレゼンテーション

教科書 Textbooks

参考文献 Reference Books

<p>評価方法 Evaluation</p>

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	%	
その他 Others	100%	出席および授業中のディスカッション等への参加 (50%) 宿題 (30%) グループワークの成果 (20%)

<p>備考・関連URL Note・URL</p>

経済学演習 I

2023

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
219	経済学演習 I (山本竜市)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	山本 竜市
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

ファイナンス

授業概要 Course Outline

ファイナンスとは資産運用・取引、リスクマネジメント、投資の意思決定に関する研究全般を示します。本演習ではファイナンス分野の教科書の輪読やファイナンス理論・実証論文のサーベイを通じ、卒論のテーマの探し方、論文の書き方、研究発表方法など指導します。卒論では興味のあるファイナンスの世界にある問題を取りあげ、データを使って（数学を使っても構わない）簡単に分析してもらいます。

毎年8月下旬にソウル国立大学、台湾国立政治大学、慶応大学（竹森ゼミ）、Israel College of Management、千葉商科大学（学長ゼミ）、名桜大学、ベトナム国立大学、中国西南財経大学などの学生、教員が一度に集まるインゼミを行います。毎年参加者数約150人の大きな大会でインゼミでの使用言語は英語です。国際感覚を養ってもらいます。2014年のインゼミはベトナム国立大学、2015年は台湾国立政治大学、2016年はソウル国立大学、2018年は千葉商科大学にて開催。2022年度は台湾国立政治大学主催でZoomでの開催予定。

本演習履修前に2年生のプレ演習に参加してください。プレ演習の内容は後日emailにて連絡します。

授業の到達目標 Objectives

本演習では、ファイナンス分野の教科書の輪読、理論・実証論文のサーベイ、卒論作成の過程で、以下の点を到達目標とします。1) ファイナンスの基礎概念の理解する、2) 基礎概念を応用することで現実で見られる様々な経済問題の原因を理解する、3) 現実で見られる経済問題に対し自分の意見をまとめ、発表する能力・技術を磨く。卒論とは別にインゼミに向け英語での論文を作成し、英語での発表の仕方も勉強します。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示する

授業計画 Course Schedule

第1回：打ち合わせ

第2-14回：ファイナンス分野の教科書の輪読または理論・実証論文のサーベイ、研究報告

第15回：各自の研究計画の検討

教科書 Textbooks

参考文献 Reference Books

<p>評価方法 Evaluation</p>

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	100%	報告、討論、出席などが評価される。レポート、宿題を課す場合もある。
その他 Others	%	

<p>備考・関連URL Note・URL</p>

経済学演習 I

2023

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
220	経済学演習 I (遠山祐太)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	遠山 祐太
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

産業組織論、経済政策、消費者行動に関する実証研究

授業概要 Course Outline

本ゼミでは、産業組織論、経済政策(特に競争・規制政策)、消費者行動(家計行動・数量マーケティング)などにおける各種課題について、経済学の知見を活用した実証研究を行います。皆さんが学んできた経済学の理論分析は切れ味良いツールであるものの、そのみで解答するには難しい課題が数多く存在します。現実の事象や課題を分析し、その結果を政策・ビジネスへ活用するには、実際のデータと向かうことが欠かせません。本ゼミでは、皆さんが興味を持つ政策・ビジネス上の重要な学術課題に対して、経済学に基づいた定量的な分析を行い、政策・ビジネスへのインプリケーションを持つアウトプット(論文とプレゼンテーション)を産み出すことを目指します。

演習1においては、各自が興味を持つ実証研究プロジェクトを進めていきます。具体的には研究プロポーザルの執筆、関連する学術研究の紹介、データセットの紹介や記述統計分析、分析アプローチの考案などを進めて行きます。

授業の到達目標 Objectives

経済学、データ分析、プログラミングを活かした政策・ビジネスに関する応用・実証研究を行えると同時に、中長期的にも新しい知識を学び吸収していける人材になることを目指します。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

本ゼミ参加者は、2年生秋学期に計量経済学系科目の履修を必須とします。具体的な要件については、https://yutatoyama.github.io/teaching/zemi_for_AY2023 を参照してください。

授業計画 Course Schedule

演習1においては、各自が興味を持つ実証研究プロジェクトを進めていきます。具体的には研究プロポーザルの執筆、関連する学術研究の紹介、データセットの紹介や記述統計分析、分析アプローチの考案などを進めて行きます。

学生の発表を中心に進めます。具体的な進め方については参加者と相談して決定します。なお、人数にもよりますが、学生による報告は「短めであるが、頻度は多めに」という形で進めます。そして、他の学生からの積極的なコメント・質問を期待します。

「学期に一回の発表を乗り切れば、あとは教室に黙って座っていれば良い」というマインドセットの方にはオススメしません。

教科書 Textbooks

特になし。

参考文献
Reference Books

研究の方法論については
ブース・コロンブ・ウィリアムズ他「リサーチの技法」
Bellemare "Doing Economics: What You Should Have Learned in Grad School"
計量経済学については、
伊藤「データ分析の力」
安井「効果検証入門」
西山・新谷・川口・奥井「計量経済学」
上武・遠山・若森・渡辺「実証ビジネスエコノミクス」
その他、適宜紹介します。

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	%	
その他 Others	100%	平常点100%。ゼミの一員として毎回出席し、積極的に議論に参加することを求めます。やむを得ない事情による欠席は、十分事前に教員及びゼミメンバー全員に必ず連絡してください。

備考・関連URL
Note・URL

ゼミ応募に際して、ゼミの詳細や応募書類について、https://yutatoyama.github.io/teaching/zemi_for_AY2023 を必ず参照してください。

国際政治経済学演習 I

2023

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
301	国際政治経済学演習 I (久保慶一)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	久保 慶一
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

現代世界の武力紛争と紛争後平和構築

授業概要 Course Outline

冷戦終焉後、旧ユーゴやルワンダをはじめ、スラブ・ユーラシア、アフリカ、中東、ラテンアメリカ、アジアなど新興国で起きている武力紛争（内戦）が人道的危機として国際社会の関心を集めている。これを受け、紛争を終結させるための武力介入（人道的介入）、紛争終結後の戦闘員の武装解除と社会復帰（DDR）、紛争中に起きた非人道的行為に関する真相究明と責任者の処罰（移行期正義）、紛争再発を予防するための政治経済機構の再建（紛争後国家建設）など、紛争の終結と再発防止のために国際社会による様々な取り組みが行われている。本演習では、武力紛争はなぜ発生するのか、その終結や再発防止のために国際社会が行う様々な取り組みにはどのような効果があるのか、といった諸問題について考察する。比較政治学では、紛争発生の際の諸要因や、国際社会による介入・政策の効果について、多くの理論や実証的研究の知見が蓄積されている。演習 I は、卒業論文を執筆するための出発点として、自分が選択したテーマに関する先行研究を各自が渉猟し、その内容に関するプレゼンテーションと質疑応答という形で進めていく。各自の研究テーマに関する基礎的な概念や理論について確認し、各分野の実証的知見を批判的に理解することを目的とする。各自の研究テーマの設定に際しては、地域や方法論に関する制限は特に設けない。多様な地域、方法論に関心を有する学生を歓迎するが、武力紛争・内戦の発生要因や国際社会の取り組みの効果に関する先行研究には、計量的な手法を用いた研究が多数あるので、計量分析手法に関する知識・スキルを有していることが望ましい。

授業の到達目標 Objectives

1. 内戦、紛争後平和構築に関する比較政治学の理論的・実証的な先行研究を批判的に理解する。
2. 演習参加者が卒業論文のテーマを決定し、そのテーマに関する先行研究のリサーチを開始する。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示する

授業計画 Course Schedule

第1回：オリエンテーション：ゼミの運営方法に関する説明、参加者の自己紹介、各週の発表者の分担の決定などを行います。

第2回～第13回：各自のテーマについての先行研究についてのプレゼン：ゼミ参加者が自分のテーマについての先行研究1～2点の内容を紹介するプレゼンテーションを行い、それに関する質疑応答を行います。先行研究の批判を通じて各自の研究テーマを絞り込んでいくことを目指します。

第14回：まとめ：春学期の議論を総括します。最後に、ゼミ参加者が各自の夏季休暇中の課題について発表します。

教科書 Textbooks

特になし。

参考文献
Reference Books

久保慶一・末近浩太・高橋百合子『比較政治学の考え方』有斐閣、2016年。
粕谷祐子『比較政治学』ミネルヴァ書房、2014年。
久米郁男『原因を推論する - 政治分析方法論のすゝめ』有斐閣、2013年。
加藤淳子・境家史郎・山本健太郎編『政治学の方法』有斐閣、2014年。

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	100%	ゼミでの発表の内容、ディスカッションにおける発言・議論の内容などをもとに総合的に評価します。
その他 Others	%	

備考・関連URL
Note・URL

国際政治経済学演習 I

2023

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
302	国際政治経済学演習 I (久米郁男)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	久米 郁男
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

政治現象分析の技法：原因を推論する

授業概要 Course Outline

この演習の目標は日常起っている様々な現象を政治学的に考える訓練を行うことにあります。政治的な紛争というもの、紛争当事者が理性的に話し合えば解決できるのでしょうか？人道的援助は、世界を平和にするのだろうか？政策のことをしっかり考えて皆が投票すればよい政治が実現するのでしょうか？経済が成長すれば、民主化するのでしょうか。新聞やテレビでの「常識」とは少し違う角度から様々な政治経済現象を見ることによって政治学の世界を学びます。扱う対象は多様ですが、政治学とりわけ実証的・経験的な政治学における分析方法を学び、様々な政治現象が何故生じているのかを説明する能力を磨いてもらいます。

なお、ゼミがスタートするまでに統計ソフトを使って重回帰分析が出来るようになっておくことを前提にゼミを進行します。プレ演習では、そのための実習を行います。事前の統計的知識は不要です。

3年生は、4年生ゼミにも参加することを求めます。

ゼミ合宿については、ゼミ生の希望があれば実施します。

授業の到達目標 Objectives

様々な政治現象を、他人の意見に簡単に説得されず、データや理論に基づいて社会科学的に分析し、自らの主張をディベート、プレゼン、論文の形で提示し、人を説得する能力の涵養を目指します。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

ゼミがスタートするまでに、統計ソフトを使って重回帰分析が出来るようになっておくことを前提にゼミを進行します。プレ演習では、統計分析の手法についての実習を行います。事前の統計的知識は不要です。

授業計画 Course Schedule

- 第1回：はじめに
- 第2回～第5回：方法論の基礎
- 第6回：分析のロジック
- 第7回～第8回：ディベート
- 第9回：政治経済学的問へ
- 第10回：研究デザイン
- 第11回：合理性について
- 第12回：ゲームの世界
- 第13回～第15回：古典を読む
- 第16回：プレゼンテーション
- 第17回～第20回：レプリケーションを通じた計量分析実習
- 第21回：ディベート
- 第22回～第24回：計量分析を用いた研究を読む
- 第25回～第28回：事例研究を読む
- 第29回～第30回：プレゼンテーション

教科書
Textbooks

久米郁男『原因を推論する政治分析方法論のすゝめ』有斐閣

参考文献
Reference Books

課題文献を講義中に適宜指示します。

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	100%	ゼミでの報告、課題提出、積極的な参加。
その他 Others	%	

備考・関連URL
Note・URL

ゼミに関するより詳しい内容については以下のホームページに記載されています。応募前に必ず参照して下さい。なお、応募者は応募締め切りまでにA4一枚程度の自己紹介をkumezemi@gmail.comに送ってください。
<http://kumezemi.html.xdomain.jp/course.html>

国際政治経済学演習 I

2023

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
303	国際政治経済学演習 I (小西秀樹)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	小西 秀樹
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

経済政策の理論と実証

授業概要 Course Outline

この演習は、各学生が自分の関心にしたがって、論文を読み、仮説を立て、データを集めて解析したり、理論モデルを作って均衡解を解いたり、得られた結果を現実の事象にフィードバックしたりして、最終的には独力で卒業論文を作成する2年間のプログラムの最初のステップである。

最近では、政治でも経済でも、政府でも民間でも、意思決定の際に求められるのはエビデンスである。しかし、実際に「これがエビデンスだ」という主張は案外危ういものであり、統計データの読み方を知らないで簡単に騙されてしまう。

そこで演習Iでは、入門レベルの教科書を使って計量経済学の基礎を学び、データを用いた実習を行う。これは社会人として必須の基礎訓練である。演習II以降で実証分析を手掛ける学生はもちろんのこと、理論や制度の分析を行う学生も、データを読む力が必要になる。

なお、本演習から始まる2年間のプログラムは、すべて各学生が担当教員や他の参加者とディスカッションしながら、個人で研究を進め、自力で卒論を完成させることを目的としている。グループ研究など、学生間での共同作業は一切想定していない。他人に頼らず、自分で問題を発見し、自分で考えて自分で解決策を探していくプロセスを思う存分経験し、達成感を味わってもらいたい。

卒論のテーマは経済学の範囲内なら、各学生が自由に選んでよい。演習Iでは実証分析の技術を身につけることを主眼に置いているが、演習II以降については、理論的な研究を進めても構わない。

授業の到達目標 Objectives

計量経済学の基礎を学び、実際にデータを扱った実習を行う。様々な計量モデルの構築方法、パッケージソフトの使い方、計量分析のアウトプットの読み方を一通り学習し、実証分析の論文をなんとか読みこなせるところまで訓練する

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示する

授業計画 Course Schedule

STATAを使った実証分析の実習を行う。演習Iで計量経済学の基礎をきちんと学んだ上で、演習II以降ではなるべく最新の論文、たとえばコロナ対策の効果を取り扱った論文など、アカデミックな論文を各学生が自由に選んで、一人毎週1つずつ読んでいく予定。なお、英文の教材を利用することもある。

教科書 Textbooks

田中隆一著「計量経済学の第一歩」(有斐閣)を用いる予定だが、もし非日本語話者の学生も参加する場合は、英文の計量経済学の教科書に変更するので、指定される前に購入する必要はない。

参考文献
Reference Books

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	0%	該当しない
レポート Papers	0%	該当しない
平常点評価 Class Participation	100%	出席状況, 与えられた課題やプレゼンテーションへの取り組みで評価する.
その他 Others	0%	該当しない

備考・関連URL
Note・URL

長く更新していませんが, 念のため, 小西研究室のウェブサイトも参考にしてください.
<http://www.f.waseda.jp/h.konishi/index.html>
対面もしくはオンラインで実施します.

国際政治経済学演習 I

2023

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
304	国際政治経済学演習 I (齋藤純一)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	齋藤 純一
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

近現代の政治理論

授業概要 Course Outline

このゼミでは、自由、平等、公共性、デモクラシー、社会保障、社会統合など近現代の政治理論の主要なテーマを取り上げてきました。

ゼミの前半のパートでは、主に政治理論・政治思想史の重要な文献を取り上げ、その理解をはかるとともに、提起された論点について議論します。

この数年間に読んだのは、J. ロールズ『政治的リベラリズム』、I. M. ヤング『正義と差異の政治学』、I. M. ヤング『正義への責任』、C. サンステーン『入門 行動科学と公共政策』、J. ウルフ『「正しい政策」がないならどうすべきか』などの著作です。2022年度秋学期には、H. アーレント『革命論』を読む予定です。

毎回のゼミの後半は、メンバーによる個人研究報告にあてています。個人研究報告は問題関心の共有をはかるとともに演習論文執筆の準備として行われます。

授業の到達目標 Objectives

政治理論・政治思想史のテキストを精確に理解し、議論を整理して考え、理由(論拠)を明確に挙げながら自分の考えを伝える力を涵養することがこのゼミの目標です。そのうえで、現代の政治社会の制度や規範を評価し、その問題や改善の方向について自分の意見を形成できるよう指導したいと思います。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

あらかじめテキストを読み、各自内容の理解をはかるとともに、疑問点などを特定しておいてください。準備時間は約2時間です。

授業計画 Course Schedule

今年度春学期は、ジェイソン・ブレナン『アゲインスト・デモクラシー』などを読み現代のデモクラシーについて検討します。

教科書 Textbooks

ジェイソン・ブレナン(井上彰ほか訳)『アゲインスト・デモクラシー』上・下(勁草書房、2022年)。

参考文献 Reference Books

<p>評価方法 Evaluation</p>

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	100%	出席、報告、研究発表、議論への参加等を総合的に評価します。
その他 Others	%	

<p>備考・関連URL Note・URL</p>

国際政治経済学演習 I

2023

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
305	国際政治経済学演習 I (清水和巳)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	清水 和巳
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

人間と社会の政治経済学

授業概要 Course Outline

「不思議なものは多い。しかし人間ほど不思議なものはない」(ソフォクレス『アンチゴーン』)

古代から現代に至るまで、人間はあらゆる学問分野で最大の謎であり続けてきた。社会科学はとりわけ人間と社会の関心に興味をもってきた。スミスは人間が利己的に行動しているにもかかわらず社会が破綻しないことを、ヴェーバーは資本主義という特殊な社会経済制度を支える人間が西欧という地域で生じたことを、マルクスは人間が作り出した社会が逆に人間を疎外していくことを不思議に思い、それぞれの謎に彼らなりの解答を用意した。とはいえ、こういう偉大な先達がとりくんだ大問題だけが謎なのではない。たとえば、海外旅行をしたときにあるレストランで食事をしたとしよう。「ここで食事することはおそらくもう二度とない」とわかっているにもかかわらず、われわれはチップを払う。実はこれも(ある観点からすると)人間と社会に関する謎なのだ。

本演習の目的は、人間の意思決定・行動、その結果として生じる社会制度に関する謎を自分でみつけ、そこに社会科学的方法に切り込む方法を学ぶことにある。その際、「自分」にとっては謎だが、他人にはなぜそれが解くべき謎なのかが理解できない、「自分」はその謎に答えたつもりだが他人は納得しない、こういう事態は避けたい。したがって、演習参加者は少なくとも以下の3点に関して自問自答してほしい。

- なぜ(どのような立場からすると)その問題を「謎」ととらえることができるのか?
- もし、その問題が本当に「謎」であるなら、それにどのように応答することが社会科学的と言えるのか?
- そもそも、社会科学的に思考するとはどういうことなのか?

授業の到達目標 Objectives

演習参加者は、自分の問題設定、問題の検討方法を他の参加者に理解させ、納得させるために必要な技術や方法を身につける。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示する

授業計画 Course Schedule

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：議論することになれる I
- 第3回：議論することになれる II
- 第4回：「書く技術」
- 第5回：議論することになれる III
- 第6回：基礎的知識の学習 1
- 第7回：基礎的知識の学習 2
- 第8回：基礎的知識の学習 3
- 第9-14回：各人の興味対象に応じて、既存の研究をグループで発表
- 15回目-38回目は夏合宿での卒論計画発表をふまえて、各人に報告を割り当てる。

教科書
Textbooks

特になし。事前に、文献リスト、課題となる論文等を配布する。

参考文献
Reference Books

第一回目のゼミナールにおいて参考文献リストを配布するが、制度の経済学、ゲーム理論、科学方法論などの分野を重点的に読んでいく。

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	50%	発表・レポートの出来・不出来に応じる。
平常点評価 Class Participation	50%	ゼミの時間中の議論の組み立て方に応じる。
その他 Others	%	

備考・関連URL
Note・URL

学生に対する要望：

- (1) 質問がある場合、次のアドレス宛てにメールで問い合わせること：skazumi1961@gmail.com。
- (2) 担当教員の「比較経済制度分析」を受講済みであること、加えて、ミクロ経済学、ゲーム理論、統計学、科学哲学に関する基本的な知識があることが望ましい。まだ「比較経済制度分析」を受講していない場合は、来年度受講することを強く勧める。

国際政治経済学演習 I

2023

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
306	国際政治経済学演習 I (須賀晃一)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	須賀 晃一
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

公共政策の政治経済学—公共性の実現に向けて

授業概要 Course Outline

このゼミでは、現代社会が抱えるさまざまな問題を政治経済学・公共経済学・公共哲学・厚生経済学の視点で考え、解決策としての公共政策を提案してみたいと思います。日本だけでなく、国際社会や地域、あるいは各国が抱える問題の多くは特定の観点から解決できるものではなく、複眼的視点に立って公共性の実現を目標に解決のルートを探るべきものであると考えられます。これまでに繰り返し指摘されてきた効率と公平の両立を図ることは公共政策における重要な観点であり、皆さんに学んでいただければならない最小限の視点です。そして、効率と公平を各国の政治経済システム全体の中で、また歴史的、時間的パースペクティブの中で考察することも重要な課題です。さらには国家や地域を越えた空間的広がりの中で、効率と公平の両立を図るシステムについて考えることも必要です。効率・公平・自由・平等を重要な構成要素とする公共性の実現を、各人の問題領域における政策的対応を通じて図ること、これをゼミの課題としたいと思います。具体的なテーマの例として以下のものを挙げる事ができるでしょう。

1. 環境問題と世代間倫理
2. 地域振興の公共政策
3. 少子高齢化と社会保障
4. 貧困と不平等
5. 資源・食料・エネルギーの政治経済学
6. 教育の政治経済学
7. 医療の政治経済学
8. 都市と交通の政治経済学

これらの問題に対して、効率や公平などの明確な価値基準を設けて、公共政策や公的制度を設計するとか、当事者間の合意によりルールを設定することで解決するといった方向を探るのが、このゼミで用いる接近方法の特徴です。

ゼミでは、まず現代社会の問題群の中から自分なりのテーマを決めます。そして、それに応じて課題図書を指定します。3年のゼミ開始までに課題図書の書評を作成し、ゼミの開始時に発表してもらいます。書評の作成が春休みの宿題となります。プレ演習では公共経済学・計量経済学・統計学の基礎知識を修得してもらうために、テキストを読み練習問題を解いてもらいます。3年次の授業が始まると最初に、春休みにやっていた書評の発表を行います。続いて、計量経済学のテキストを輪読します。これが共同論文を執筆していくために必要な共通の知識になります。

その後、グループ研究を行います。各人の選んだテーマに従ってグループを作り、グループごとにサブテーマを決めて資料収集し議論・研究し、発表原稿を作成します。必要に応じて指定する中級・上級のテキストや、そこでの参考文献となった様々な論文が資料収集の際に指針を与えてくれるでしょう。発表グループが進行役となり、ゼミでの議論を進めてもらいます。グループごとの共同研究の成果は共同論文にまとめます。

授業の到達目標 Objectives

2種類の共同論文を作成することです。1つは学生政策フォーラム発表会用の政策提言論文、もう1つは政治経済学部の政治経済学会が主催する論文コンクールに応募する学術論文です。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

ミクロ経済学、マクロ経済学、統計学、政治分析、公共哲学、経済政策を復習しておいてください。
3年次には、各自の研究テーマに必要な授業、並びに公共経済学と計量経済学を履修してください。

授業計画
Course Schedule

- 第1回：自己紹介と今後の進め方
 第2回：書評の発表（1）
 第3回：書評の発表（2）
 第4回：書評の発表（3）
 第5回：書評の発表（4）
 第6回：各班によるテキストの発表（1）
 第7回：各班によるテキストの発表（2）
 第8回：各班によるテキストの発表（3）
 第9回：各班によるテキストの発表（4）
 第10回：各班によるテキストの発表（5）
 第11回：各班によるテキストの発表（6）
 第12回：各班によるテキストの発表（7）
 第13回：各班によるテキストの発表（8）
 第14回：班研究のテーマ決定
 ここまでが春学期の授業計画で、以下は秋学期の授業計画です。

- 第15回：班ごとの論文作成－中間発表に向けて－（1）
 第16回：班ごとの論文作成－中間発表に向けて－（2）
 第17回：班ごとの論文作成－中間発表に向けて－（3）
 第18回：班ごとの論文作成－中間発表に向けて－（4）
 第19回：各班の中間発表
 第20回：班ごとの論文作成－最終版に向けて－（1）
 第21回：班ごとの論文作成－最終版に向けて－（2）
 第22回：各班の発表練習－ISFJ政策フォーラムに向けて
 第23回：3,4年合同共同研究（1）
 第24回：3,4年合同共同研究（2）
 第25回：3,4年合同共同研究（3）
 第26回：班ごとの論文作成－政治経済学会論文コンクールに向けて
 第27回：4年生卒業論文へのコメント（1）
 第28回：4年生卒業論文へのコメント（2）

教科書
Textbooks

大森裕浩『コア・テキスト 計量経済学』新世社

参考文献
Reference Books

鹿野繁樹『新しい計量経済学』日本評論社
 その他、研究室のホームページを参照のこと。

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	実施しない。
レポート Papers	50%	書評および共同論文による。
平常点評価 Class Participation	50%	授業への出席と貢献、ならびに共同論文作成に当たっての貢献度による。
その他 Others	%	

備考・関連URL
Note・URL

3年ゼミの目標をISFJ学生政策フォーラムに提出する政策提言論文と、政経論文コンクールに提出する学術論文を執筆作成に置きます。

ゼミは通常の一方向的な講義と異なり、皆さんが主役です。主役たる皆さん一人一人が積極的に参加しなければゼミは崩壊します。自分なりのテーマを持って自分で研究する態度を養い、他の人とできるだけ議論して下さい。常に「根拠は何か」と問う姿勢を持つことが大切です。この作業が就職してから大いに役に立ちます。

関連URL：

<http://www.f.waseda.jp/ksuga/>

国際政治経済学演習 I

2023

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
307	国際政治経済学演習 I (高橋遼)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	高橋 遼
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

開発経済学

授業概要 Course Outline

本演習では、開発途上国における社会問題について、実証分析を行い、学生の視点からの政策提言を行うことを目的とする。本演習において、開発経済学に関する実証研究への知見を深めること、および実証分析への理解と統計分析を行うためのプログラミング言語の習得を目指す。

参加は任意であるが、学生の学習意欲が高いと判断した場合、開発途上国でのフィールド調査を実施する。対象国として、バングラデシュ、インドネシア、ベトナム、もしくはエチオピアを想定している。自らで集めたデータを用いて、実証分析を行い、結果を解釈し、分析結果に基づく政策提言を行う。

授業の到達目標 Objectives

開発途上国におけるフィールド調査の設計を学び、実際に調査を実施することでデータ収集の技法を習得すること。
収集したデータを用いて実証分析を行い、現場での観察をもとにした考察を行えるようになること。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示する

授業計画 Course Schedule

春学期において、海外フィールド調査の準備を行う。具体的には、調査先の選定、対象国に関する事前情報の収集、問題意識と仮説の設定、質問表の設計を含む。

夏休みの期間に有志で海外調査を実施する。
海外調査に参加しないものも、春学期において自身の関心を設定し、フィールド調査を行うこと。

秋学期において、収集したデータの分析を行う。
それに加えて、関連する研究成果のまとめや開発経済学の知見を学ぶ。

教科書 Textbooks

参考文献 Reference Books

<p>評価方法 Evaluation</p>

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	50%	課題図書など
平常点評価 Class Participation	50%	演習での発言
その他 Others	%	

<p>備考・関連URL Note・URL</p>

国際政治経済学演習 I

2023

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
308	国際政治経済学演習 I (多湖淳)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	多湖 淳
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

戦争と平和の科学を楽しく学ぶゼミ

授業概要 Course Outline

国際政治学 (Scientific IR, Conflict and Cooperation) のゼミです。

- ・楽しく学ぶが大原則。高みを目指そう。
- ・アウトプットは英語で専門学術誌 (ジャーナル) に投稿して問題ないレベルを目指しましょう。

授業の到達目標 Objectives

- ・目標は、社会科学の総合力を身につける。
- 問題発見、問題設定力 まずは先行研究を読み、つなげる、そして仮説をつくる。
- データ入手・精製能力 データこそ命 (実験、テキスト、Large N、ケース比較)。
- データ分析・報告能力 RStudioとRMarkdownの力、データの検定・検証能力。
- コミュニケーション力 データを面白く話す力、英語力 (TED)、相手と対話する力。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

特になし

授業計画 Course Schedule

本授業は、現時点で全回Zoomを用いたオンライン (リアルタイム) で実施する予定です。状況が許せば、教室での一部開催も考えられますが、その場合でもZoomでの参加ができるようにいたします。

通年のゼミの内容は以下の通り。

- ・前期は基礎訓練と問題発見、仮説作り (面白い問い、理論と仮説)、データ入手
 - ・後期はデータ精製と分析、論文執筆
- 論文はできればRMarkdownを用いてPDFの形で作成
 タイプライターとしての「ワード」もいいけども、アウトプットはPDFで。
 ※これは3年、4年共通で、4年生は3年生よりも素敵な研究をして、報告する。

【訓練内容 (方法部分)】

- ・メソッド: 分析道具がないと始まらない!
- ※方法論の概観 (因果、実験、回帰分析、ゲーム)
伊藤公一朗 (2017) 『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』光文社。
山岸俊男 (2018) 『日本の「安心」はなぜ、消えたのか』集英社。
- ※クアルトリクス (実験プラットフォーム): 高等研のSongさんの教材も配布
<https://wasedapse.aul.qualtrics.com/>
- ※テキスト分析 (記述と関係の見える化): 高等研のWatanabeさんの教材
http://docs.quanteda.io/articles/pkgdown/examples/quickstart_ja.html
- ※RStudio (テキスト分析、回帰分析、実験データの仮説検証):
日本社会心理学会の方法論セミナー資料 (まずはこれ!)
https://kazutan.github.io/JSSP2018_spring/index.html

Wonderful RのRの基礎、RStudioについてのテキスト
<http://www.kyoritsu-pub.co.jp/bookdetail/9784320112414>
Wonderful RのRMarkdownのテキスト
<http://www.kyoritsu-pub.co.jp/bookdetail/9784320112438>

【訓練内容（国際政治をめぐる先行研究）】

・サブスタンス：科学的なIRを理解するための材料を読んでいます。
多湖淳（2011）「国際政治学における計量分析」『オペレーションズ・リサーチ』56(4)、215-220ページ。
多湖淳（2017）「拒否権行使と驚き」『政治分析方法のフロンティア（年報政治学）』2017-II、13-35ページ。
鈴木基史・岡田章編（2013）『国際紛争と協調のゲーム』有斐閣。
山影進（2012）『国際関係論講義』東京大学出版会。
ジャーナルは以下を参考に。APSR、AJPS、JOP、BJPS、IO、ISQ、IS、JCR、JPR、CMPS、II、AFS Google Scholar
で効率的に先行研究を見つけて読んでいく

★スケジュール・重要事項

多湖ゼミSlackで連絡をします。プレゼミから変わらない時間帯のコアタイム制です。
Slackの招待を多湖（tago@waseda.jp）から得てください。
ゼミのコアタイムは毎週水曜日の夕方になります（詳細は参加者で詰めましょう）。

教科書
Textbooks

参考文献
Reference Books

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	60%	期末のプレゼンテーションをレポートとして評価する。
平常点評価 Class Participation	40%	ゼミへの参加の度合い（欠席がやむをえない場合、あらかじめメールで断りをいれるべきであり、無断欠席は2回でアウトカウントする）。
その他 Others	%	

備考・関連URL
Note・URL

本授業は、現時点で全回Zoomを用いたオンライン（リアルタイム）で実施する予定です。状況が許せば、教室での一部開催も考えられますが、その場合でもZoomでの参加ができるようにいたします。

国際政治経済学演習 I

2023

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
309	国際政治経済学演習 I (唐亮)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	唐 亮
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

現代中国の政治経済と外交戦略

授業概要 Course Outline

戦後のアジア各国は歴史、文化および政治経済体制に関して多様性を持ちながら、国家統合、経済開発および民主化といった共通の課題を抱え、それぞれのアプローチで目標の実現に向けて努力してきた。この講義は諸外国、特にアジア各国との比較分析を用いながら、中国は改革開放路線によっていかにダイナミックな発展を遂げているか、政治経済体制と中国モデル・発展戦略をどう見るか、経済成長の「光」と「影」とは何か、社会衝突はどのように展開されているか、情報化や意識の多様化が進む中で中国政治はどのように変容しているか、台頭する中国と欧米主導の国際秩序はどのような関係にあるかを検証し、中国の「実像」と「将来像」に迫る。

授業の到達目標 Objectives

現代中国の内政外交に関する幅広い基礎知識を有するほか、多文化の視点、複眼的な分析能力を身に付け、自主的な研究課題について豊かな構想力をもつことは理想である。また、学生の主体的参加と討論によってプレゼンテーションの能力を高める。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示する

授業計画 Course Schedule

春学期は教科書を毎週1章のペースで輪読するほか、ゼミ論の構想発表を行う。秋学期は引き続き教科書を毎週1章のペースで輪読するほか、ゼミ論の中間発表を行う

教科書 Textbooks

家近亮子ら編著『新版5分野から読み解く現代中国—歴史政治経済社会外交—』晃洋書房、2016年
唐亮『現代中国の政治』岩波新書、2012年
毛里和子『新版現代中国政治』第3版、名古屋大学出版会、2011年
毛里和子『日中関係—戦後から新時代へ』岩波書店、2006年
国分良成編著『中国は いま』岩波新書、2011年。
丸川知雄『現代中国経済』有斐閣、2013
丸川知雄『チャイニーズ・ドリーム』ちくま新書、2013
中兼和津次『経済発展と体制移行』名古屋大学出版会
中兼和津次『開発経済学と現代中国』名古屋大学出版会、2012年
園田茂人『不平等国家 中国』中公新書、二〇〇八年。
木間正道ら編著『当代中国法入門』第五版、有斐閣、二〇〇九年
岩崎育夫『アジア政治を見る目』中公新書、2001年
武田康裕『民主化の比較政治—東アジア諸国の体制変動過程』ミネルヴァ書房、2001年

参考文献
Reference Books

随時指定する

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	0%	実施しない
レポート Papers	70%	着眼点、先行研究の整理、論点を裏付けるデータ・根拠の提示、書式を重視する。
平常点評価 Class Participation	30%	出席・報告内容・議論への貢献度を重視する。
その他 Others	0%	なし

備考・関連URL
Note・URL

夏休みに自主参加の形で北京大学などとの共同セミナー、庶民生活の体験および社会観察などの自主参加プログラムを実施する

国際政治経済学演習 I

2023

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
310	国際政治経済学演習 I (遠矢浩規)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	遠矢 浩規
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

国際政治経済学の理論と分析

授業概要 Course Outline

(1) 遠矢ゼミは国際政治経済学の理論、モデル、諸概念を学ぶゼミです。それらを習得し、自分自身で様々な国際問題を理解し分析する能力を身につけることを目標としています。当ゼミでは、「国際政治経済学」の意味を広く捉え、国際政治学、国際経済学、国際社会学、国際文化論なども範囲に含めています。

(2) とりあげる理論等は、例えば、プロダクト・サイクル論、国際的相互依存論、統合論、ソフト・パワー、構造的権力、覇権安定論、覇権循環論、比較優位説、不等価交換、ECLA構造主義、従属論、世界システム論、ドルの「法外な特権」、流動性のジレンマ、国際金融のトリレンマ、文化的多様性、グローバル公共財、貿易創出効果と貿易転換効果、2レベルゲーム、ロゴウスキーの逆第二イメージ論などです(順不同)。これらの多くはオンデマンド講義「国際政治経済学」でも対象としています。

(3) ゼミの進め方は下掲の「授業計画」の通りです。

詳しくは、遠矢浩規の公式サイトでのゼミ募集案内のページ (<https://hirokitohya.wixsite.com/tohya/guidance2022>) を参照してください。

授業の到達目標 Objectives

①国際政治経済学(または国際政治学、国際経済学、国際社会学などの関連領域)の理論・モデルを使って国際問題を分析する能力を習得すること。②上記①についてプレゼンテーション、ディスカッション、グループワーク等を行うスキルを習得すること。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

下記「授業計画」を参照してください。

授業計画 Course Schedule

※ゼミの内容・方法についてはこのシラバスよりも、下記URLの遠矢浩規の公式サイト(遠矢ゼミ募集案内のページ)で図や写真や動画を使用してより詳しく説明しています。必ずそちらを参照してください。サイトは「遠矢浩規 公式」で検索することでもすぐ見つけることができます。

遠矢浩規公式サイト(ゼミ案内のページ): <https://hirokitohya.wixsite.com/tohya/guidance2022>

※上記サイトで説明されているゼミの実施方法の教員(遠矢)の意図については、同サイトの下記ページでさらに詳しく説明されています。あわせて参照してください。

教員の意図: <https://hirokitohya.wixsite.com/tohya/spring2021>

以下は3年春期（演習Ⅰ）の概要です。年間計画及び4年ゼミの内容・方法については上掲の遠矢浩規サイトで確認してください。

【事前学習】

・事前に、指定されたコンテンツ（例えば講義科目「国際政治経済学」のオンデマンド動画など）を学習し、与えられた課題（理論を当てはめて具体的事例を分析・解釈するなど）について各自でリサーチを行い、自分の見解やエビデンスを整理しておきます。 ※コンテンツの視聴自体は学習目的ではありません。課題の実例は下記「教科書」欄にあります。

・動画や課題はゼミのSlackで事前に提示・共有されます。ゼミの日常的な連絡、情報交換、ファイル共有等はSlackで行っています。

【ゼミ当日（反転授業）】

・教室で「対面」で行いますが、同時に全員がZoomを使用します。

・予め決められた報告者が、当日のテーマとなっている理論について、概要と問題提起のプレゼンを行います。プレゼン資料はZoomで画面共有し、ゼミ後にSlackでファイルを共有します（ハードコピー不要）。

・事前に提示された課題やプレゼンで挙げられた論点等について、数人ずつのグループ・ディスカッションを行い、深く掘り下げます。オンライン参加者（海外留学中の者など）がいる班は、対面とZoomのブレイクアウト・ルームを同時進行します。グループ・ディスカッション終了後、代表者が全体セッションでサマリーを報告し各班の内容を全員で共有します。

・必要に応じて、CommentScreen、mentimeter、MURAL、Zoomのホワイトボード機能などのICTツールをZoom経由で併用して行います。

・グループ・ディスカッション以外のすべてのセッションはZoomで録画されます。グループ・ディスカッションの内容は班ごとにメンバーが議事録を作成します。

【事後学習】

・ゼミの録画は直後にYouTubeで限定公開され、SlackでURLが共有されます。欠席者は録画を視聴してキャッチアップし、出席者も理解を定着させるために利用できます。議事録もSlackで共有されます。録画と議事録は、将来の利用のためにアーカイブとなります。

※以上のように、遠矢ゼミは「対面授業」と「オンライン授業」の双方の利点をミックスさせながら、アクティブ・ラーニングを実現しています。

教科書 Textbooks

教科書はありませんが、毎回、指定されたコンテンツを学習（視聴）し、与えられた課題（コンテンツで説明されていた理論やモデルを使って事例を分析する、など）を行うことが求められます。 ※コンテンツの学習自体は目的ではありません。

【参考】実際に出された「課題」は例えば次のようなものです。

「マルクシズム②従属論」の課題です。

（課題1）

ロストウの近代化論（経済発展段階説）と従属論（中心周辺構造）は南北関係について対照的な見解となっています。現実には、日本のように明治維新後、段階的に発展してきた国もあれば、ここ1世紀くらい経済的に成長していないと思われるような最貧国も存在しています。「近代化論」のシナリオと「従属論」のシナリオは、どのような条件を満たす国家・地域に当てはまるのでしょうか？

（課題2）

従属論はECLA構造主義（輸入代替工業化）と異なり、外国資本の導入（多国籍企業）を害悪視しています。一方、東アジアのように先進国の資本を誘致して「輸出志向型発展」を実現させた国・地域もあります。「経済特区地域」を設定して先進国企業を優遇し（法人税減税、労働基準緩和など）、技術移転や工業化を図る国もあります。「外国資本」「多国籍企業」を途上国（周辺国）の発展に利用するためには、どのような条件が必要でしょうか？

（課題3）

「世界資本主義」（グローバル・キャピタリズム）の功罪として何が考えられるのでしょうか。従属論はマイナス面だけを指摘しますが、世界資本主義の「良い面」やメリットはあるのでしょうか（例えば、グローバル・バリュー・チェーンによる途上国の工業化・技術獲得・雇用創出なども考えられそうです）。

（課題4）

周辺国の国内に「中心」部と「周辺」部があり、前者は中心国（先進国）と結託しているという指摘は、妥

当でしょうか。具体例はあるでしょうか。

参考文献
Reference Books

毎回扱う理論やモデルが異なるため、必要に応じて、その都度、紹介します。

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	%	
その他 Others	100%	事前の学習、プレゼンテーション、ディスカッション、グループ・ディスカッションへの取り組みなどを総合的に評価します。グループ・ディスカッションについては、学期末にゼミ生に「相互評価票」を提出してもらいます。

備考・関連URL
Note・URL

下記URLの遠矢ゼミ募集案内を必ず事前に参照してください。

<https://hirokitohya.wixsite.com/tohya/guidance2022>

国際政治経済学演習 I

2023

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
311	国際政治経済学演習 I (戸堂康之)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	戸堂 康之
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

開発途上国・新興国・日本経済の発展と強化

授業概要 Course Outline

この演習では、経済成長論、国際経済学、開発経済学を主たるツールとして、日本・新興国・開発途上国における経済発展や経済の強靭性について学び、研究する。定量的な実証的研究に重点を置くため、理論的研究、定性的な実証研究を研究したい学生には受講を勧めない。

例えば、以下のようなテーマに興味を持つ学生に最適だと考えられる。

- グローバル・バリューチェーンの拡大は日本企業にどのような影響があるか
- 災害の経済被害に対してどのような支援が有効か
- 途上国における農村や零細企業の発展はどのようにして達成できるか
- 開発援助は途上国の人々の生活向上に効果があるのか

この演習は以下のようなスケジュールで進む。

I (3年春学期)：データ分析手法の学習・演習

II (3年秋学期)：データ分析に関する英語論文講読・同様の手法を使った演習

III・IV (4年)：卒論のテーマを決め、関連する既存研究を発表し、データを収集して分析する。いくつかのインゼミで発表した後、卒論を作成する。

3年次の年度末および卒業時には論文の提出を義務付け、最終的には質の高い卒業論文を書くことが最大の目標である。

なお、毎年韓国において日本と韓国の主要大学とのインターゼミナールを、日本において本学英語プログラムおよび慶応大学の開発経済系ゼミとのインターゼミナールを行う。韓国でのインゼミは希望者のみで行うが、本学英語プログラムおよび慶応とのインゼミは全員が出席し、特に4年生は全員が卒論を発表する。韓国でのインゼミ、本学英語プログラムとのインゼミは英語で行う。

夏休み期間中に、途上国などで現地調査、企業訪問などを行うことがある(希望者のみ)。

授業の到達目標 Objectives

以上のような演習を通して、開発途上国・新興国・日本の経済発展に関する知識を高めるばかりでなく、

- (1) アイデアを創出する能力
- (2) 情報・データを収集する能力
- (3) データを基にして論理的な分析を行う能力
- (4) 分析結果を文章や口頭発表によって効果的に人に伝える能力
- (5) 英語力
- (6) リーダーシップ

を養成することがこの演習の目標である。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示する

授業計画
Course Schedule

計量経済学、ネットワーク分析、GIS（地理情報システム）分析などのデータ分析手法を学習し、演習によって身につける。

教科書
Textbooks

適宜指示する。

参考文献
Reference Books

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	100%	自身の発表、演習および他人の発表に対する質問・コメントを評価する。
その他 Others	%	

備考・関連URL
Note・URL

担当教員のウェブサイト (<http://www.f.waseda.jp/yastodo/>) と添付ファイルをよく読み、担当教員の研究内容、およびゼミ運営の方針を理解しておくこと。

国際政治経済学演習 I

2023

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
313	国際政治経済学演習 I (深川由起子)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	深川 由起子
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

現代東アジア政治経済研究：変容するグローバリズムと経済発展

授業概要 Course Outline

東アジア（本演習では韓国や台湾などのNIEs、中国、ASEAN及びその周辺としてのインドまでを主として扱う）はラ米や中近東などと比較しても伝統的にその「多様性」が強調される地域で、経済発展においても同様であった。他方、新興国としては比較的グローバリゼーションの受容に積極的であったことから、開放的な貿易や投資を通じた経済発展は1990年代から2000年代にかけては「東アジアモデル」として一般化され、他国の開発にも大きな影響を与えた。しかしながら、開放性故に世界経済の構造変化の影響は大きく、地域統合が制度的にも実質的にもEUほど高いレベルにないため、地域統合がグローバル化の負の側面からの十分なバッファーになっていない。

結局、先進国入りを果たせたのはNIEsのみで、ASEANや中国の一部についてさえも貿易/直接投資主導型成長の限界や、内部要因による「中進国の罠」が取り沙汰されている。少子高齢化といった人口動態の変化や地政学上の機会とリスクの浮上、通貨危機に端を発した社会の求心性弱体化、中国の内向き化などもあり、「東アジアモデル」は再び「多様性」に分裂回帰する面がある。本演習は政治と経済が現実に出会う場として、また日本経済が大きな利害を共有する東アジアを取り上げ、伝統的な経済発展メカニズム（「東アジアモデル」）と、「中進国の罠」に象徴されるその限界、変容、改革課題について議論を進める。東アジアの経済発展はグローバリゼーションと不可分で、現実が理論に先行しがちな点も少なくないが、とりわけIでは新たな理論の知見と現実との接点を意識しながら「東アジアモデル」とはなのか、基礎知識や分析ツールを身につけながら考察を進める。

授業の到達目標 Objectives

東アジアの開発体験をめぐる主要な論点について基礎的、理論的な知識とを深めると共に、与えられた問いに沿って自分の論理を構築できるようにすること。問題意識を持って同時代の諸問題を考えられるようになること。幅広い問題の中から自分が相対的に関心を持つ問題を発見し、社会科学に必要な分析ツール（計量手法や実験）を使って分析できるようになること。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

毎回の発表準備と共に、課される参考文献を読んでレポートを作成。フィードバックを見ながら修正して次回には再提出する。

授業計画 Course Schedule

- 第1回：オリエンテーション（本演習の目的と概要）
プレゼミで学んだことを基礎に、演習の概要と具体的な運営方法を討議します。夏や冬に行われるゼミ合宿の計画も立てます。
- 第2回：東アジアの経済パフォーマンス：「奇跡」の経済発展と新たな発展モデルの模索
東アジアが今日の経済発展の基礎を築いた1986～1996年がどのように開発経済史に残る「奇跡」だったか、それは何故、可能となったのか考察します。
- 第3回：輸入代替工業化の政治経済体系
第2回で学んだ開発戦略の転換は何故、東アジアでのみ、可能となり、ラ米や南アジアとはどこが違うのか、を理論的実証的な議論を整理します。

第4回：輸出主導型工業化の政治経済体系

輸入代替型工業化と輸出主導型といわれる体系の違いは何か、東アジアでは何故、輸出主導型に転換し得たのか、政治経済的な背景を分析します。

第5回：国際分業と産業集積

新興経済にとっての貿易のメリットとグローバリゼーションの中で顕著となってきた産業集積の形成はどのような関係にあるのか、東アジアを事例として学びます。

第6回：直接投資と技術移転

直接投資を誘致できるためには何が必要か、また受け入れた外国企業からどのような技術の移転やスピルオーバーが可能となるのか、現実の東アジアの事例を含めて考えます。

第7回：工業化と産業政策：政府の役割

工業化を推進する上で政府はどこまで、どのように介入することが望ましく、何がそうではないのか、1980年代から2010年代までを比較検討し、東アジアの事例がどういった議論を提供してきたのか、学びます。

第8回：経済発展と金融の深化

実体経済と資本蓄積、金融の深化のバランスは何故、持続的発展に重要なのか、そのためにはどういった金融政策が望ましいのか、東アジアにとっては何故、このトピックが重要なのかを中心に学習します。

第9回：金融・資本の自由化

現代グローバリゼーションの特徴の一つは金融のグローバリゼーションの量的、質的变化です。新興経済はこれにどう付き合うべきか、東アジア通貨危機の要因となった金融・資本自由化のプロセスについて考察します。

第10回：企業家とファミリービジネスの経営

東アジア通貨危機の特質は新興巨大企業集団の対外債務でした。創業者一族になる所有・経営が未分離の企業がグローバルな企業金融にどう対応したのか、今日、どのような改革が必要なのか、考えます。

第11回：為替管理の自由化と国際収支危機

グローバリゼーションの下では脆弱な新興経済は様々な経済危機に陥りがちです。東アジア通貨危機はその典型であり、流動性をめぐる構造調整を累積債務危機同様に進めたことにはIMFの処方箋をめぐっても多くの批判がありました。この回では金融のグローバリゼーションと新興国の危機の原因や処方箋のあり方について考察します。

第12回：通貨危機後の構造調整

「奇跡」から一転、未曾有の「危機」を経験した東アジアはグローバル経済の変容に沿う構造改革を迫られました。苛烈な金融、企業部門の構造改革の政策としての妥当性を検討します。

第13回：地域統合と協力

金融・企業通貨危機後の発展モデルを変えようとしているのは地域の経済統合と協力です。統合のメリット、デメリットを一般論として整理すると同時に、高い自由化水準と経済協力はどうか、日本、中国、ASEANの考え方の違いを学びます。

第14回：地域経済統合と協力

通貨危機後の発展モデルを変えようとしているのは地域の経済、日本、中国、ASEANの考え方の違いを学びます。

教科書
Textbooks

特になし。授業時に配布の回毎のシラバス、リーディング・リストによる。

参考文献
Reference Books

同上。

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	0%	試験形式では成績評価は実施しない。
レポート Papers	70%	毎週、課されるレポートの内容評価を平均して算出する
平常点評価 Class Participation	25%	プレゼンテーションや議論の水準、ディスカッションへの参加程度など。
その他 Others	5%	現地視察やゼミの運営、とりまとめへの貢献など。

備考・関連URL
Note・URL

ジャーナリズム・メディア演習 I

2023

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
401	ジャーナリズム・メディア演習 I (齊藤泰治)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	齊藤 泰治
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		グローバル科目 > 演習 または 所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

ジャーナリズムの視点からの中国研究 I

授業概要 Course Outline

本演習は「ジャーナリズム・メディア演習」として設置されており、中国に関してジャーナリズム的な視点から研究することを目的とする。具体的には、中国に関する報道を通して中国を研究するという側面と、ジャーナリズム、報道について研究するという側面を含む。このような研究を行うためには、中国の政治、社会、文化、歴史をはじめとする諸分野に対する旺盛な関心と知識が必要であると同時に、グローバルな視点からジャーナリズム、報道に関する研究を行うことが必要となる。基礎となる文献を読み、具体的な報道事例等を通してジャーナリズムの視点から中国研究を進めるための方法論を組み立てていく。

授業の到達目標 Objectives

これまでの内外の研究成果を踏まえ、中国報道に関して現状分析のための基礎力を身につけることによって、ジャーナリズムの視点から中国を研究することができるようにする。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

一週間単位で中国に関する報道、ニュースを調べ、関連する資料によって理解を深めて演習に臨むことを基本とする。具体的な内容については初回のオリエンテーションで説明する。

授業計画 Course Schedule

第1回目はオリエンテーションを行う。第2、3回は資料について説明する。第4回以降は資料を読むと同時に、受講者に研究発表をしてもらう。最終回は全体のまとめを行う。

教科書 Textbooks

特定の教科書は使用しない。

参考文献 Reference Books

随時紹介する。

<p>評価方法 Evaluation</p>

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	0%	試験は行わない。
レポート Papers	70%	レポートのテーマを最初から計画的に考え、提出期限までに提出するものとする。
平常点評価 Class Participation	30%	出席するだけでなく、授業への積極的貢献をもとに評価を行う。短いレポートを随時書いてもらおう。コミュニケーションを大切にしてほしい。
その他 Others	0%	とくになし。

<p>備考・関連URL Note・URL</p>

ジャーナリズム・メディア演習 I

2023

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
402	ジャーナリズム・メディア演習 I (瀬川至朗)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	瀬川 至朗
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		グローバル科目 > 演習 または 所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

次世代ジャーナリズムの研究と実践 (ファクトチェック、オシント調査報道、ルポ、映像作品)

授業概要 Course Outline

【演習全体のねらい】

ジャーナリズムは何のためにあるのか。Kovachらは「ジャーナリズムの第一の目的は、市民にたいして自由と自治に必要な情報を伝えることだ」(The Elements of Journalism)と指摘する。市民の「知る権利」に応え、成熟したな議論に必要な真実に迫り、伝えていくことがジャーナリズムの役割である。しかし現実には、政府のプロパガンダを無批判に伝える「発表報道」や視聴率重視の報道がメディア不信を醸成する一因になっている。ネットが主流となり、「フェイクニュース」をはじめとする偽情報・語情報も深刻な問題となっている。信頼できる、新しいジャーナリズムのあり方が模索されている。

【演習 I～IVでおこなうこと】

本演習では、基本的な文献講読を通じ、デジタル時代のジャーナリズムの機能と課題について理解を深め、新しいジャーナリズムの形(ファクトチェックなど)について考える、また、ジャーナリズムの実践として、さまざまな社会問題について受講生が能動的な問題意識をもって調査・取材に取り組む力を身につけ、卒業論文(卒業作品)として、調査取材記事やデータ分析記事、ルポ、映像作品の制作をめざす。人数は限られるが、論文形式をめざす学生も受け入れる。

◎ファクトチェックとデジタル・ジャーナリズムの実習

SNSの投稿や政治家などの真偽不明の情報を検証するファクトチェックや、デジタル時代に必要なスキルとして、オープンソースを活用するオシント調査報道やデータ・ジャーナリズムの手法を学ぶ。

◎ゼミウェブマガジンWaseggへの掲載

各演習で制作した記事・映像作品やファクトチェック記事はゼミ生のウェブマガジン『Wasegg』(<http://wasegg.com>)に随時掲載する。

【演習 I の概要】

文献講読と実習の両面で、ジャーナリズムに関する基礎力を養う。

文献講読では、ジャーナリズムの機能と課題について理論的に学ぶとともに、「フェイクニュース」の実情やファクトチェック活動についても理解を深める。

実習では、取材方法の基礎を学び、地域や大学、人物に焦点をあてた記事取材・制作する。

また、デジタル・スキルの基礎を習得し、ネット情報や政治言説などを対象にファクトチェックの実践をおこなう。

時間的に余裕があれば、演習 II でのグループ取材を想定し、取材テーマにしたい具体的な社会問題について調査し、取材の準備を進める。

【※ファクトチェック関係は主にサブゼミでおこなう予定】

<参考：社会問題の例示>

社会問題として、以下のようなものを例示できる＝新型コロナ感染症と社会、格差と貧困、ダイバーシティ、LGBTQ、政治とメディア、戦争とメディア、偽情報・誤情報、ファクトチェック、若者と政治・選挙、医療介護、社会の分断、差別と偏見、人口減社会、外国人と日本社会、原発問題、震災復興、沖縄基地問題、自然災害、気候変動、持続可能な社会など(あくまで例示であり、これらにこだわる必要はない)

授業の到達目標 Objectives

デジタル時代のジャーナリズムの機能と課題について理論的に理解する。また、自ら能動的な問題意識をもって問題に迫り、根拠をもって市民に伝えるコミュニケーション力を取材実習を通じて習得するとともに、情報の真偽を検証するためのデジタルスキルを身につけ、デジタル時代のジャーナリストの基礎力を養う。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示する

授業計画 Course Schedule

【ゼミ】

- 1週 ガイダンス
- 2週 取材・記事作成について講義（取材マニュアルなど）
- 3～5週 地域・人物もの企画案の報告と議論
- 6週 写実実習
- 7～10週 文献購読
- ビル・コバッチら『ジャーナリズムの原則』日本経済評論社2011。（原著”The Elements of Journalism”）を予定
- 11-14週 地域・人物もの企画記事の報告・議論 記事の完成

【サブゼミ】

- 1週 ファクトチェックとは（講義）
- 2-5週 ファクトチェックの手法の学習（過去のファクトチェック記事やFIJのClaimMonitorなどを利用）
- 6-9週 デジタルスキルの学習／メディア人セミナー
- 10-14週 ファクトチェック実践 ファクトチェック記事の完成
- 2023年9月中旬（予定）ゼミ合宿（訪問先での取材実習を含む研修旅行）を予定

※本授業は、新型コロナウイルス感染防止策を講じたうえで、対面授業を基本とします。感染の急拡大期には一時的なオンラインへの移行など柔軟に対応します。

教科書 Textbooks

演習で講読する文献は初回のガイダンスまでに指示する。

参考文献 Reference Books

- B. Kovach & T. Rosenstiel "The Elements of Journalism" 3rd Edition, Three River Press, 2014（邦訳『ジャーナリズムの原則』加藤岳文／斎藤邦泰訳・日本経済評論社）
- B. Kovach & T. Rosenstiel "Blur: How to Know What's True in the Age of Information Overload" Bloomsbury Publishing plc, 2011（邦訳『インテリジェンス・ジャーナリズム』奥村信幸訳・ミネルヴァ書房）
- C. Silverman, "Verification Handbook for Investigative Reporting." European Journalism Centre.
- C. Silverman, "Verification Handbook for Disinformation and Media Manipulation." European Journalism Centre. 2020..
- E・パリサー 『フィルターバブル——インターネットが隠していること』井口耕二訳・早川書房
- W. リップマン 『世論（上）（下）』掛川トミ子訳・岩波文庫
- 『山本美香最終講義 ザ・ミッション 戦場からの問い』早稲田大学出版部
- 瀬川至朗 『科学報道の真相——ジャーナリズムとマスメディア共同体』ちくま新書

評価方法 Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	50%	期末レポート、学期中に提出してもらう企画記事、ファクトチェック記事
平常点評価 Class Participation	50%	ゼミへの出席、ゼミでの発表とレジュメ、他の受講生の発表への質疑などを総合的に評価する。
その他 Others	%	

備考・関連URL Note・URL

ゼミ合宿（研修旅行）を予定しています（2016年9月＝金沢、2017年9月＝沖縄、2018年9月＝福島、2019年9月＝沖縄、2020年・21年9月＝新型コロナ感染防止のため中止）。実施する場合は、ゼミ活動の一環として全員参加を原則にしています。

ジャーナリズム・メディア演習 I

2023

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
403	ジャーナリズム・メディア演習 I (高橋恭子)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	高橋 恭子
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		グローバル科目 > 演習 または 所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

ジャーナリズムの現在と未来～映像ジャーナリズムを中心に

授業概要 Course Outline

私たちは、インターネットによって新たなコミュニケーションの場や機会を生み出し、情報収集することで知識を集積することができる。しかし、同時にネット上にはデマ、偽情報、流言が飛び交い、現代は真実が犠牲にある「ポスト真実の時代」といわれる。フェイクニュースに立ち向かう対抗策としてのメディア・リテラシーが注目されているが、多くの場合、メディアの倫理的な活用という意味でとらえられ、メディアの問題を市民の側から批判的かつ多角的に見る視点が欠如している。

本ゼミでは、メディア・リテラシーに、情報の真偽を見分ける「ニュース・リテラシー」や「ファクトチェック」といった新たなリテラシーの要素を複合させ、デジタル時代に相応しいワークショップを再構築すると同時に、映像メディアに見られる問題を提起し、映像メディアの現在、未来を検証する。授業は理論と実践の両面からジャーナリズムにアプローチするクリティカルからクリエイティブな流れをデザインする。具体的には、1. 講義と討論「映像メディア検証」、2. 学生によるメディア分析、3. 学生による取材・調査・映像撮影 4. 次世代ジャーナリズム関連書の購読、5. 成果物（文章、映像、写真、Web等）の制作・発表・評価から構成する。映像メディア分析では、メディア・リテラシー研究の分析手法を採用し、I メディア・テキスト、II オーディエンス、III テキストの生産・制作の3つの領域から考察する。

本演習では、主体的に授業に参加し、自らの意見を根拠をもって主張し、かつ意見交流をできる基礎を形成することを目的とする。

授業の到達目標 Objectives

メディアをクリティカルに分析する力とメディアを創造する実践的な力を養う。

実践はドキュメンタリー、フォトストーリー、Webコンテンツ、ソーシャルメディアを利用したコンテンツなど個々の知識と能力によって選択する

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

文献やニュース番組分析を通して、メディアをクリティカル分析する力を養う。この経験から、自らテーマを設定し、取材活動を行う。取材した内容は、ゼミのサイトなどで原稿や映像として発表する。

授業計画 Course Schedule

授業の方向性とオリエンテーション/ニュース分析/購読
 ニュース分析/購読
 ニュース分析/エッセイ プレーンストーミング
 ニュース分析の質的分析のための課題提示/購読
 ニュース分析/購読
 エッセイ 第一稿発表
 エッセイ 第二稿提出
 ニュース分析/購読
 プロジェクトプレーンストーミング
 ワークショップ「ジェンダーの視点からニュースを見る」
 課題発表 ニュース分析/購読

プロジェクト中間報告
 ニュース・リテラシーワークショップ
 フェイク分析/購読
 ニュース分析発表/購読
 プロジェクト発表

教科書
Textbooks

そのつど、印刷物を配布する

参考文献
Reference Books

「ジャーナリズムの原則」ビル・コバッチ、トム・ローゼンスティール 日本経済評論社
 「インテリジェンス・ジャーナリズム」ビル・コバッチ、トム・ローゼンスティール ミネルヴァ出版
 「フェイクニュースを科学する」笹原和俊 化学同人
 「ファクトチェックとは何か」立岩陽一郎、楊井人文 岩波ブックレット

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	%	
その他 Others	100%	試験: 0%なし レポート: 25%メディア分析 メディアリテラシーの理解度。 平常点評価: 50%出席と授業の主体的参加度。 その他: 25%コンテンツのプランニングと実践力。

備考・関連URL
Note・URL

映像制作のための技術を身につけたい場合は、グローバルエデュケーションセンター開講の副専攻「ジャーナリズムとメディア表現」の「映像芸術表現」「制作プロジェクト研究」の映像系科目を受講することをお勧めします。

関連URL:

ゼミサイトは「Action! from critical to creative」

<http://www.waseda.jp/sem-kytwaseda/>

facebook「高橋恭子ゼミ」

ゼミ紹介

<https://www.waseda.jp/fpse/pse/news/2017/12/11/8269/>

本年度は原則、対面で実施する。コロナウィルスの感染拡大が認められた際は、リアルタイムによるオンライン授業とオンデマンドに移行する。

原則、3、4年合同で木曜日の4、5時限に実施します。卒論や3年生のプロジェクトのまとめ時期には別に実施することもあります。

ジャーナリズム・メディア演習 I

2023

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
404	ジャーナリズム・メディア演習 I (土屋礼子)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	土屋 礼子
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		グローバル科目 > 演習 または 所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

近現代史におけるメディアとプロパガンダ、およびジャーナリズム

授業概要 Course Outline

近現代の日本および欧米におけるメディアとジャーナリズムの発達の経緯を理解し、検閲制度をはじめとする政府との関係、政治家や政府機関などとジャーナリズムおよびメディアとの関係、世論を動かすためのプロパガンダという思想がどのように展開してきたかを、実証的に学び議論する。また、実際にメディアやジャーナリズムに関係した人々にインタビュー調査や資料探索を行ない、メディアの歴史や、メディアに対するアプローチのしかた、メディアの分析のしかたに関する知見を深め、年度末には各自が卒論テーマを見いだせるよう研究をすすめる。なお、2023年度は、ブロック紙記者のOBにインタビュー調査する予定である。

授業の到達目標 Objectives

メディアとジャーナリズムに関する基本的知識を学ぶだけでなく、それを活用し、自分で資料を探索し読み解き、思考する能力を養う。また実際にインタビュー調査を行う力量を育成する。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示する

授業計画 Course Schedule

第一回：オリエンテーション
第二回～第七回：英語文献講読
第八回～第十三回：日本語文献講読
第十四回：インタビュー調査の目的及び計画の説明と準備

教科書 Textbooks

初回の授業には、藤竹暁編著『図説 日本のメディア』（NHKブックス、2018年）を読んだ上で、持参すること。
その次からは、開講時に配布する英文テキストを読む。
以降は授業中に指示する。

参考文献 Reference Books

関連文献については、随時紹介する。

<p>評価方法 Evaluation</p>

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	30%	二回ほどレポートを指示する。
平常点評価 Class Participation	70%	英語文献及び日本語文献の講読の際に行う報告、発言、議論を評価対象とする。
その他 Others	%	

<p>備考・関連URL Note・URL</p>

基本的には教室での対面講義を行う。積極的な質疑応答、議論を評価します。

ジャーナリズム・メディア演習 I

2023

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
405	ジャーナリズム・メディア演習 I (中村理)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	中村 理
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		グローバル科目 > 演習 または 所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

内容分析を中心に用いたメディア・メッセージの実証研究 (演習I: ヒューマン・コーディング/演習II: コンピュータ・コーディング)

授業概要 Course Outline

本演習は、内容分析という手法を使ってメディアの送り出す情報を実証的に分析することを目標にしています。

あなたはメディアを通じて得る情報に疑問を持ったことはないでしょうか。たとえば、原発報道はどういった経緯を経て今にいたっているのか、経済問題に報道は一貫した姿勢で対処してきたのか、CMやドラマにあらわれるジェンダー観は時代とともにどう変わってきたのか、などです。こうした疑問のもととなる情報(メッセージ)は、日々、新聞やテレビ、インターネットなどから大量に発信されています。そこにはどういった特徴や傾向があり、その背後には発信者のこういった情報選択があるものでしょうか。

本演習では、こうしたあなたの興味を分析していきます。分析の主題は政治でもジェンダーでも文化でも構いません。また、対象は報道でも映画でもコマーシャルでもSNSでも構いません。マス・コミュニケーション上あるいはジャーナリズム上の興味をもって、メディアに流れる情報をぜひ実証的に・科学的に分析してみましょう!

そのために、本演習では内容分析という手法を学びます。内容分析とは、単に内容を分析するという抽象的なものを指すものではありません。どういう手順で何をすることが決まっている、ある科学的な分析手法の名称なのです。この内容分析では、メッセージの内容をコード(記号)化して分析します。たとえば、議題・争点を「政局」「政策」に分類したり、登場人物を「政治家」や「専門家」といったコードに分類したり、論調を「ポジティブ」や「ネガティブ」といったコードに分類したり、です。そして、それらコードが何回あらわれるかを数えるなどし、発信される情報を量にして、情報の特徴をとらえていきます。こうすることで、流れる情報を客観的に扱えるようにします。

コード化には主に2つの技法があります。当演習では(1)学部3年次前半(春学期)にヒューマン・コーディングという技法を、(2)後半(秋学期)にコンピュータ・コーディングという技法を学び、4年次に卒業研究に取り組みます。

内容分析は、マス・コミュニケーションやジャーナリズム研究によく使われるほか、企業が顧客のクチコミを分析してマーケティングに役立てることに利用されています。この手法を使って、ジャーナリズム、マス・コミュニケーション、あるいはメディア上の課題やあなたの疑問に挑みましょう。あなたの興味とやる気を、ぜひ具体的な形にしてみてください!

この演習では、一つの主題や目標を複数の受講者が共有し、チームで議論をしながら協調的に作業を進める活動を主体にしています。これにより、専門性を深めるだけでなく、チームの中で目標を共有し、困難に面したときに助け合ったり責任を分担したりして解決する経験をつんでみましょう。この経験は、将来、あなたが専門課程で研究を行ったり、職場で同僚と協調的に仕事をしたりする際に必ず役に立ちます。そして、簡単なようではなかなかそうではない実証的な調査・研究というものをぜひ経験してください! これは大学にいればこそできるものです。

授業の到達目標 Objectives

- ・実証的な調査の流れ（問題意識～仮説～調査計画～実施～結果の整理～分析～考察～結論）を経験し、その要領を学ぶ。
- ・分析法を習得する。（演習Iはヒューマン・コーディング、演習IIはコンピュータ・コーディング）
- ・分析力を高める。
- ・マス・コミュニケーション、ジャーナリズム、メディア上のなんらかの課題に建設的に言及する。
- ・チーム内でコミュニケーションをとりながら協動的に作業をし、課題を解決する。
- ・以上を通じ、特定の専門知識だけでなく、社会に出た際の汎用的なスキルを身につける。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

当演習は反転授業を取り入れています。授業後は次の授業に向けた準備を各自がおこない、教室では時間と場所をチームのメンバーと共有するメリットを活かして協調学習やチームワークに取りくみます。たとえば、論文を読む際には事前に読んだり演習問題に取り組んだりし、当日に教室で発表と議論をします。チームワークではその日までの進捗に応じて次までの目標をチームが自ら立て、それをもちよって次の授業をすすめます。

授業計画 Course Schedule

- 第1回：オリエンテーション
 - 第2回：内容分析とは？ I：研究論文を読む（プレ演習の論文読解の続き）／内容分析のデザインと実践1：調査主題を提案する・決める
 - 第3回：手法を学ぶ1：内容分析の歴史
 - 第4回：内容分析のデザインと実践2（チームワーク）：問いをたてる・対象をきめる・変数とカテゴリを設定する
 - 第5回：手法を学ぶ2：内容分析の設計
 - 第6回：内容分析のデザインと実践3（チームワーク）：テスト・コーディングを始める
 - 第7回：手法を学ぶ3：サンプリング
 - 第8回：内容分析のデザインと実践4（チームワーク）：テスト・コーディングをもとに計画を再検討する
 - 第9回：手法を学ぶ4：ヒューマン・コーディング
 - 第10回：内容分析のデザインと実践5a（チームワーク）：コーディング・マニュアルを完成させる I.
 - 第11回：内容分析のデザインと実践5b（チームワーク）：コーディング・マニュアルを完成させる II.
 - 第12回：手法を学ぶ5：信頼性を検定する
 - 第13回：内容分析のデザインと実践6（チームワーク）：コーディング結果を集計するI／コーダへ依頼する
 - 第14回：内容分析のデザインと実践7（チームワーク）：コーディング結果を集計するII／レポートにまとめる
- 学期末：成果を発表する：レポートの提出と発表（15週目にゼミ発表会）

教科書 Textbooks

必要に応じて授業内で提示

参考文献 Reference Books

- 必要に応じて提示。以下、参考まで：
- 有馬明恵『内容分析の方法』（ナカニシヤ出版、2007年）
 - クラウド・クリッペンドルフ『メッセージ分析の技法-「内容分析」への招待』（勁草書房、1989年）
 - ダニエル・リフ他『内容分析の進め方』（勁草書房、2018年）
 - 田崎篤郎・児島和人『マス・コミュニケーション効果研究の展開（改訂版）』（2003、北樹出版）
 - 竹下俊郎『メディアの議題設定機能—マスコミ効果研究における理論と実証（増補版）』（2008、学文社）
 - 佐渡島沙織・吉野亜矢子『これから研究を書くひとのためのガイドブック』（2008、ひつじ書房）
 - 戸田山和久『論文の教室』（日本放送出版協会）

評価方法 Evaluation

試験 Examinations	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	0%	試験は行いません。レポートを実施しない場合にのみ代替として検討します。
レポート Papers	30%	20--40%。半期ごとになんらかのまとめをおこないます。最終的に調査・分析の結果あるいはその進捗状況をレポートおよび発表資料にまとめたうえで発表します。その際の提出物、発表内容、貢献度で評価します。
平常点評価 Class Participation	55%	50--70%。授業への参加態度、課題・分析への取り組み、チームへの貢献をもとに評価します。各自が目的を持ち、主体的・協動的に作業することを重視します。
その他 Others	15%	10--20%。ゼミの運営や行事に協動的にかかわる活動を評価します。また、上記以外で特筆すべき事項、推奨履修科目の学習状況等も、ここに計上します。

備考・関連URL Note・URL

<https://semi.on-w.com/>

https://twitter.com/nakamura_semi

研究は主に、学生であるみなさん自身が次までの課題を決めて宿題を持ちより、メンバーと議論をしながらチームで協動的に作業をすることによって進めます。理科でいえば「実験」のようなもので、机上で考えるだけでなく、ポジティブなコミュニケーションで人と協働しながら手を動かし、自分なりのデータを分析してみたいという方に向いています。これまでの主題例は最新のものも含めて関連URL記載のサイトから見るることができます。

あなたはPCやプログラミングに習熟している必要はありません。苦手な方でもできる内容をこころがけてデザインしています。逆に、RやPythonでプログラミングをしたい方にはサブゼミ・卒論で個別に指導することも可能です。

ゼミ全体の流れは次の通りです。(1) まず、内容分析を使ってどういった研究ができるのかをプレ演習から演習Iにかけて学びます。同時に、プレ演習では内容分析の体験をします。(2) 演習Iではヒューマン・コーディングの手法を学びながら、それをを用いた調査プロジェクトをチームごとに実演します。(3) 同様に、演習IIではコンピュータ・コーディングの手法を学びながら、それをを用いた調査プロジェクトをチームごとに実演します。(4) 演習III～IVでは、卒業論文の作成を前提に進めます。ここではチーム内で主題を共有しながら、そのもとで一人ひとりが独立したプロジェクトに取り組みます。たとえば原発報道というチーム主題のもとで、あるものは新聞に取り組む、あるものはTVに取り組む、などです。それらの結果を卒業論文にまとめ、年度末に報告します。(5) 演習I～IVにかけては、並行して前後いずれかの時間にサブゼミを実施します。その中では、チームワークの補填をしたり、マス・コミュニケーション理論とジャーナリズム史、R、論文執筆法、エクセルの使い方、コンピュータ・コーディングの詳細、データ分析法といった基礎スキルを学んだりします。(6) また、各学期に2度ほど、サブゼミの時間にメディア・職業人ワークショップをおこないます。

春学期、秋学期演習とも、第15週に発表をおこないます。

学際領域演習 I

2023

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
501	学際領域演習 I (岡本暁子)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	岡本 暁子
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		グローバル科目 > 演習 または 所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

行動生態学と隣接諸科学I

授業概要 Course Outline

ヒトを含む地球上の生き物は、何千万年何億年という時間をかけて変化し、まわりの環境に適応してきた。行動生態学は、生物の行動と生態の進化に関わるさまざまな問題を扱う分野である。本演習では、行動生態学の基本的な知見を習得し、特定の生物もしくはトピックについての研究をする準備をすすめる。同時に、履修者の興味関心にあわせて、行動生態学の隣接諸科学についての知識も深めていく。

授業の到達目標 Objectives

行動生態学の基本的な知見を習得し、特定の生物もしくはトピックについての研究をする準備をする。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

指定されたテキストの予習復習をする。

授業計画 Course Schedule

第1回は演習のガイダンスを実施する。その後の回は、演習参加者による報告と討論、資料を参照しながらの討論などをおこなう。

教科書 Textbooks

第1回目の演習時に提示する。

参考文献 Reference Books

演習中に適宜紹介する。

評価方法 Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	50%	期末の発表とそのまとめを評価する。
平常点評価 Class Participation	50%	演習への出席、課題の達成度、討論への取り組みなどを、総合的に評価する。
その他 Others	%	

備考・関連URL
Note・URL

授業実施方法については適宜連絡する。

学際領域演習 I

2023

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
503	学際領域演習 I (マルティ・オロバル ベルナット)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	マルティ・オロバル ベルナット
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		グローバル科目 > 演習 または 所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

近世・近代における宗教思想 (西洋・日本の宗教事情を中心に)

History of Religious Thought in Modern and Contemporary Times (Religions in the West and Japan)

授業概要 Course Outline

このゼミでは思想史学・宗教社会学という視座より、西洋・日本における宗教史に対する理解を深め、宗教と社会、宗教と政治、宗教と道徳との関係について考えていきたい。「近代化と宗教」という問題、つまり近代化がもたらした様々な変化が宗教にどのような影響を与えたかを分析・理解するのがゼミの最終目標となる。先ず、近代は信教の自由と共に世俗化が進んだ時代であるといえる。その中で、科学の進歩と共に、新たな思想伝統が誕生し、宗教の意義を否定する思潮が台頭した。中には、近代化に適応し、宗教と科学を融合させようとした、宗教の内面化 (最近の用語を使用すれば「マインドフルネス化」) を試みようとした宗教家も存在する。しかし、その一方で、宗教界において近代化・新たな思潮に反発した原理主義も誕生し、宗教アイデンティティ問題、宗教と国家主義との深い関係も見られる。この二つの要素、「近代」及び「宗教」の複雑な関係についてゼミ生と一緒に考えていきたい。

This seminar is dedicated to the study of the history of religion in the West and Japan from the perspective of the history of ideas and the sociology of religion. We will consider topics as the relationship between religion and society, religion and politics, and religion and morality. The final goal of the seminar is to analyze and understand the interrelation of modernization and religion, that is, how the changes produced by modernization have affected religion. It can be said that modernity, especially in the West, is an era when secularization has spread, along with religious freedom. Together with the progress of science, new traditions of thought were born, and new currents of thought denying the significance of religion emerged. Some religious thinkers have tried to adapt to modernization and combine religion and science, or to interiorize (privatize) religion (as it can be seen in recent phenomena as the “mindfulness” trend). On the other hand, a completely different reaction to modernity in the religious world is fundamentalism, which denies modernization and all the new currents of thought. This ideological retreat, which is fundamentalism, is also intimately related to other questions, as religious identity problems and the relation between religion and nationalism. In sum, I would like to reflect upon the complex relationship between “modernity” and “religion” together with the seminar students.

授業の到達目標 Objectives

ゼミの主な目的を以下の要点にまとめる

- ・宗教思想史・宗教社会学の基礎知識を身につける。
- ・思想史・宗教思想史の観点から、西洋人・キリスト教信者のものの見方自体、そして彼らがどのように異文化・異宗教を理解したのかを分析する。
- ・日本の伝統的宗教について学び、その独自の変容、または西洋の影響による変容を理解する。
- ・宗教思想史・宗教社会学から現代世界や現代日本の宗教動向を学ぶ。

The main purposes of the seminar are summarized in the following points:

- ・Acquire basic knowledge of the history of religious thought and sociology of religion.
- ・Analyze the Westerner's (Christians) understanding of themselves, and how they viewed different

cultures and religions from the perspective of the history of religious thought.

- Learn about traditional Japanese religions and understand their transformations, and also how they were influenced by Western thought and religion.
- Learn about the religious trends of modernity from the perspective of the history of religious thought and sociology of religion.

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

教科書は特になく、事前に、文献リスト、課題となる論文等を配布する。基本的には日本語で著された文献(学生の能力・ニーズに応じて外国語で書かれた著作も使用する)を読解、分析し、その内容について皆で自由に討論する。また、卒論を書きたい学生は自分自身で問いを立て、自分にとって最も面白い研究主題を絞り、卒業論文を完成させる。宗教に関するものであれば、研究テーマの選択は完全に自由である。卒業論文の執筆で使用する可能な言語は日本語、スペイン語、英語、フランス語またはカタルーニャ語である。

We will not use any textbooks. I will distribute the reading materials (academic papers or book chapters) in advance. Students must read and analyze documents in Japanese (also use works written in foreign languages depending on students' abilities and needs) and discuss the contents freely with everyone. However, if members of the EDP join the seminar, I will try to provide materials in English. Students who want to write a graduation thesis must narrow down the research topics that are most interesting to them and complete their graduation thesis. As far as the research topic is related to religion, students have complete freedom to choose. Possible languages for writing the thesis are Japanese, English, Spanish, French, or Catalan.

授業計画 Course Schedule

- 第1回：導入
Introduction
- 第2回：中世ヨーロッパの世界観。中世ヨーロッパにおける宗教と社会、宗教と政治 I
Worldview of medieval Europe. Religion and Society, Religion and Politics in Medieval Europe I
- 第3回：中世ヨーロッパの世界観。中世ヨーロッパにおける宗教と社会、宗教と政治 II
Worldview of medieval Europe. Religion and Society, Religion and Politics in Medieval Europe II
- 第4回：中世ヨーロッパに誕生した「宣教」の意義
The meaning of "mission" in medieval Europe
- 第5回：大航海時代におけるキリスト教宣教活動（アメリカ・アジア）I
Christian missionaries during the Age of Discovery (their activities in America and Asia) I
- 第6回：大航海時代におけるキリスト教宣教活動（アメリカ・アジア）II
Christian missionaries during the Age of Discovery (their activities in America and Asia) II
- 第7回：ルネサンス文化と宗教改革
Renaissance Culture and Reformation
- 第8回：宗教改革と近世国家 I
Reformation and the Modern State I
- 第9回：宗教改革と近世国家 II
Reformation and the Modern State II
- 第10回：絶対君主制と宗教
Absolute monarchy and religion
- 第11回：西洋の植民地主義とキリスト教宣教師活動との関係 I
Relationship between Western colonialism and the Christian missionary I
- 第12回：西洋の植民地主義とキリスト教宣教師活動との関係 II
Relationship between Western colonialism and the Christian missionary II
- 第13回：啓蒙主義と宗教。政教分離の芽生えについて I
Enlightenment and religion. On the origin of the separation of Church and State I
- 第14回：啓蒙主義と宗教。政教分離の芽生えについて II
Enlightenment and religion. On the origin of the separation of Church and State II

教科書 Textbooks

参考文献 Reference Books

<p>評価方法 Evaluation</p>

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	50%	期末レポート
平常点評価 Class Participation	50%	演習への出席、課題の達成度、討論への取り組みなどを、総合的に評価する
その他 Others	%	

<p>備考・関連URL Note・URL</p>

学際領域演習 I

2023

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
504	学際領域演習 I (室井禎之)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	室井 禎之
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		グローバル科目 > 演習 または 所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

コミュニケーションとことば

授業概要 Course Outline

私たちの社会を作り上げているものはそのメンバー間のコミュニケーションです。もちろんコミュニケーションにはさまざまな種類のものがありますが、ここで取り上げるのは、ことばによるコミュニケーションです。しかしこれらとの関連で、異なるタイプのコミュニケーション（たとえばノンヴァーバルコミュニケーション）について考えることもできます。

参加者は自分の問題意識に従って研究テーマを設定することができます。たとえば、さまざまなタイプのコミュニケーションにおけることばの働き、言語のヴァリエーション（地域の変種、社会的変種など）、社会とことば、言語政策、対人関係のことば、異文化コミュニケーション、などが考えられます。授業では、それぞれの問題意識に沿って、どのようなアプローチがありうるのか、先行研究には何があるのかなどを案内しながら、考えます。演習ですから、学生の発表とディスカッションを中心に進めていきます。

あらゆるコミュニケーション形態の基礎となっているのは個人間のコミュニケーションです。そこにおけることばの働きについては、語用論 (Pragmatics) と呼ばれる言語学の一分野での研究を知ることが不可欠です。授業ではその主要な理論や分析方法についての導入も行います。また必要に応じてことばの働きそのものについての紹介もします。

授業の到達目標 Objectives

1. コミュニケーションとことばについて自覚的になり、自らのコミュニケーションを反省的に見、改善につなげる試みが行えるようにすること。
2. コミュニケーションに関わるファクターと、それらの働きについて知ること、他者のコミュニケーションを理解する能力を高めること。

以上2点が本演習の I から IV を通して学修することによって到達する目標です。最初の段階である I ではコミュニケーションとことばについて考えるための基礎を得ることに重点を置きます。具体的には、参加者の問題意識に対応するテーマの基本的な文献を選び、その理解を通じてコミュニケーションに対する感覚を養い、分析のための手法を得ます。また次の段階への展望を開きます。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

自分のテーマについての文献を探し、読み、発表を準備すること。ディスカッションにもとづき振り返りを行い、追加調査を行うこと。上記の作業を踏まえてレポートを執筆すること。教科書を読み、その内容について考察すること。授業後に振り返りを行うこと。

授業計画
Course Schedule

第1回：オリエンテーション

参加者に各自問題関心を出してもらい、それに応じた方向性を検討したり、参考文献を紹介します。また2回目以降の教科書講読および発表の分担を決めます。

第2回：文献講読・発表と討論

・教科書を読みながら、コミュニケーションにおけることばの働きについて学びます。参加者が分担して発表し、不明点などを全員で検討します。

・参加者が自分のテーマについて発表し、それを全員で検討しながら議論を深めてゆきます。

第3回：文献講読・発表と討論

・教科書を読みながら、コミュニケーションにおけることばの働きについて学びます。参加者が分担して発表し、不明点などを全員で検討します。

・参加者が自分のテーマについて発表し、それを全員で検討しながら議論を深めてゆきます。

第4回：文献講読・発表と討論

・教科書を読みながら、コミュニケーションにおけることばの働きについて学びます。参加者が分担して発表し、不明点などを全員で検討します。

・参加者が自分のテーマについて発表し、それを全員で検討しながら議論を深めてゆきます。

第5回：文献講読・発表と討論

・教科書を読みながら、コミュニケーションにおけることばの働きについて学びます。参加者が分担して発表し、不明点などを全員で検討します。

・参加者が自分のテーマについて発表し、それを全員で検討しながら議論を深めてゆきます。

第6回：文献講読・発表と討論

・教科書を読みながら、コミュニケーションにおけることばの働きについて学びます。参加者が分担して発表し、不明点などを全員で検討します。

・参加者が自分のテーマについて発表し、それを全員で検討しながら議論を深めてゆきます。

第7回：文献講読・発表と討論

・教科書を読みながら、コミュニケーションにおけることばの働きについて学びます。参加者が分担して発表し、不明点などを全員で検討します。

・参加者が自分のテーマについて発表し、それを全員で検討しながら議論を深めてゆきます。

第8回：文献講読・発表と討論

・教科書を読みながら、コミュニケーションにおけることばの働きについて学びます。参加者が分担して発表し、不明点などを全員で検討します。

・参加者が自分のテーマについて発表し、それを全員で検討しながら議論を深めてゆきます。

第9回：文献講読・発表と討論

・教科書を読みながら、コミュニケーションにおけることばの働きについて学びます。参加者が分担して発表し、不明点などを全員で検討します。

・参加者が自分のテーマについて発表し、それを全員で検討しながら議論を深めてゆきます。

第10回：文献講読・発表と討論

・教科書を読みながら、コミュニケーションにおけることばの働きについて学びます。参加者が分担して発表し、不明点などを全員で検討します。

・参加者が自分のテーマについて発表し、それを全員で検討しながら議論を深めてゆきます。

第11回：文献講読・発表と討論

・教科書を読みながら、コミュニケーションにおけることばの働きについて学びます。参加者が分担して発表し、不明点などを全員で検討します。

・参加者が自分のテーマについて発表し、それを全員で検討しながら議論を深めてゆきます。

第12回：文献講読・発表と討論

・教科書を読みながら、コミュニケーションにおけることばの働きについて学びます。参加者が分担して発表し、不明点などを全員で検討します。

・参加者が自分のテーマについて発表し、それを全員で検討しながら議論を深めてゆきます。

第13回：文献講読・発表と討論

・教科書を読みながら、コミュニケーションにおけることばの働きについて学びます。参加者が分担して発表し、不明点などを全員で検討します。

・参加者が自分のテーマについて発表し、それを全員で検討しながら議論を深めてゆきます。

第14回：文献講読・発表と討論

・教科書を読みながら、コミュニケーションにおけることばの働きについて学びます。参加者が分担して発表し、不明点などを全員で検討します。

・参加者が自分のテーマについて発表し、それを全員で検討しながら議論を深めてゆきます。

教科書
Textbooks

今井邦彦『語用論への招待』（大修館）

参考文献
Reference Books

D. スペルベル/D. ウィルソン『関連性理論』(研究社)
P. グライス『論理と会話』(勁草書房)
安井稔『言外の意味』(研究社)
J. サール『言語行為』(勁草書房)
他授業時に随時紹介する

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	50%	学期中の成果と次の段階への展望をまとめたレポートを学期末に提出
平常点評価 Class Participation	50%	授業時の口頭発表、およびその振り返り、ディスカッションへの参加状況
その他 Others	%	

備考・関連URL
Note・URL

学際領域演習 I

2023

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
505	学際領域演習 I (本野英一)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	本野 英一
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		グローバル科目 > 演習 または 所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

「長期の17世紀」以降の海洋秩序と日本

授業概要 Course Outline

「長期の17世紀」以降、スエズ運河からアメリカ西海岸にいたる「海の道」を中心とする海洋秩序が如何にして形成され、これが「海洋大国」をめざす中国の膨張政策によっていかに動揺しているのか。さらに日本は、この歴史的状況の中でどのような役割を担うことを要請されているのかを扱う。

授業の到達目標 Objectives

「長期の17世紀」以降のグローバル経済構造の連続が、現在の米中関係、日中関係を規定しているのだという理解ができるようになること。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

事前準備の仕方については、第1回目のオリエンテーションの時に説明する。学生は毎回テキストの指定された部分について要約を作成し、そこから経済史は何を研究課題としているのかを考察する。

授業計画 Course Schedule

第1回：オリエンテーション：テキストの概略紹介と演習形式の説明

本演習で読むテキストの解題と授業内容の説明。秋田滋編『アジアから見たグローバルヒストリー』序章を例にしたレジュメの作成方法、討論の仕方、参考文献である岡本隆司編『中国経済史』（名古屋大学出版会、2013年）水島司・加藤博・久保亨・島田龍登編『アジア経済史研究入門』（名古屋大学出版会、2015年）斎藤孝・西岡達裕『学術論文の技法』（日本エディタースクール、2005年）の使い方を教える。このほか、場合によっては中央図書館の参考図書室にある事典類の参照の仕方についても説明する。

第2回：斉藤修「近世一近代化比較経済発展論」

今回は、アジアの経済史を考察する上で、なぜ、ヨーロッパ、日本をも接点にした3点測量方式が必要なのかについて考える。

第3回：水島司「グローバルエコノミーの形成とアジア」

今回から第5回にかけては、主として南アジアと東南アジアに主点を設定し、グローバルエコノミーの形成にこの地域が果たしていた重要性について考える。第1回目は総論として、この地域がイギリスやオランダによって植民地化される時期に、地元商人、地主が果たしていた役割を考察する。

第4回：太田淳「ナマコとイギリス綿布—19世紀半ばにおける外島オランダ港の貿易」

今回は、東南アジアと中国大陸との経済関係を、主たる輸出入品、取引主体となっていた商人の実態に焦点を当てながら、東南アジア植民地と中国との関係について考察する。

第5回：ジョージ・ブライアン・スーザ「近世におけるグローバル商品と交易—セイロン・シナモン」

今回は、シナモンという香料の一種を取り上げ、その取引をめぐる西欧諸国がとっていた政策を追跡し、考察する。

第6回：島田龍登「近世ジャワ砂糖生産の世界史的位相」

今回は、「18世紀グローバルエコノミー」のもう一つの主要商品であった砂糖を事例に、その生産地と消費市場の実態、これを仲介していたオランダ東インド会社に光を当てて、考察する。

第7回：村上衛「中郷経済の発展と19世紀清朝のふたつの危機」

今回は、考察対象を中国大陸に変え、「グローバルエコノミー」に包摂された中国大陸で一体何が起きていたのか、という視点から清朝末期の中国経済史について考える。

第8回：秋田茂「経済援助・開発とアジア国際秩序」

今回からの4回は、考察対象時期を第二次世界大戦後に改める。今回は、第二次世界大戦後、独立を達成したアジア諸国、とりわけ南アジアの開発と、これにアメリカと日本が果たした役割について考察する。

第9回：前川一郎「独立期アフリカにおける地域経済関係—東アフリカ共同体（EAC）の経験—」

今回は、考察対象をアジアではなく、独立間もない頃のアフリカ大陸に設定し、被害アフリカ共同体の誕生と崩壊を通じて、アフリカ大陸の対外経済関係について考える。

第10回：久保亨「戦後東アジア綿業の複合的発展」

今回は、中国大陸、香港、台湾を中心に戦前からこの地域の工業発展の動員力であった綿工業の復興を通じて、この地域が相互に如何なる関係を持っていたのかを考察する。

第11回：杉原薫「戦後アジアにおける工業化型国際経済秩序の形成」

今回は、戦後の環太平洋経済圏の形成と、それが世界経済に及ぼした影響について考える。

第12回：パトリック・カール・オブライエン「グローバル市民のためのグローバルヒストリー」

今回は、著者の自伝を踏まえた方法論を読み、グローバル経済史を研究するとは、どういうことなのかについて討論する。

第13回：総括討論1

本書全体の内容について、全員で論じ合う。

第14回：総括討論2

参加者全員が教科書だけでなく、参考文献をも踏まえ、独自の行っていたゼミ論用の研究計画を発表し、その内容について互いに論評する。各人一人一人、読むべき参考文献と史料のリストを作成し、課題設定と共に提出していただく。

教科書 Textbooks

秋田滋編『アジアから見たグローバルヒストリー：「長期の18世紀」から「東アジアの経済的再興」へ』（ミネルヴァ書房、2013年）

参考文献 Reference Books

岡本隆司編『中国経済史』（名古屋大学出版会、2013年）

水島司・加藤博・久保亨・島田龍登編『アジア経済史研究入門』（名古屋大学出版会、2015年）

斎藤孝・西岡達裕『学術論文の技法』（日本エディタースクール、2005年）

評価方法 Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	0%	実施しない。
レポート Papers	60%	第13回と最終回時に、独自の論文構想レポートを発表し、提出してもらおう。特に最終回は、参加者一人一人が独自の先行研究リスト、読むべき史料とその所在をリスト化して提出していただく。
平常点評価 Class Participation	40%	毎回授業に先立って提出する疑問点メモの内容を判断する。
その他 Others	0%	特になし。

備考・関連URL Note・URL

春学期のアジア経済史の単位取得者、秋学期に私が担当する経済史入門Bの受講者、中国語圏（中国大陸、台湾、香港・澳門、シンガポール）留学経験者を優先的に採用する。また、12月に行うプレ学際領域演習には必ず参加すること。

学際領域演習 I

2023

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
506	学際領域演習 I (ロペスアルフレド)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	ロペス アルフレド
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		グローバル科目 > 演習 または 所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

西洋文学論

授業概要 Course Outline

文学はどう定義すればいいのか？その本質は何であるのか？読者は本を読むということから何が得られるのか？人間にとってフィクションが必要なのか？ヨーロッパではこのような質問に答えようとする人が、西洋文化が形成され始めるや否や次々に現れてきました。ギリシャ・ローマ時代からアリストテレス、ホラチウスを中心に文学についての考察は一つの欠かせない要因となっているのは間違いのないことです。18、19世紀のロマン主義を経て、とくに20世紀以降では人文科学の目覚ましい発展の中で文学論がなくてはならない学問として認められるようになりました。

この講義では西洋で文学について考えられたことを紹介しながら本を読むことはどこまで有意義で楽しいことなのかを確認して、様々な意味での文学の重要性を強調し、抽象的な考え方を発展させ西洋文化の理解を深めることを目指します。

授業の到達目標 Objectives

文学の理解を深める。これにより西洋文化をより分かりやすくする。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

文学の理解を深める。これにより西洋文化をより分かりやすくする。

授業計画 Course Schedule

- 第1回：本講義の目的と概要について説明します。
- 第2回：文学とは何か(1)
- 第3回：文学とは何か(2)
- 第4回：文学とは何か(3)
- 第5回：アリストテレスの「詩学」(1)
- 第6回：アリストテレスの「詩学」(2)
- 第7回：アリストテレスの「詩学」(3)
- 第8回：アリストテレスの「詩学」(4)
- 第9回：アリストテレスの「詩学」(5)
- 第10回：アリストテレスの「詩学」(6)
- 第11回：アリストテレスの「詩学」(7)
- 第12回：アリストテレスの「詩学」(8)
- 第13回：アリストテレスの「詩学」(9)
- 第14回：学生の発表

教科書 Textbooks

アリストテレス・ホラティウス 「私学・詩論」 岩波文庫
 プレ演習のほうで
 内多毅 「現代文学理論入門」 創元社を使用する。

参考文献
Reference Books

T. イーグルトン 「文学とは何か」 岩波書店

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	%	
その他 Others	100%	出席や授業に取り込んだこと、発表を評価する

備考・関連URL
Note・URL

